

たつの市国民健康保険
第3期 データヘルス計画
第4期 特定健康診査等実施計画

令和6（2024）年度～令和11（2029）年度



令和6年3月
兵庫県たつの市

目次

第1章 基本的事項	1
1 計画の概要	1
(1) 計画策定の趣旨	1
(2) 計画の位置づけ	2
(3) 標準化の推進	3
(4) 計画の期間	3
(5) 実施体制・関係者との連携	3
2 第2期データヘルス計画、第3期特定健康診査等実施計画の評価	4
(1) 保健事業の実施状況	4
(2) 第2期データヘルス計画、第3期特定健康診査等実施計画に係る考察	4
第2章 たつの市の現状	5
1 たつの市の概況	5
(1) 人口構成、産業構成	5
(2) 平均寿命・健康寿命	7
2 たつの市国民健康保険の概況	8
(1) 被保険者構成	8
第3章 たつの市国民健康保険の医療費・健康状況等に関する現状分析	10
1 死亡の状況	10
(1) 標準化死亡比（SMR・EBSMR）（悪性新生物、生活習慣病も含む）	10
(2) 疾病別死亡者数・割合	12
2 医療費の状況	14
(1) 医療機関受診状況（外来、入院、歯科）	14
(2) 医療費総額、一人当たり医療費（外来、入院、歯科）	16
(3) 疾病別医療費	18
(4) 高額医療費の要因	28
3 生活習慣病の医療費の状況	31
(1) 生活習慣病医療費	31
(2) 生活習慣病有病者数、割合	35
(3) 生活習慣病治療状況	39
4 特定健診・特定保健指導、生活習慣の状況	44
(1) 特定健診受診者数・受診率	44
(2) 有所見者の状況	46
(3) メタボリックシンドローム該当者・予備群人数、割合	50
(4) 特定保健指導実施率・効果と推移	57
5 生活習慣の状況	62

(1) 健診質問票結果とその比較	62
6 がん検診の状況	64
7 介護の状況（一体的実施の状況）	65
(1) 要介護（要支援）認定者人数・割合	65
(2) 介護保険サービス認定者一人当たりの介護給付費	66
(3) 要介護（要支援）認定者有病率	67
8 その他の状況	68
(1) 頻回重複受診者の状況	68
(2) ジェネリック普及状況	69
第4章 現状のまとめ 健康課題の明確化	72
1 健康課題の整理	72
(1) 第3期データヘルス計画で取り組むべき課題	72
(2) 第3期データヘルス計画で取り組むべき課題（目的）ごとに対応する個別保健事業	73
(3) 課題ごとの目標設定	74
2 計画全体の整理	75
(1) 第3期データヘルス計画の大目的	75
(2) 個別目的と対応する個別保健事業	75
第5章 保健事業の内容	76
1 個別保健事業計画	76
(1) 特定健康診査	76
(2) 特定健診未受診者対策	77
(3) 特定保健指導	78
(4) 特定保健指導未利用者対策（巡回訪問による特定保健指導未利用者勧奨）	79
(5) 特定健診40歳前受診勧奨	80
(6) 高血圧症、糖尿病重症化予防	81
(7) 糖尿病性腎症重症化予防	82
(8) ジェネリック医薬品差額通知	84
(9) 生活習慣病予防事業	85
(10) 重複・頻回受診者等の適正受診対策	86
第6章 計画の評価・見直し	87
1 評価の時期	87
(1) 個別事業計画の評価・見直し	87
(2) 個別保健事業の評価に基づくデータヘルス計画全体の評価・見直し	87
第7章 計画の公表・周知	87
1 計画の公表・周知	87

第8章 個人情報の取扱い..... 88

1 個人情報の取り扱い	88
-------------------	----

第9章 第4期 特定健康診査等実施計画 89

1 計画の背景・趣旨	89
(1) 計画策定の背景・趣旨	89
(2) 特定健康診査・特定保健指導を巡る国の動向	89
2 第3期計画における目標達成状況	91
(1) 全国の状況	91
(2) たつの市の状況	92
3 計画目標	96
(1) 国の示す目標	96
(2) たつの市の目標	96
4 特定健康診査・特定保健指導の実施方法	98
(1) 特定健康診査	98
(2) 特定保健指導	99
5 受診率・実施率向上に向けた主な取組	100
(1) 特定健康診査	100
(2) 特定保健指導	101
6 その他	102
(1) 計画の公表・周知	102
(2) 個人情報の保護	102
(3) 実施計画の評価及び見直し	102

第10章 参考資料 103

1 用語集	103
-------------	-----

第1章 基本的事項

1 計画の概要

(1) 計画策定の趣旨

平成25年6月に閣議決定された「日本再興戦略」において、「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータの分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市町村国保が同様の取組を行うことを推進する。」とされた。これを踏まえ、平成26年3月に「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」の一部が改正され、保険者は、健康・医療情報を活用してPDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るため、保健事業の実施計画（データヘルス計画）を策定した上で、保健事業の実施、評価、改善等を行うものとされた。

その後、平成30年4月から都道府県が財政運営の責任主体として共同保険者となり、また、令和2年7月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2020（骨太方針2020）」において、保険者のデータヘルス計画の標準化等の取組の推進が掲げられ、令和3年12月に経済財政諮問会議における「新経済・財政再生計画改革工程表2021」において、「保険者が策定するデータヘルス計画の手引きの改訂等を検討するとともに、当該計画の標準化の進展にあたり、保険者共通の評価指標やアウトカムベースでの適切なKPI（重要業績評価指標）の設定を推進する。」と示された。

こうした背景を踏まえ、たつの市では、被保険者の健康課題を的確に捉え、課題に応じた保健事業を実施することにより、健康の保持増進、生活の質（QOL）の維持及び向上を図り、結果として医療費の適正化にも資することを目的とし、データヘルス計画を策定し保健事業の実施、評価、改善等を行うこととする。

(2) 計画の位置づけ

データヘルス計画とは、被保険者の健康の保持増進に資することを目的として、保険者等が効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るため、特定健康診査（以下「特定健診」という。）と特定保健指導の結果、レセプトデータ等の健康及び医療情報を活用して、PDCAサイクルに沿って運用するものである。

また、本計画は健康増進法に基づく「基本的な方針」を踏まえるとともに、健康増進計画、医療費適正化計画等と、調和のとれたものとする。その際、他計画の計画期間、目的及び目標を把握し、データヘルス計画との関連事項及び関連目標を確認するプロセスが重要とされており、たつの市においても、他の計画における関連事項及び関連目標を踏まえ、データヘルス計画において推進、強化する取組等について検討していく。

(3) 標準化の推進

データヘルス計画が都道府県レベルで標準化されることにより、共通の評価指標による域内保険者の経年的なモニタリングができるようになるほか、地域の健康状況や健康課題の分析方法、計画策定、評価等の一連の流れを共通化することで、これらの業務負担が軽減されることが期待されている。たつの市では、兵庫県等の方針を踏まえ、データヘルス計画を運用することとする。

(4) 計画の期間

本計画の期間は、令和6年度（2024）から令和11年度（2029）までの6年間とする。

(5) 実施体制・関係者との連携

たつの市では、被保険者の健康の保持増進を図り、病気の予防や早期回復を図るために、国保担当課が中心となって、関係部署や関係機関の協力を得て、保険者の健康課題を分析し、計画を策定する。計画策定後は、計画に基づき効果的・効率的な保健事業を実施して、個別の保健事業の評価や計画の評価をし、必要に応じて計画の見直しや次期計画に反映させる。また、後期高齢者医療担当課や福祉事務所等と連携してそれぞれの健康課題を共有するとともに、後期高齢者等の健康課題も踏まえて保健事業を展開する。

計画の策定等に当たっては、共同保険者である兵庫県のほか、国民健康保険団体連合会（以下「国保連」という。）や国保連に設置される保健事業支援・評価委員会、地域の医師会、歯科医師会、薬剤師会等の保健医療関係者、保険者協議会、後期高齢者医療広域連合、地域の医療機関等と連携、協力する。

本計画は、被保険者の健康の保持増進が最終的な目的であり、その実効性を高める上では、被保険者自身が主体的かつ積極的に健康増進に取り組むことが重要である。

2 第2期データヘルス計画、第3期特定健康診査等実施計画の評価

(1) 保健事業の実施状況

個別目的	対応する個別保健事業	達成状況 (A,B,C,D,E)	継続可否
生活習慣病のリスク未把握者が多い (生活習慣病のリスク未把握者を減らす)	- 特定健康診査 - 特定健診未受診者対策 - 特定健診40歳前勧奨	- B - A - B	- このまま継続 - このまま継続 - 多少の見直し必要
メタボ該当・予備群割合が多い (メタボ該当・予備群割合を減らす)	- 特定保健指導 - 特定保健指導未利用者対策 - 生活習慣病予防事業（出前講座、健康運動の普及（自主トレーニング講習会、自主トレーニング、アクティブフィットネス教室、たっちゃん体操普及、ドラゴンウォーク登録）、広報ホームページ掲載）	- B - B - B	- このまま継続 - このまま継続 - このまま継続
受診勧奨値を超える人が多い (受診勧奨値を超える人を減らす)	- 高血圧症、糖尿病重症化予防 - 糖尿病性腎症重症化予防	- B - B	- このまま継続 - 多少の見直し必要
がん検診受診率が低い（がん検診受診率を上げる）	- がん検診等（肺がん・胃がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がん・肝炎ウイルス検診）	- B	- このまま継続（第4次健康増進計画にて継続）
後発医薬品の普及割合を上げる	- ジェネリック医薬品差額通知	- A	- このまま継続
不適切受診・服薬者を減らす	- 重複・頻回受診者の適正受診対策 - 医療費通知	- A - B	- このまま継続 - このまま継続

（達成状況：A 目標を達成、B 目標は達成できなかったが、目標に近い成果あり C 目標は達成できなかったが、ある程度の効果あり、D 効果があるとは言えない、E 評価困難）

(2) 第2期データヘルス計画、第3期特定健康診査等実施計画に係る考察

各事業の達成状況について、達成状況「A」の事業は「特定健診未受診者対策事業」「ジェネリック医薬品差額通知事業」「重複・頻回受診者の適正受診対策事業」であり、「B」の事業は「特定健康診査事業」「特定健診40歳前勧奨事業」「特定保健指導事業」「特定保健指導未利用者対策事業」「生活習慣病予防事業」「高血圧症、糖尿病重症化予防事業」「糖尿病性腎症重症化予防事業」「がん検診等事業」「医療費通知事業」であった。

また、各事業の継続については、すべての事業において、このまま継続または多少の見直しをしながら令和6年度以降も実施する。

第2章 たつの市の現状

1 たつの市の概況

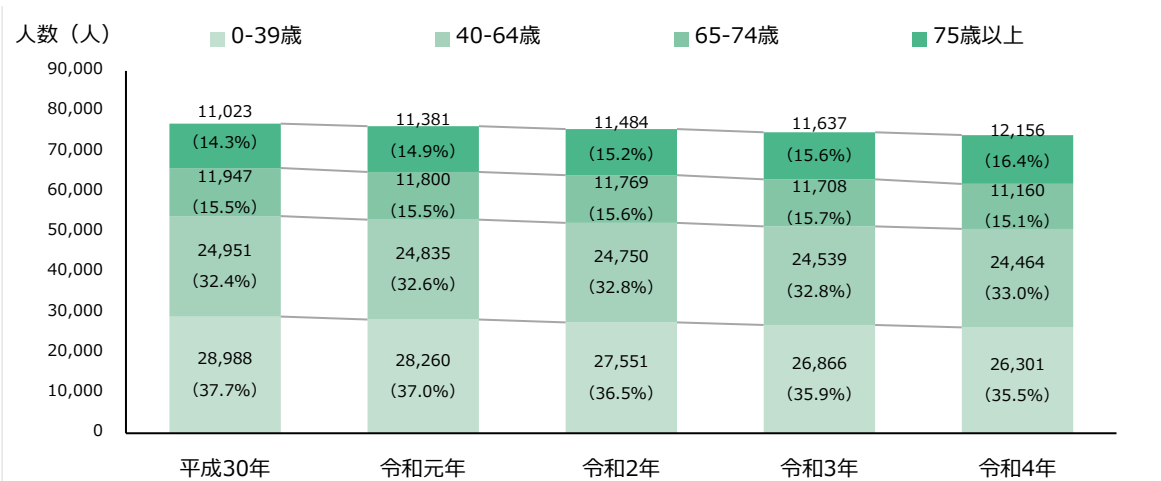
(1) 人口構成、産業構成

① 人口構成

令和4年の総人口は74,081人で、平成30年と比較して減少している（図表2-1-1-1）。また、0-39歳の割合は平成30年と比較して減少、40-64歳の割合は増加、65-74歳の割合は減少、75歳以上の割合は増加している。男女別では最も割合の大きい年代は70-74歳である（図表2-1-1-2）。

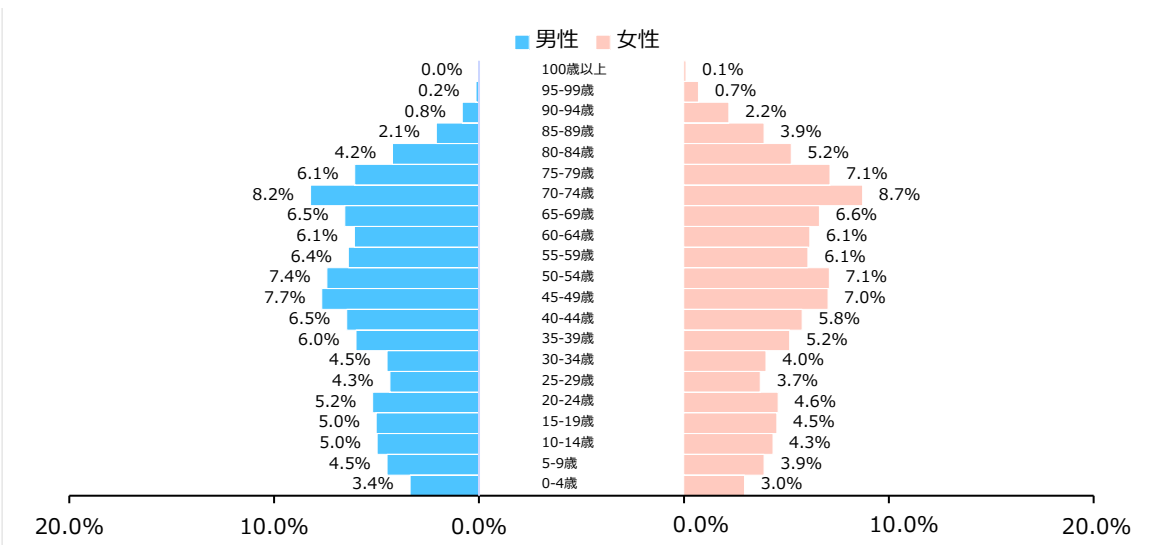
※「e-Stat住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（総人口）は当該年の1月1日時点の集計です。

図表2-1-1-1：人口の経年変化



【出典】e-Stat住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査 平成30年から令和4年

図表2-1-1-2：令和4年年代別人口割合（男女別・年代別）

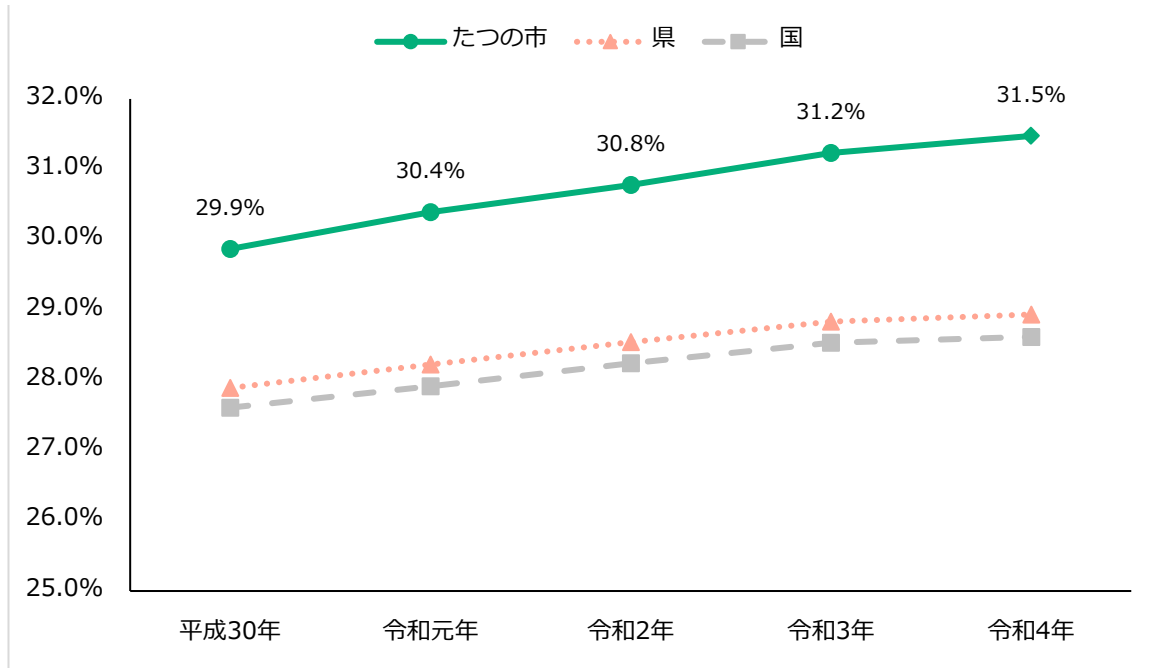


【出典】e-Stat住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査 令和4年

② 高齢化率

令和4年の高齢化率は31.5%であり、県・国と比較すると高い。また、平成30年と比較すると高齢化率は増加している（図表2-1-1-3）。

図表2-1-1-3：高齢化率（経年変化）



【出典】e-Stat 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査 平成30年から令和4年

人口		高齢者（65歳以上）			
		たつの市		県	国
		人数	割合	割合	割合
平成30年度	76,909	22,970	29.9%	27.9%	27.6%
令和元年度	76,276	23,181	30.4%	28.2%	27.9%
令和2年度	75,554	23,253	30.8%	28.5%	28.2%
令和3年度	74,750	23,345	31.2%	28.8%	28.5%
令和4年度	74,081	23,316	31.5%	28.9%	28.6%

【出典】KDB帳票 S21_006-被保険者構成 平成30年度から令和4年度
e-Stat 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査 平成30年から令和4年

③ 産業構成

産業構成の割合は、県と比較して第一、第二次産業の比率が高い（図表2-1-1-3）。

図表2-1-1-3：産業構成（平成27年、他保険者との比較）

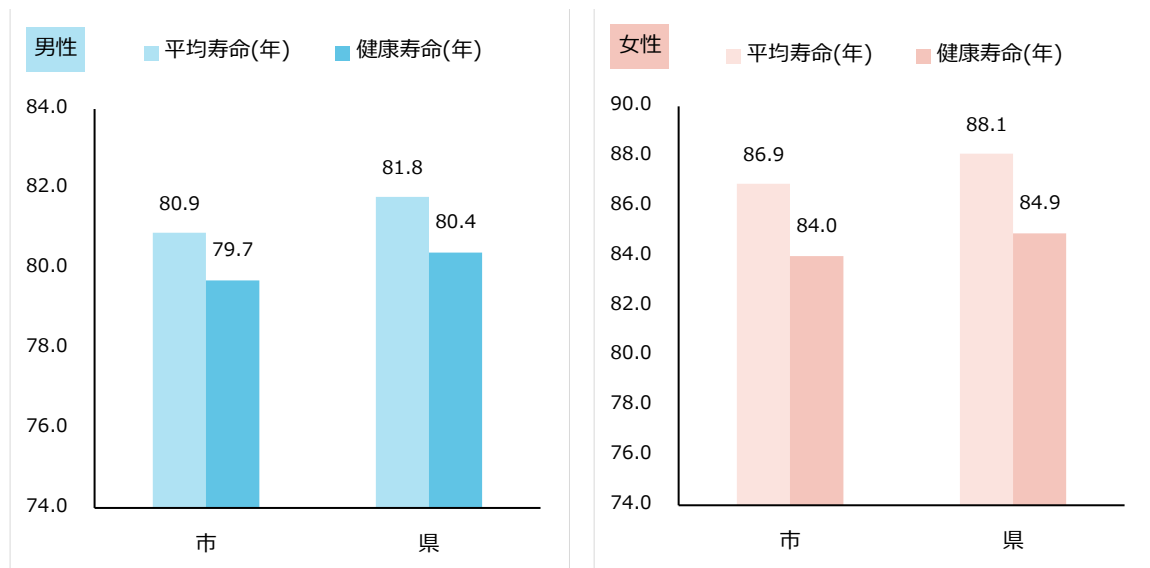
	たつの市		県	国
	平成27年	令和2年	令和2年	
第一次産業	3.0%	3.3%	1.8%	3.2%
第二次産業	37.2%	36.2%	24.8%	23.4%
第三次産業	59.8%	60.5%	73.4%	73.4%

【出典】国勢調査 都道府県・市区町村別の主な結果 平成27年・令和2年

（2）平均寿命・健康寿命

男女ともに平均寿命・健康寿命は県と比較して、短い。

図表2-1-2-1：平均寿命と健康寿命



【出典】兵庫県 令和2年健康寿命算定結果総括表

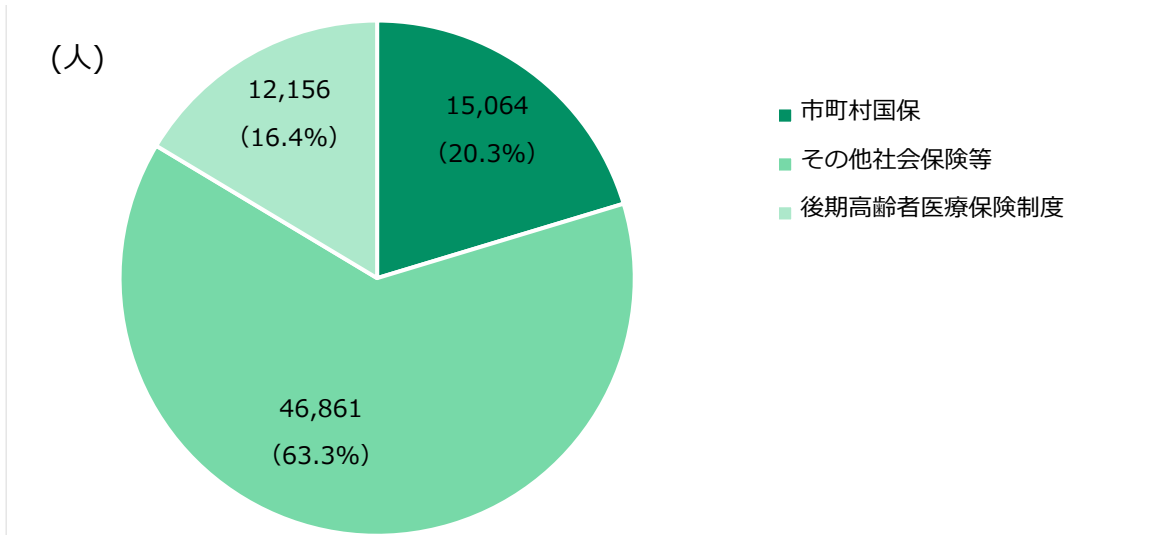
2 たつの市国民健康保険の概況

(1) 被保険者構成

保険制度別人口は、全体の20.3%が国民健康保険に加入している（図表2-2-1-1）。また、国保加入者数は、平成30年度以降減少傾向にある。年代別でみると65-74歳の割合は増加している（図表2-2-1-2）。

男女別の被保険者構成割合は、男女ともに70-74歳の割合が最も多く、男性は被保険者の14.3%を占め、女性は17.2%を占める（図表2-2-1-3）。

図表2-2-1-1：令和4年度保険制度別人口



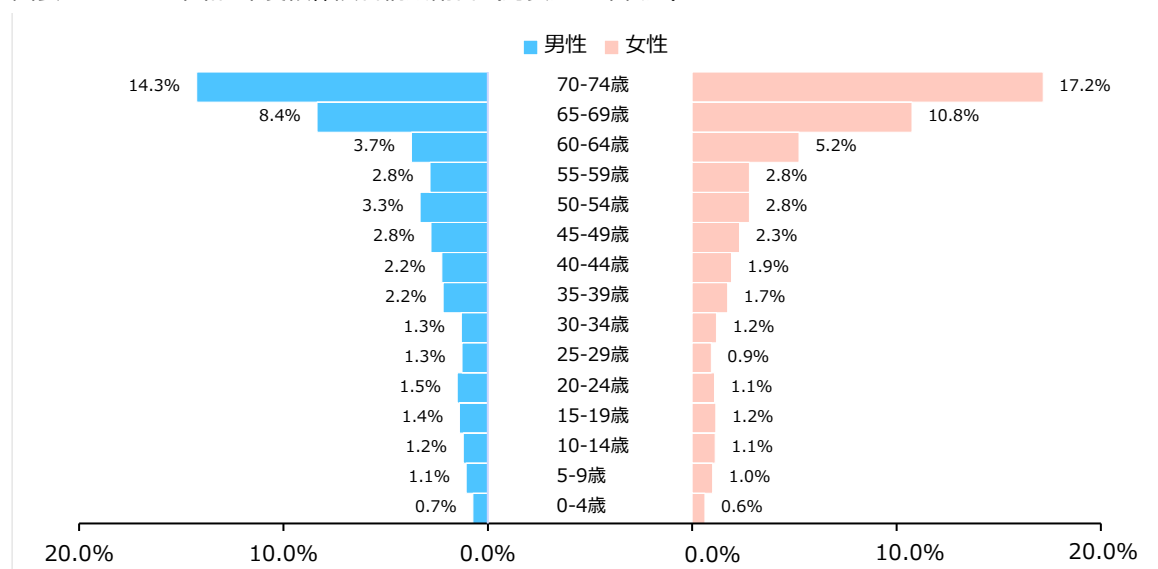
【出典】KDB帳票 S21_006-被保険者構成 令和4年度
e-Stat住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査 令和4年

図表2-2-1-2：国保加入者数の経年変化

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
0-39歳	3,721	(21.3%)	3,485	(20.6%)	3,314	(20.0%)	3,138	(19.5%)	2,932	(19.5%)
40-64歳	5,253	(30.1%)	5,054	(29.9%)	4,929	(29.7%)	4,728	(29.4%)	4,520	(30.0%)
65-74歳	8,493	(48.6%)	8,355	(49.5%)	8,351	(50.3%)	8,218	(51.1%)	7,612	(50.5%)
国保加入者数	17,467	(100%)	16,894	(100%)	16,594	(100%)	16,084	(100%)	15,064	(100%)
市_総人口	76,909		76,276		75,554		74,750		74,081	
市_国保加入率	22.7%		22.1%		22.0%		21.5%		20.3%	
県_国保加入率	21.0%		20.4%		20.3%		19.9%		19.1%	
国_国保加入率	22.0%		21.3%		21.0%		20.5%		19.7%	

【出典】KDB帳票 S21_006-被保険者構成 平成30年度から令和4年度
e-Stat住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査 平成30年から令和4年

図表2-2-1-3：令和4年度被保険者構成割合（男女別・年代別）



【出典】KDB帳票 S21_006-被保険者構成 令和4年度

第3章 たつの市国民健康保険の医療費・健康状況等に関する現状分析

1 死亡の状況

(1) 標準化死亡比（SMR・EBSMR）（悪性新生物、生活習慣病も含む）

① 男性における標準化死亡比

国の平均を100とした標準化死亡比（EBSMR）において、100を上回り、かつ県よりも高い死因は、男性では、「悪性新生物（胃）」「悪性新生物（肝及び肝内胆管）」「悪性新生物（気管、気管支及び肺）」「心疾患」「脳血管疾患」「肺炎」「腎不全」「自殺」である（図表3-1-1-2）。

※EBSMRについて、有意水準は記載していない。

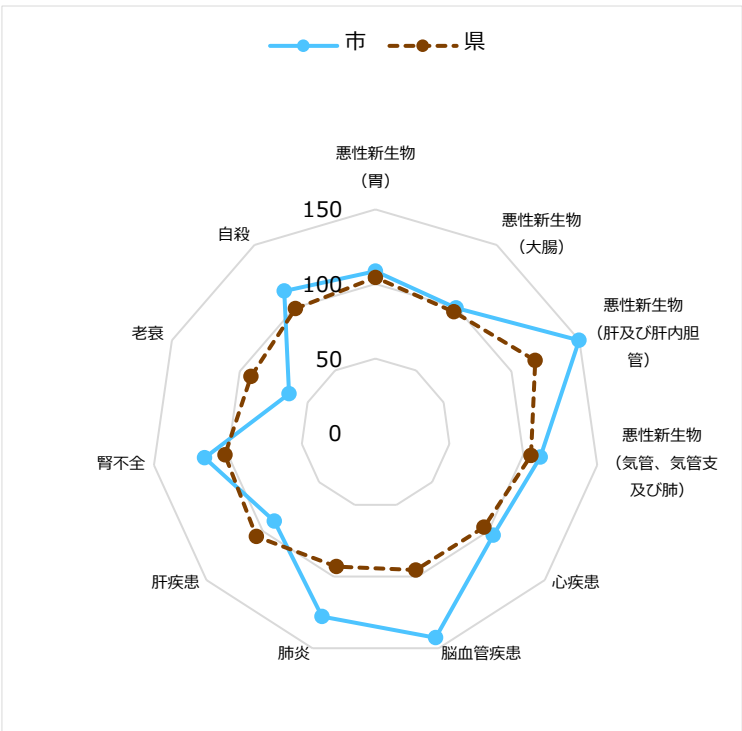
図表3-1-1-1：SMR（男性）

	悪性新生物＜腫瘍＞	心疾患（高血圧性を除く）	脳血管疾患
たつの市	111.1	106.0	152.7
県	102.7	96.0	95.4
国	100.0	100.0	100.0

【出典】e-Stat人口動態統計 平成25年から平成29年

図表3-1-1-2：EBSMR（男性）

死因	市	県
悪性新生物（胃）	108.6	104.4
悪性新生物（大腸）	99.9	96.8
悪性新生物（肝及び肝内胆管）	149.9	117.6
悪性新生物（気管、気管支及び肺）	111.4	105.2
心疾患	104.3	96.0
脳血管疾患	142.7	95.4
肺炎	127.8	93.0
肝疾患	89.9	105.7
腎不全	115.7	102.0
老衰	63.7	91.7
自殺	113.3	99.3



【出典】e-Stat人口動態統計 平成25年から平成29年

② 女性における標準化死亡比

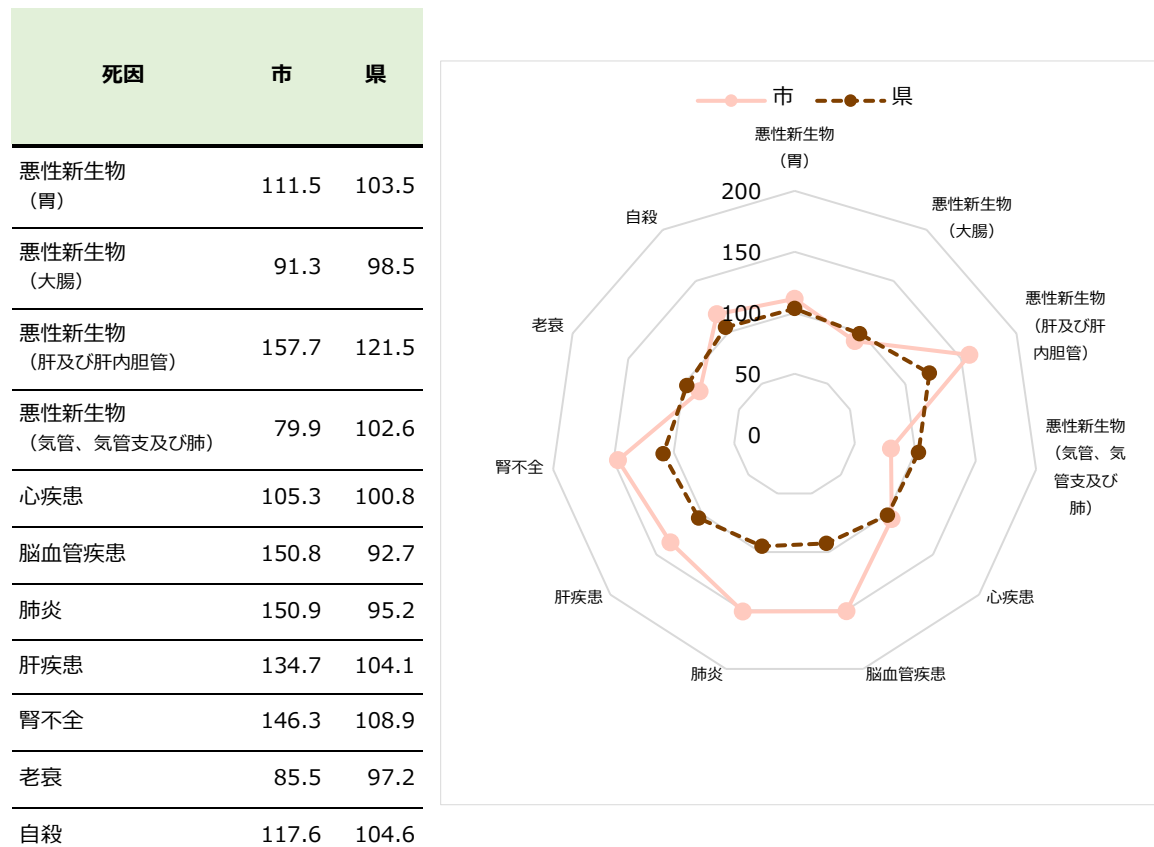
国の平均を100とした標準化死亡比（EBSMR）において、100を上回り、かつ県よりも高い死因は、女性では、「悪性新生物（胃）」「悪性新生物（肝及び肝内胆管）」「心疾患」「脳血管疾患」「肺炎」「肝疾患」「腎不全」「自殺」である（図表3-1-1-4）。

図表3-1-1-3：SMR（女性）

	悪性新生物＜腫瘍＞	心疾患（高血圧性を除く）	脳血管疾患
たつの市	96.3	105.8	161.4
県	101.5	100.8	92.7
国	100.0	100.0	100.0

【出典】e-Stat人口動態統計 平成25年から平成29年

図表3-1-1-4：EBSMR（女性）



【出典】e-Stat人口動態統計 平成25年から平成29年

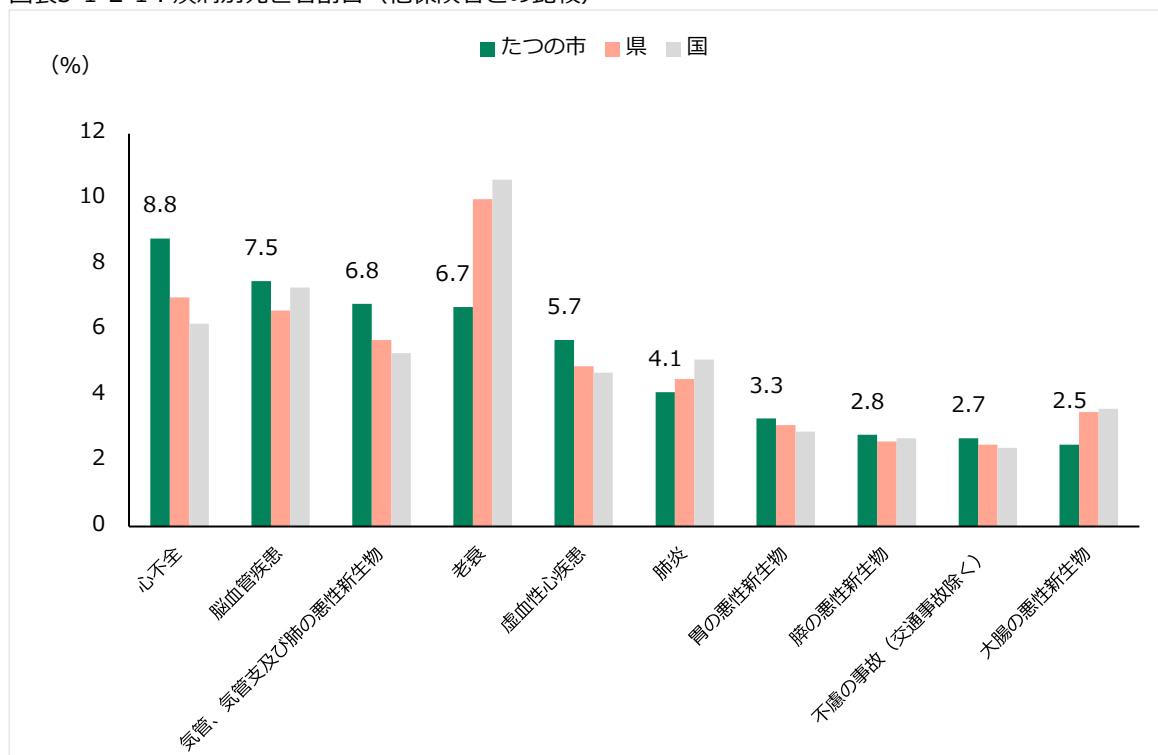
(2) 疾病別死亡者数・割合

令和3年の死亡総数に占める割合が大きい疾病の第1位は「心不全」（8.8%）であり、県・国と比較すると割合が高い（図表3-1-2-1）。

次いで第2位は「脳血管疾患」（7.5%）であり、県・国と比較すると割合が高く、第3位は「気管、気管支及び肺の悪性新生物」（6.8%）であり、県・国と比較すると割合が高い。

保健事業により予防可能な疾患における健康課題を抽出するという観点で、生活習慣病の重篤な疾患に焦点をあてて死因別の順位と割合をみると、「脳血管疾患」は第2位（7.5%）、「虚血性心疾患」は第5位（5.7%）、「腎不全」は第11位（2.3%）となっている。

図表3-1-2-1：疾病別死亡者割合（他保険者との比較）



【出典】厚生労働省 人口動態調査 令和3年

図表3-1-2-2：傷病別死亡者数・割合（他保険者との比較）

順位	死因	たつの市		県	国
		死亡者数（人）	割合		
1位	心不全	87	8.8%	7.0%	6.2%
2位	脳血管疾患	74	7.5%	6.6%	7.3%
3位	気管、気管支及び肺の 悪性新生物	67	6.8%	5.7%	5.3%
4位	老衰	66	6.7%	10.0%	10.6%
5位	虚血性心疾患	56	5.7%	4.9%	4.7%
6位	肺炎	41	4.1%	4.5%	5.1%
7位	胃の悪性新生物	33	3.3%	3.1%	2.9%
8位	脾の悪性新生物	28	2.8%	2.6%	2.7%
9位	不慮の事故（交通事故 除く）	27	2.7%	2.5%	2.4%
10位	大腸の悪性新生物	25	2.5%	3.5%	3.6%
-	その他	487	49.1%	49.6%	49.2%
-	死亡総数	991	-	-	-

【出典】厚生労働省 人口動態調査 令和3年

2 医療費の状況

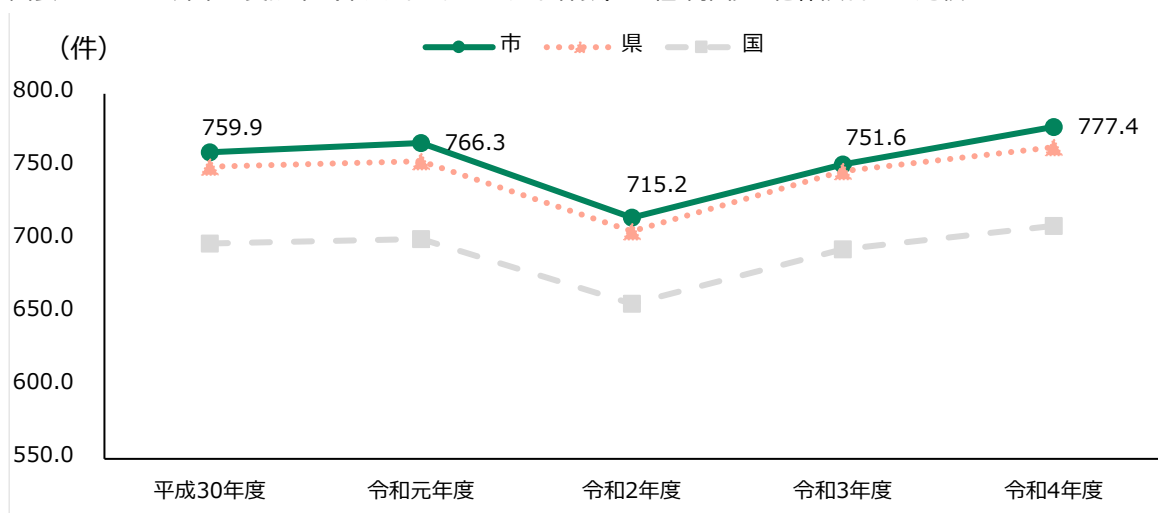
(1) 医療機関受診状況（外来、入院、歯科）

令和4年度の外来受診率は、県・国と比較すると高い。また、平成30年度と比較すると受診率は高くなっている（図表3-2-1-1）。

入院受診率では、県・国と比較すると高く、平成30年度と比較すると受診率は低くなっている（図表3-2-1-2）。

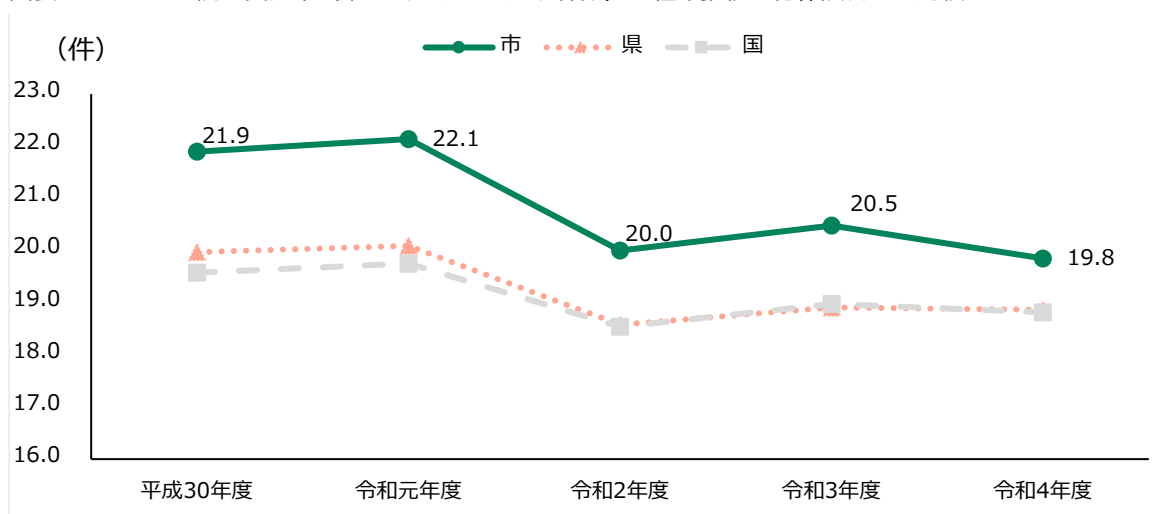
歯科受診率では、県・国と比較すると高く、平成30年度と比較すると受診率は高くなっている（図表3-2-1-3）。

図表3-2-1-1：外来の受診率（千人当たりレセプト件数）の経年推移・他保険者との比較



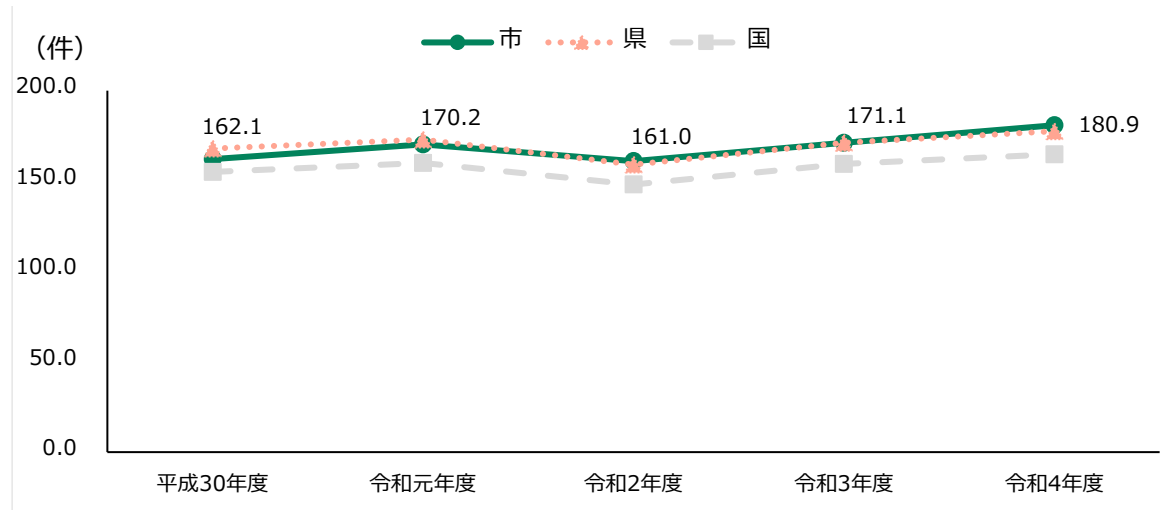
【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 累計 平成30年度から令和4年度 累計

図表3-2-1-2：入院の受診率（千人当たりレセプト件数）の経年推移・他保険者との比較



【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計

図表3-2-1-3：歯科の受診率（千人当たりレセプト件数）の経年推移・他保険者との比較



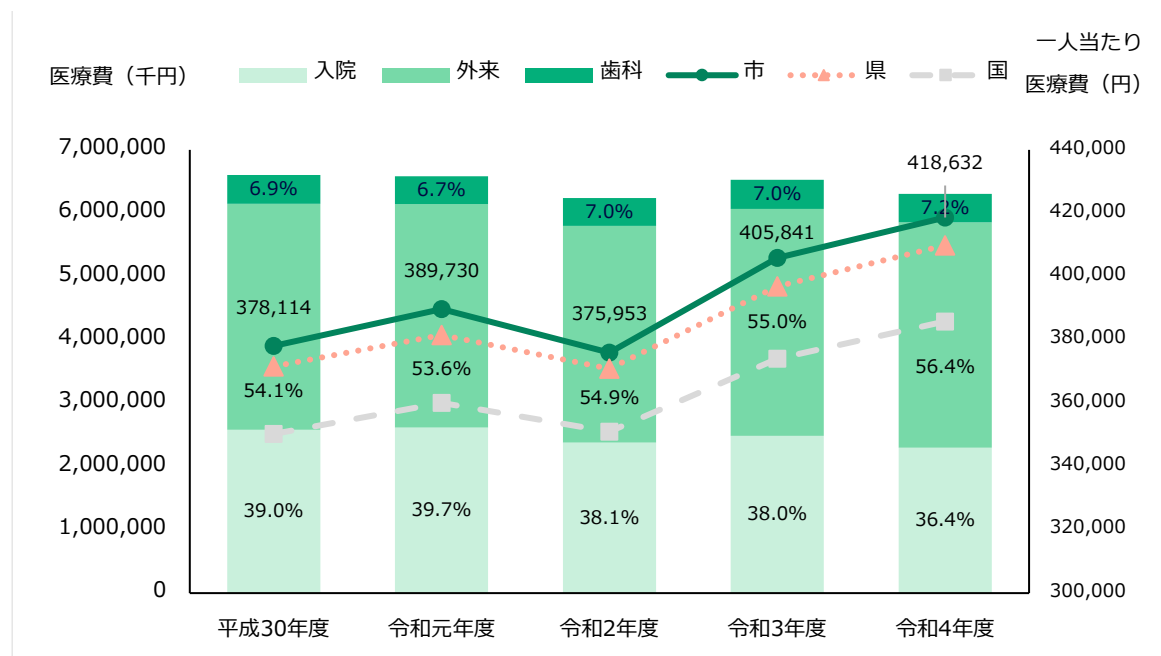
【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計

(2) 医療費総額、一人当たり医療費（外来、入院、歯科）

令和4年度の医療費総額は約63億628万円であり、平成30年度と比較して医療費は減少している（図表3-2-2-1）。令和4年度における総医療費に占める外来・歯科医療費の割合は平成30年度と比較して増加している。一方、入院医療費の割合は平成30年度と比較して減少している。

一人当たり医療費は県・国と比較すると高く、平成30年度と比較して増加している。

図表3-2-2-1：医療費総額の経年変化

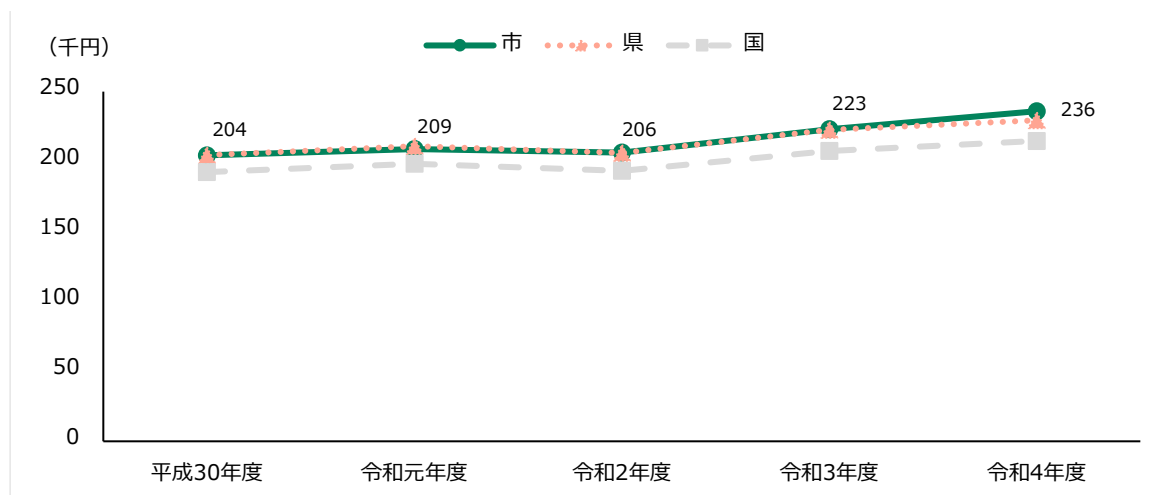


※グラフ内の%は、総医療費に対する割合を示す。

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
医療費 (千円)	総額	6,604,515	6,584,099	6,238,556	6,527,552	6,306,279
	入院	2,578,416	2,612,813	2,375,038	2,480,967	2,298,565
	外来	3,571,271	3,528,505	3,425,788	3,588,408	3,555,108
	歯科	454,827	442,781	437,730	458,177	452,606
一人当たり 医療費 (円)	たつの市	378,114	389,730	375,953	405,841	418,632
	県	371,655	381,491	370,863	396,880	409,854
	国	350,272	360,110	350,944	374,029	385,812

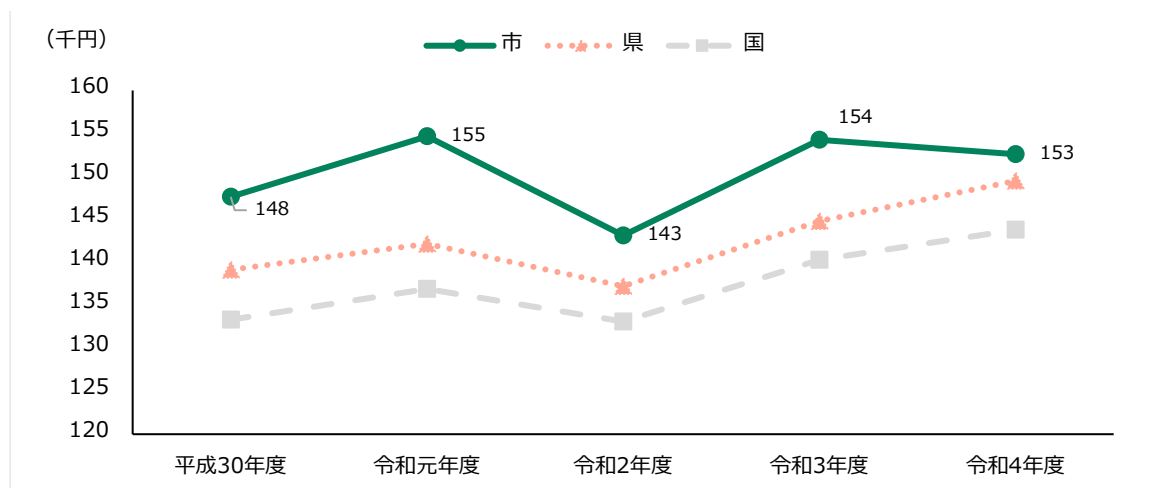
【出典】 KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計

図表3-2-2-2：一人当たり外来医療費の経年変化・他保険者との比較



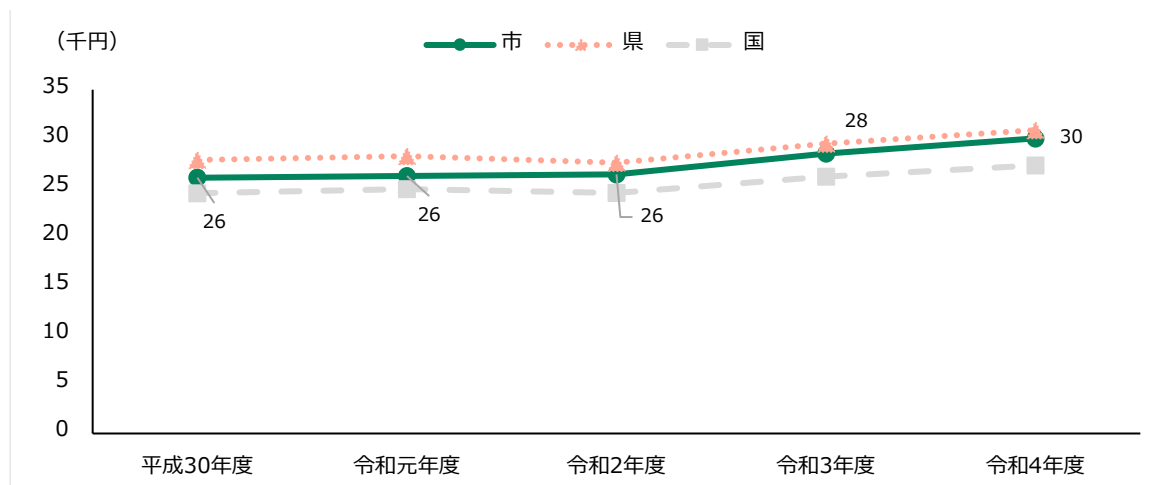
【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計

図表3-2-2-3：一人当たり入院医療費の経年変化・他保険者との比較



【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計

図表3-2-2-4：一人当たり歯科医療費の経年変化・他保険者との比較



【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計

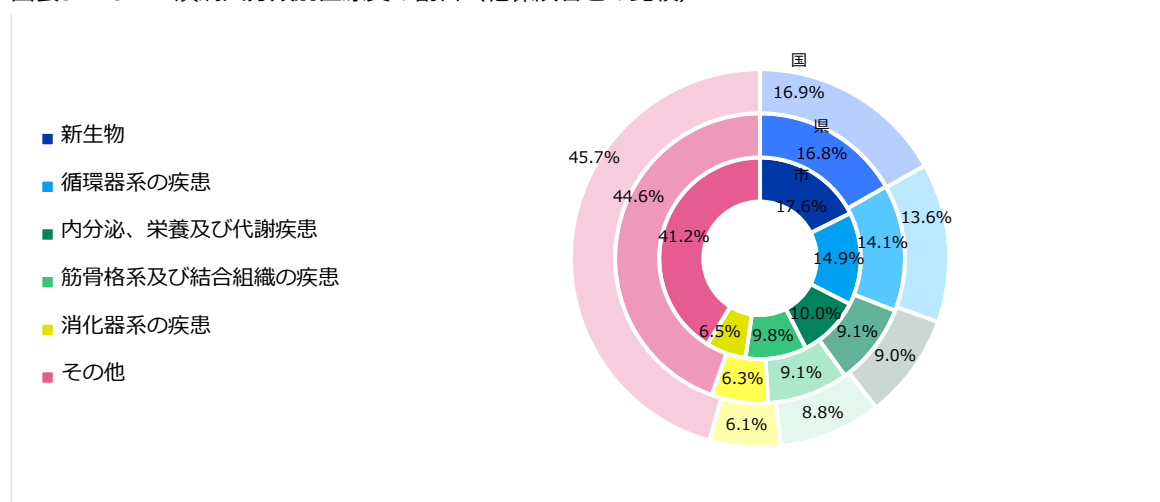
(3) 疾病別医療費

① 大分類の疾病別医療費

令和4年度の疾病大分類別医療費において、医療費が最も高い疾病は「新生物」で、年間医療費は約10億2,800万円で総医療費に占める割合は（17.6%）である。次いで高いのは「循環器系の疾患」で約8億6,800万円（14.9%）である。これら2疾病で総医療費の32.5%を占めている（図表3-2-3-1）。

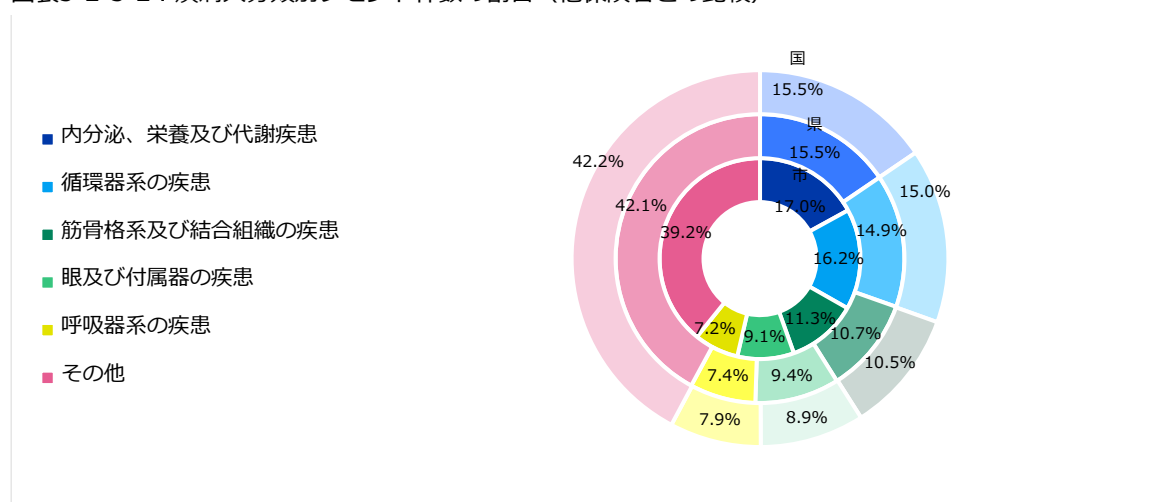
また、「その他」を除いたレセプト件数において、レセプト件数が最も多い疾病は「内分泌、栄養及び代謝疾患」で、レセプト件数に占める割合は17.0%である。次いで高いのは「循環器系の疾患」（16.2%）で、これらの疾病で総レセプト件数の33.2%を占めている（図表3-2-3-2）。

図表3-2-3-1：疾病大分類別医療費の割合（他保険者との比較）



【出典】KDB帳票 S23_003-疾病別医療費分析（大分類） 令和4年度 累計

図表3-2-3-2：疾病大分類別レセプト件数の割合（他保険者との比較）



【出典】KDB帳票 S23_003-疾病別医療費分析（大分類） 令和4年度 累計

図表3-2-3-3：疾病大分類別医療費

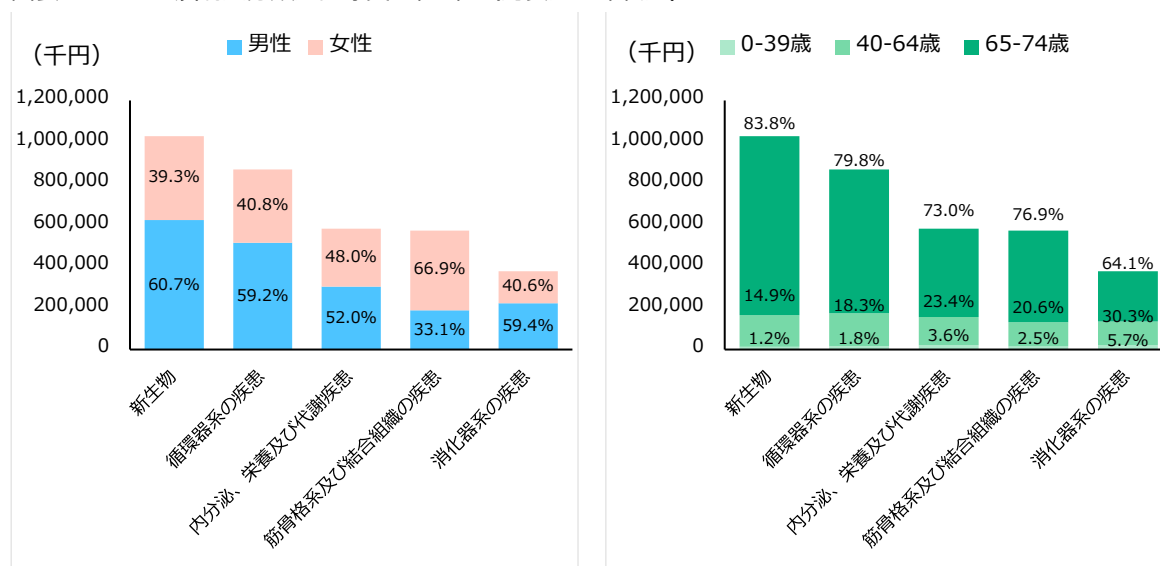
順位	疾病名	医療費 (千円)	割合 (医療費)	レセプト 件数	割合 (レセプト件数)	千人当たり レセプト件数	レセプト一件 当たり医療費 (円)
1位	新生物	1,027,912	17.6%	5,580	3.7%	370.4	184,214
2位	循環器系の疾患	867,711	14.9%	24,305	16.2%	1613.4	35,701
3位	内分泌、栄養及び代謝疾患	581,911	10.0%	25,526	17.0%	1694.5	22,797
4位	筋骨格系及び結合組織の疾患	572,571	9.8%	16,993	11.3%	1128.1	33,695
5位	消化器系の疾患	376,523	6.5%	10,594	7.1%	703.3	35,541
6位	神経系の疾患	372,758	6.4%	6,550	4.4%	434.8	56,910
7位	尿路性器系の疾患	347,369	6.0%	5,575	3.7%	370.1	62,308
8位	精神及び行動の障害	316,115	5.4%	7,295	4.9%	484.3	43,333
9位	呼吸器系の疾患	295,932	5.1%	10,757	7.2%	714.1	27,511
10位	眼及び付属器の疾患	265,863	4.6%	13,682	9.1%	908.3	19,432
11位	損傷、中毒及びその他の外 因の影響	200,728	3.4%	3,149	2.1%	209.0	63,743
12位	感染症及び寄生虫症	96,960	1.7%	3,353	2.2%	222.6	28,917
13位	皮膚及び皮下組織の疾患	95,015	1.6%	5,956	4.0%	395.4	15,953
14位	血液及び造血器の疾患並び に免疫機構の障害	91,853	1.6%	290	0.2%	19.3	316,735
15位	症状、徴候及び異常臨床検 査所見で他に分類されない もの	65,504	1.1%	1,664	1.1%	110.5	39,366
16位	先天奇形、変形及び染色体 異常	27,945	0.5%	106	0.1%	7.0	263,635
17位	耳及び乳様突起の疾患	19,435	0.3%	1,292	0.9%	85.8	15,043
18位	周産期に発生した病態	7,118	0.1%	21	0.0%	1.4	338,949
19位	妊娠、分娩及び産じょく	6,524	0.1%	96	0.1%	6.4	67,956
-	その他	194,684	3.3%	7,274	4.8%	482.9	26,764
-	総計	5,830,431	-	-	-	-	-

【出典】KDB帳票 S23_003-疾病別医療費分析（大分類） 令和4年度 累計

疾病大分類別医療費の上位5位の疾病において、「新生物」「循環器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝疾患」「消化器系の疾患」は男性の割合が多く、「筋骨格系及び結合組織の疾患」は女性の割合が多い（図表3-2-3-4）。

年代別では、0-39歳・40-64歳の割合が最も多い疾病は「消化器系の疾患」であり、65-74歳では「新生物」である。

図表3-2-3-4：疾病大分類別医療費上位5位（男女別・年代別）



【出典】KDB帳票 S23_003-疾病別医療費分析（大分類） 令和4年度 累計

② 中分類の疾病別医療費上位10位

疾病中分類別入院医療費において、医療費が最も高い疾病は「その他の心疾患」であり、年間医療費は約1億7,600万円で入院医療費に占める割合は7.6%である（図表3-2-3-5）。

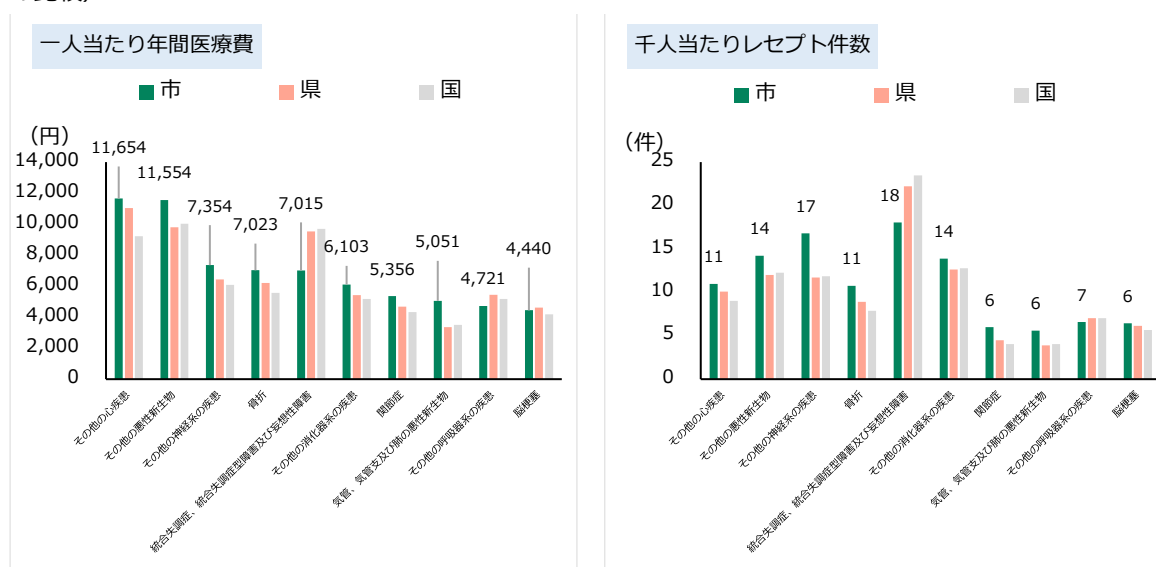
男女別・年代別において、男性では「その他の心疾患」の医療費が最も高く、なかでも65-74歳が多くを占めている。女性では「その他の悪性新生物」の医療費が最も高く、なかでも65-74歳が多くを占めている（図表3-2-3-7）。

図表3-2-3-5：疾病中分類別入院医療費上位10位

順位	疾病名	医療費 (千円)	割合 (医療費)	レセプト件数	割合 (レセプト件数)	千人当たり レセプト件数	レセプト一件当 り医療費 (円)
1位	その他の心疾患	175,559	7.6%	165	4.4%	11.0	1,063,991
2位	その他の悪性新生物	174,047	7.6%	214	5.7%	14.2	813,304
3位	その他の神経系の疾患	110,780	4.8%	253	6.8%	16.8	437,865
4位	骨折	105,797	4.6%	162	4.3%	10.8	653,066
5位	統合失調症、統合失調症型障害及び 妄想性障害	105,674	4.6%	272	7.3%	18.1	388,508
6位	その他の消化器系の疾患	91,942	4.0%	209	5.6%	13.9	439,912
7位	関節症	80,685	3.5%	90	2.4%	6.0	896,505
8位	気管、気管支及び肺の悪性新生物	76,094	3.3%	84	2.2%	5.6	905,876
9位	その他の呼吸器系の疾患	71,115	3.1%	99	2.7%	6.6	718,336
10位	脳梗塞	66,886	2.9%	97	2.6%	6.4	689,549

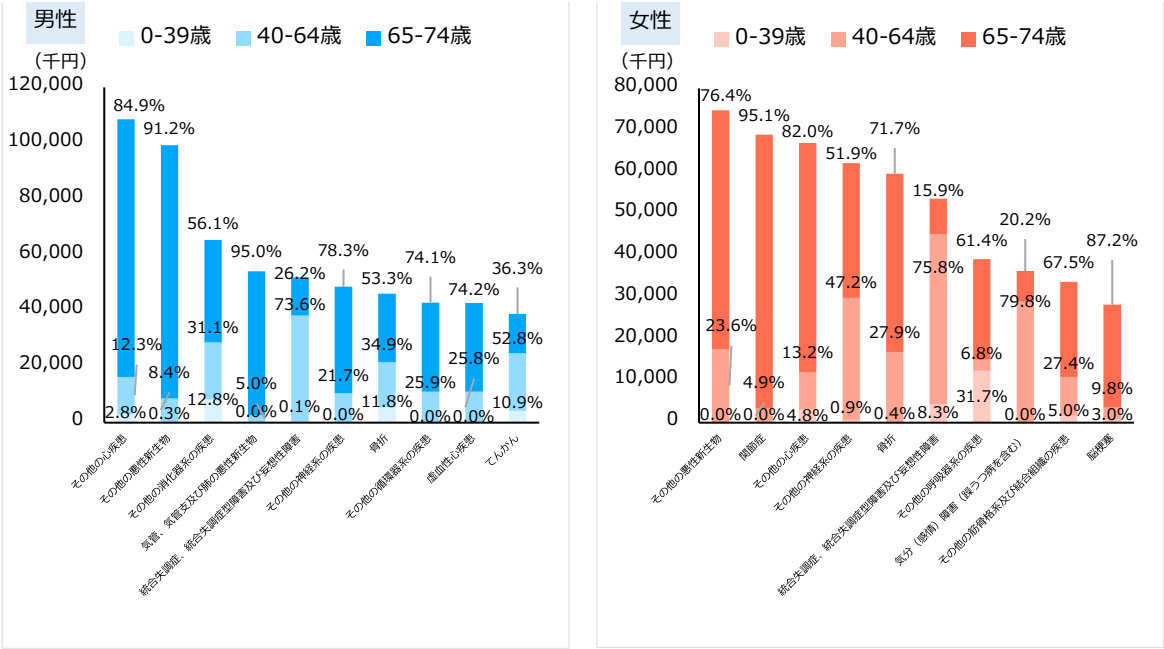
【出典】KDB帳票 S23_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和4年度 累計

図表3-2-3-6：疾病中分類別入院医療費上位10位一人当たり年間医療費・千人当たりレセプト件数（他保険者との比較）



【出典】KDB帳票 S23_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和4年度 累計

図表3-2-3-7：疾病中分類別入院医療費上位10位医療費（男女別・年代別割合）



【出典】KDB帳票 S23_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和4年度 累計

疾病中分類別外来医療費において、医療費が最も高い疾病は「糖尿病」であり、年間医療費は約3億7,600万円で外来医療費に占める割合は10.6%である（図表3-2-3-8）。

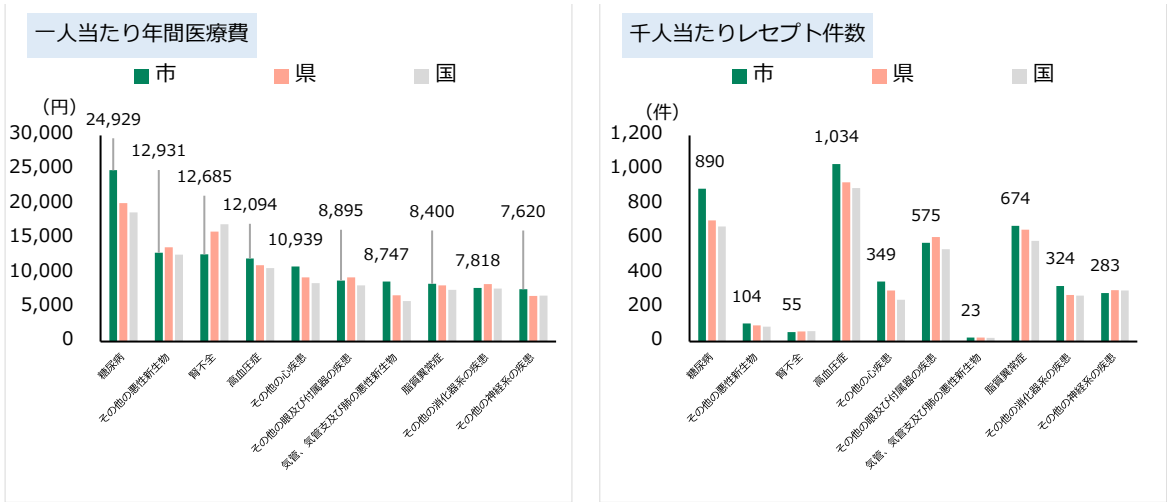
男女別・年代別において、男女ともに「糖尿病」の医療費が最も高く、なかでも65-74歳が多くを占めている（図表3-2-3-10）。

図表3-2-3-8：疾病中分類別外来医療費上位10位

順位	疾病名	医療費 (千円)	割合 (医療費)	レセプト件数	割合 (レセプト件数)	千人当たり レセプト件数	レセプト一件 当たり医療費 (円)
1位	糖尿病	375,535	10.6%	13,410	9.2%	890.2	28,004
2位	その他の悪性新生物	194,797	5.5%	1,573	1.1%	104.4	123,838
3位	腎不全	191,079	5.4%	825	0.6%	54.8	231,611
4位	高血圧症	182,181	5.2%	15,571	10.6%	1033.7	11,700
5位	その他の心疾患	164,790	4.7%	5,259	3.6%	349.1	31,335
6位	その他の眼及び付属器の疾患	133,996	3.8%	8,665	5.9%	575.2	15,464
7位	気管、気管支及び肺の悪性新生物	131,767	3.7%	354	0.2%	23.5	372,224
8位	脂質異常症	126,538	3.6%	10,146	6.9%	673.5	12,472
9位	その他の消化器系の疾患	117,771	3.3%	4,878	3.3%	323.8	24,143
10位	その他の神経系の疾患	114,790	3.2%	4,257	2.9%	282.6	26,965

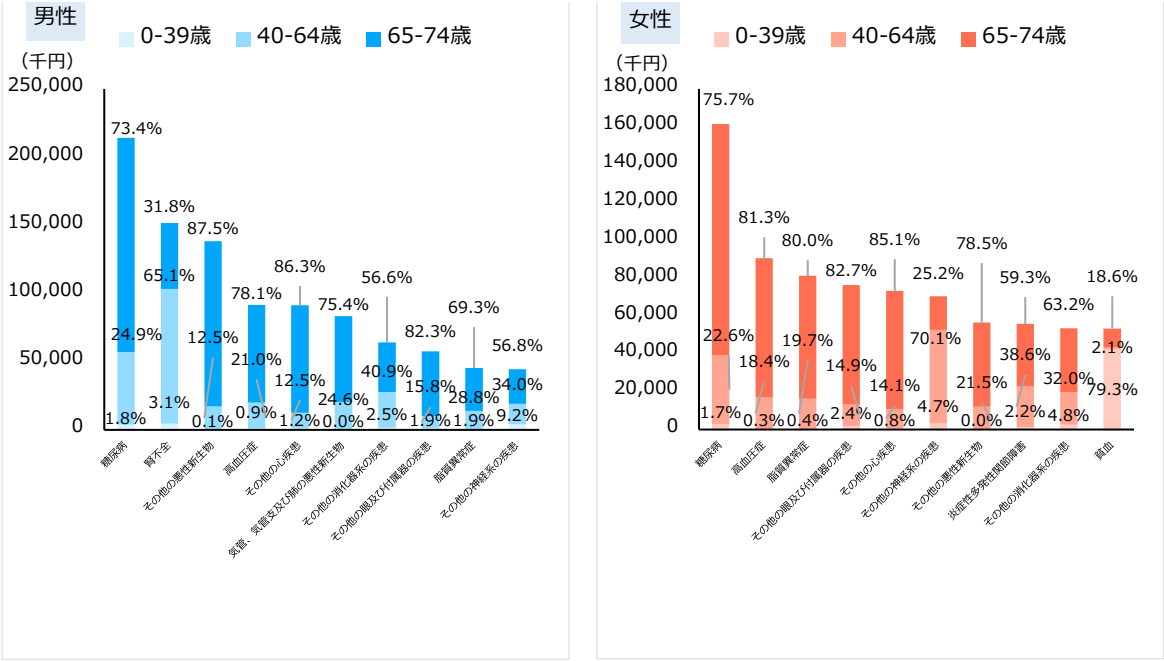
【出典】KDB帳票 S23_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和4年度 累計

図表3-2-3-9：疾病中分類別外来医療費上位10位一人当たり年間医療費・千人当たりレセプト件数（他保険者との比較）



【出典】KDB帳票 S23_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和4年度 累計

図表3-2-3-10：疾病中分類別外来医療費上位10位医療費（男女別・年代別割合）



【出典】 KDB帳票 S23_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和4年度 累計

③ 細小分類別医療費総額・医療費割合・患者数・有病率の入院・入院外上位10位

疾病細小分類別入院医療費において、医療費が最も高い疾病は「統合失調症」であり、年間医療費は約1億567万円で入院医療費に占める割合は4.6%である（図表3-2-3-11）。

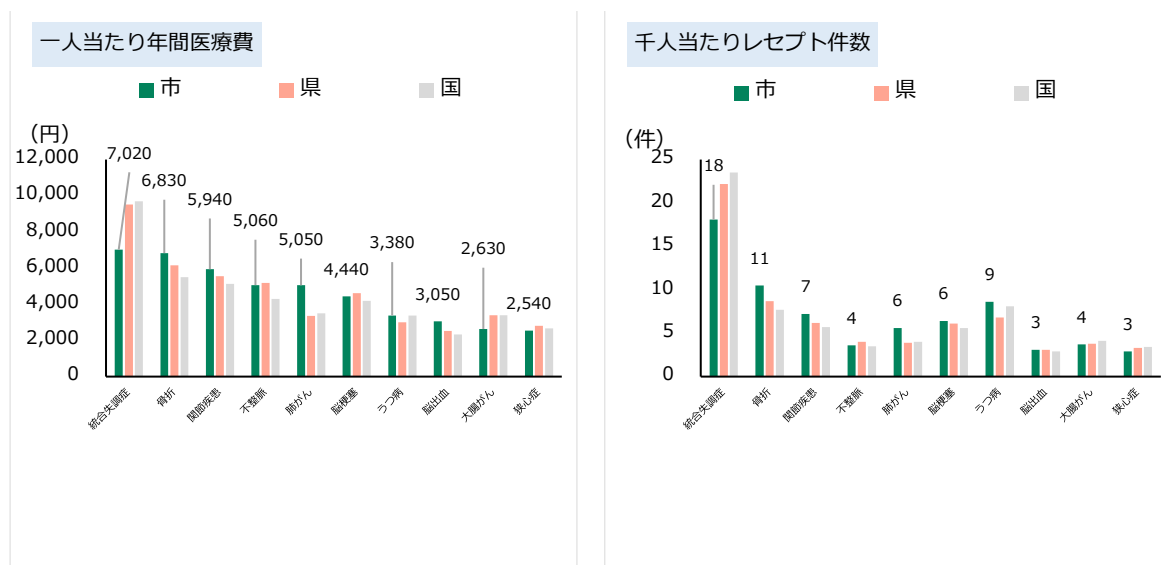
男女別・年代別において、男性では「肺がん」の医療費が最も高く、なかでも65-74歳が多くを占めている。女性では「統合失調症」の医療費が最も高く、なかでも65-74歳が多くを占めている（図表3-2-3-13）。

図表3-2-3-11：疾病分類（細小分類）別入院医療費上位10位

順位	疾病名	医療費 (千円)	割合 (医療費)	レセプト件数	割合 (レセプト件数)	千人当たり レセプト件数	レセプト一件当たり 医療費(円)
1位	統合失調症	105,674	4.6%	272	7.3%	18.1	388,510
2位	骨折	102,890	4.5%	158	4.2%	10.5	651,200
3位	関節疾患	89,508	3.9%	108	2.9%	7.2	828,780
4位	不整脈	76,192	3.3%	54	1.4%	3.6	1,410,970
5位	肺がん	76,094	3.3%	84	2.2%	5.6	905,880
6位	脳梗塞	66,886	2.9%	97	2.6%	6.4	689,550
7位	うつ病	50,850	2.2%	130	3.5%	8.6	391,150
8位	脳出血	45,956	2.0%	47	1.3%	3.1	977,790
9位	大腸がん	39,604	1.7%	56	1.5%	3.7	707,220
10位	狭心症	38,287	1.7%	43	1.2%	2.9	890,380

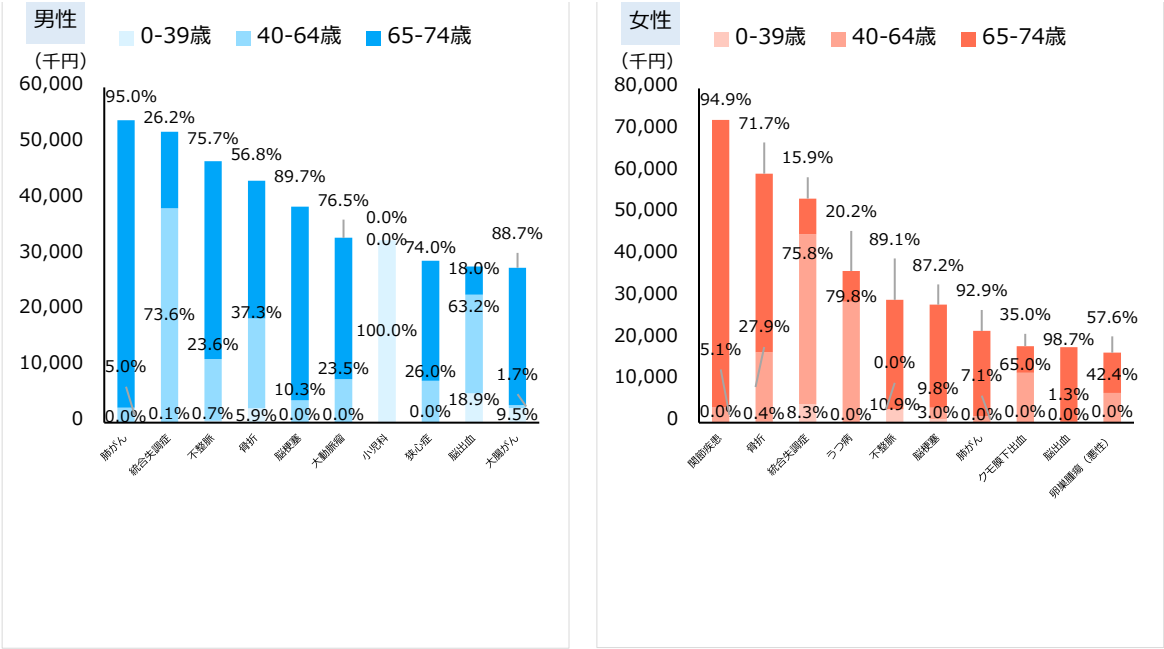
【出典】KDB帳票 S23_005-疾病別医療費分析（細小（82）分類） 令和4年度 累計

図表3-2-3-12：疾病分類（細小分類）別入院医療費上位10位一人当たり年間医療費・千人当たりレセプト件数（他保険者との比較）



【出典】KDB帳票 S23_005-疾病別医療費分析（細小（82）分類） 令和4年度 累計

図表3-2-3-13：疾病分類（細小分類）別入院医療費上位10位医療費（男女別・年代別割合）



【出典】KDB帳票 S23_005-疾病別医療費分析（細小（８２）分類） 令和4年度 累計

疾病細小分類別外来医療費において、医療費が最も高い疾病は「糖尿病」であり、年間医療費は約3億5,222万円で外来医療費に占める割合は10.0%である（図表3-2-3-14）。

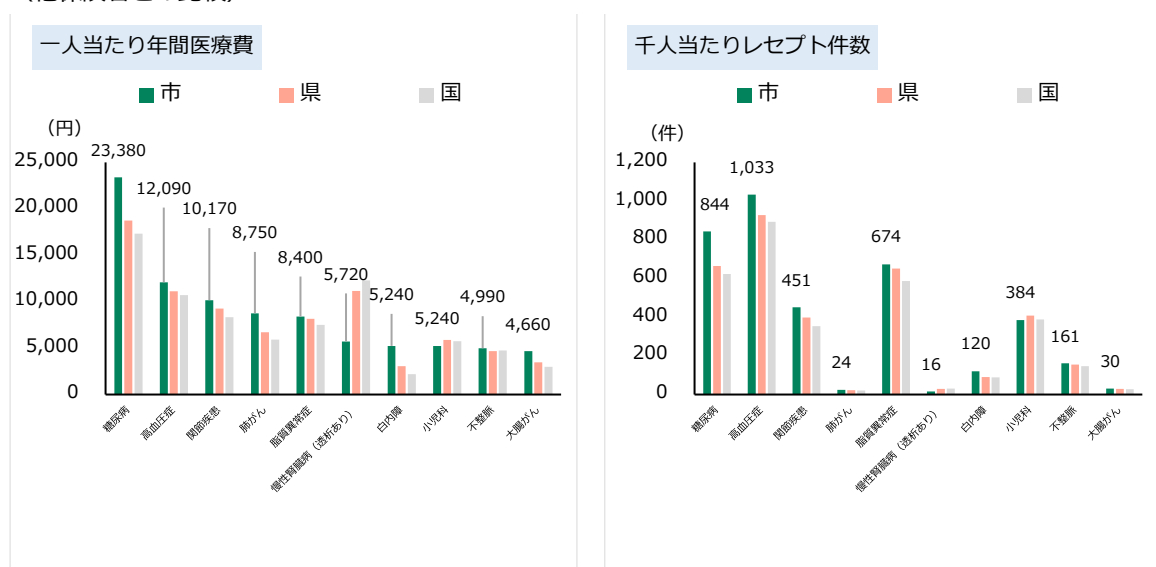
男女別・年代別において、男女ともに「糖尿病」の医療費が最も高く、なかでも65-74歳が多くを占めている（図表3-2-3-16）。

図表3-2-3-14：疾病分類（細小分類）別外来医療費上位10位

順位	疾病名	医療費 (千円)	割合 (医療費)	レセプト件数	割合 (レセプト件数)	千人当たり レセプト件数	レセプト一件 当たり医療費 (円)
1位	糖尿病	352,217	10.0%	12,707	8.7%	843.5	27,720
2位	高血圧症	182,101	5.2%	15,563	10.6%	1033.1	11,700
3位	関節疾患	153,136	4.3%	6,787	4.6%	450.5	22,560
4位	肺がん	131,767	3.7%	354	0.2%	23.5	372,220
5位	脂質異常症	126,538	3.6%	10,146	6.9%	673.5	12,470
6位	慢性腎臓病（透析あり）	86,147	2.4%	238	0.2%	15.8	361,960
7位	白内障	78,954	2.2%	1,814	1.2%	120.4	43,520
8位	小児科	78,895	2.2%	5,787	4.0%	384.2	13,630
9位	不整脈	75,240	2.1%	2,432	1.7%	161.4	30,940
10位	大腸がん	70,166	2.0%	452	0.3%	30.0	155,230

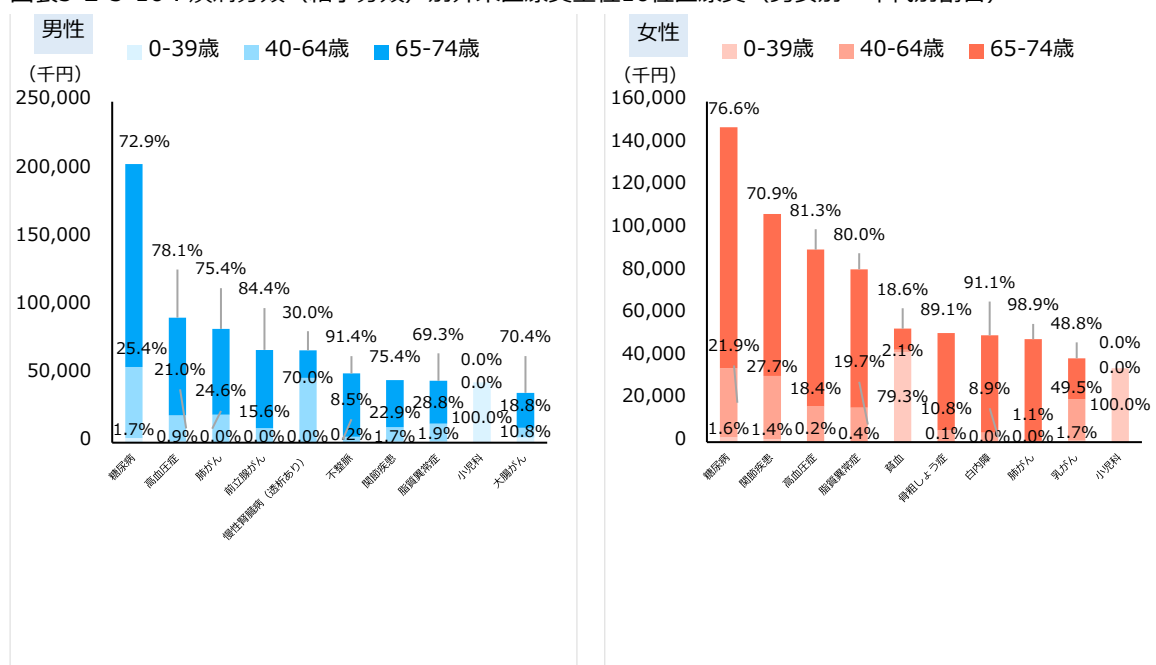
【出典】KDB帳票 S23_005-疾病別医療費分析（細小（８２）分類） 令和4年度 累計

図表3-2-3-15：疾病分類（細小分類）別外来医療費上位10位一人当たり年間医療費・千人当たりレセプト件数（他保険者との比較）



【出典】KDB帳票 S23_005-疾病別医療費分析（細小（82）分類） 令和4年度 累計

図表3-2-3-16：疾病分類（細小分類）別外来医療費上位10位医療費（男女別・年代別割合）



【出典】KDB帳票 S23_005-疾病別医療費分析（細小（82）分類） 令和4年度 累計

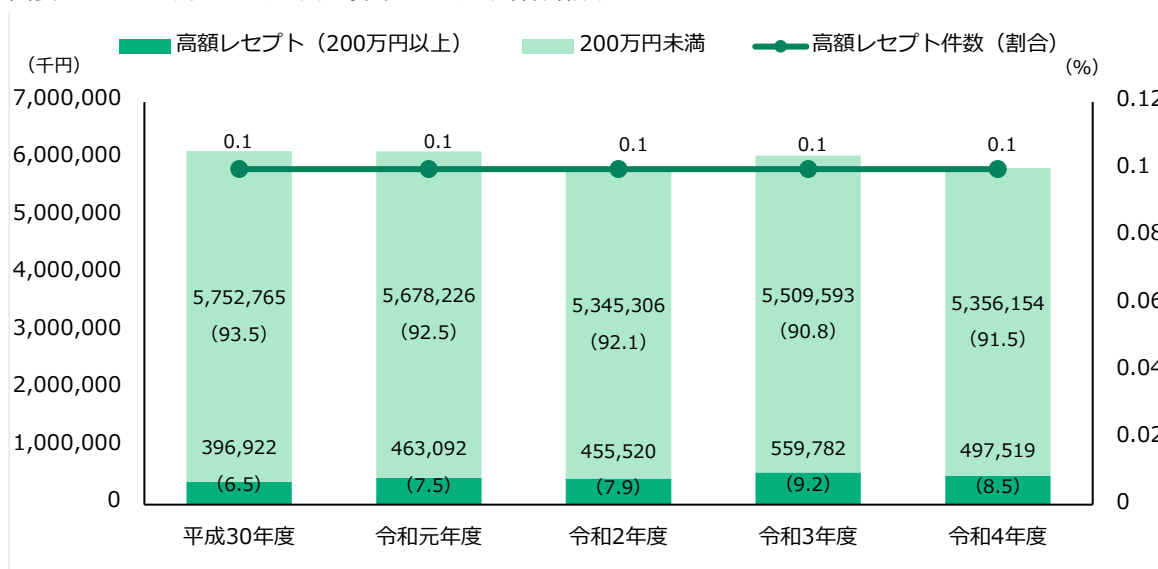
(4) 高額医療費の要因

① 高額レセプト（200万円以上）医療費件数・金額

医療費のうち、1か月当たり200万円以上のレセプト（以下、高額なレセプトという。）に着目すると、令和4年度のレセプトのうち、高額なレセプトは約4億9,752万円で、総医療費の8.5%、総レセプト件数の0.1%を占めている（図表3-2-4-1）。

また、平成30年度と比較すると高額なレセプトによる医療費は増加している。

図表3-2-4-1：高額レセプト医療費・レセプト件数割合



【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計
KDB帳票 S21_011 -厚生労働省様式（様式1－1） 平成30年6月から令和5年5月

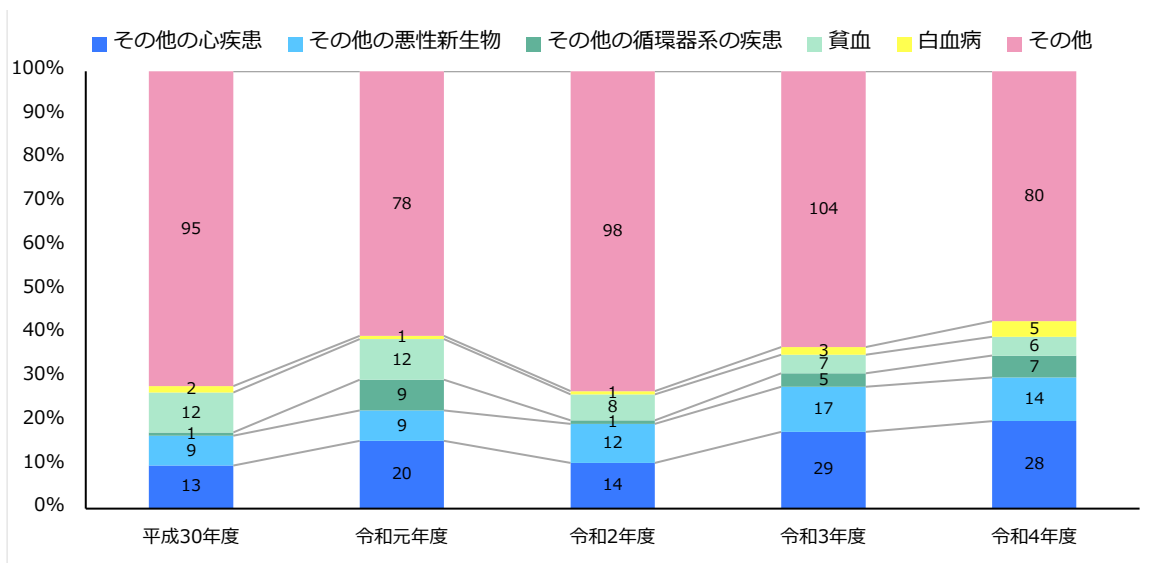
② 高額レセプト（200万円以上）疾患別件数、割合

図表3-2-4-2：高額レセプト疾患別件数

順位	疾病名	件数			上位5位のレセプト 件数に占める割合
		合計	男性	女性	
1位	その他の心疾患	28	17	11	20.0%
2位	その他の悪性新生物	14	9	5	10.0%
3位	その他の循環器系の疾患	7	7	0	5.0%
4位	貧血	6	0	6	4.3%
5位	白血病	5	4	1	3.6%

【出典】KDB帳票 S21_011 -厚生労働省様式（様式1－1） 令和4年6月から令和5年5月

図表3-2-4-3：高額レセプト疾患別件数上位5位の経年変化



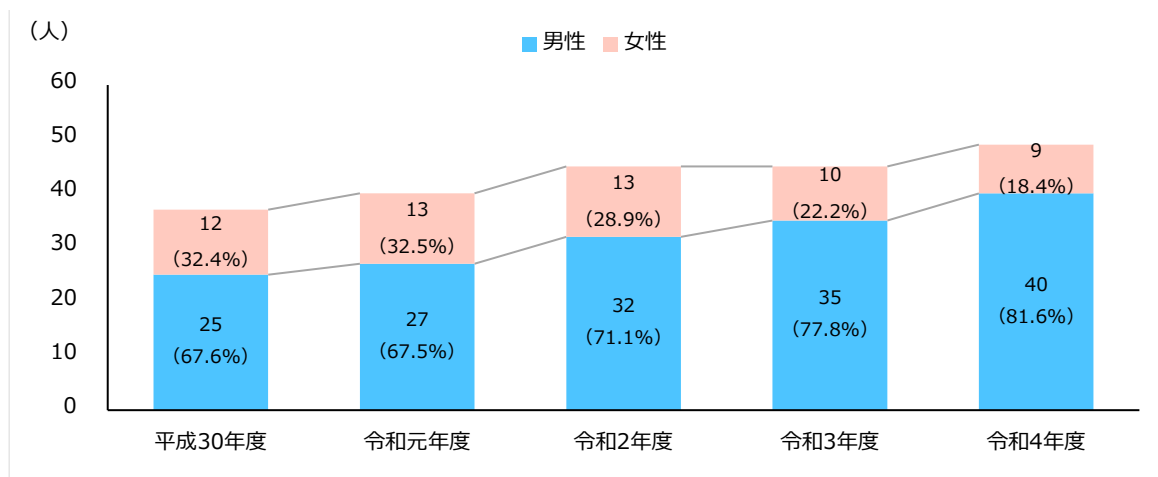
※グラフ内には各疾病のレセプト件数を記載しています

【出典】KDB帳票 S21_011 -厚生労働省様式（様式1－1） 平成30年6月から令和5年5月

③ 人工透析患者数

令和4年度における人工透析患者数は、平成30年度と比較すると増加している（図表3-2-4-4）。男女別では、男性の人工透析患者の割合が多くなっている。年代別では、令和4年度において、最も人工透析患者数が多いのは60-69歳で、平成30年度と比較すると横ばいである。また、50-59歳では、年々増加している（図表3-2-4-5）。

図表3-2-4-4：人工透析患者数の経年変化（男女別）



【出典】KDB帳票 S23_001-医療費分析（1）細小分類 平成30年度から令和4年度 累計

図表3-2-4-5：人工透析患者数の経年変化（年代別）

(人)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
0-39 歳	2	2	1	1	1
40-49 歳	3	4	5	4	6
50-59 歳	6	7	10	14	13
60-69 歳	20	23	22	21	20
70-74 歳	6	4	7	5	9

【出典】KDB帳票 S23_001-医療費分析（1）細小分類 平成30年度から令和4年度 累計

④ 新規人工透析患者数

令和4年度における新規の人工透析患者数は9人で、平成30年度と比較して5人増加している（図表3-2-4-6）。

図表3-2-4-6：新規人工透析患者数の経年変化

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人数 (人)	4	7	9	5	9

【出典】KDB補完システム

3 生活習慣病の医療費の状況

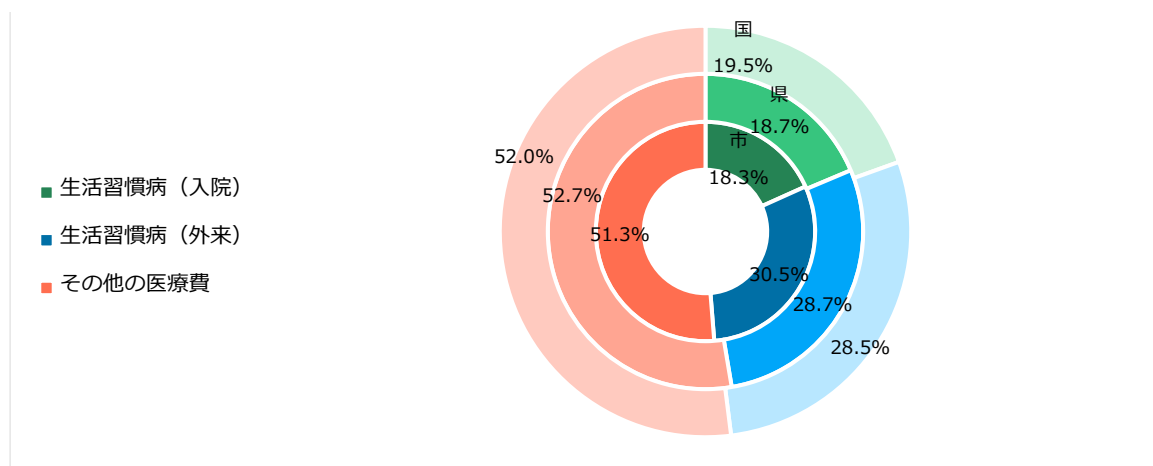
(1) 生活習慣病医療費

① 総医療費に占める生活習慣病の割合

総医療費に占める生活習慣病の割合では、入院医療費は18.3%で県・国と比較して低く、外来医療費は30.5%で県・国と比較して高い（図表3-3-1-1）。

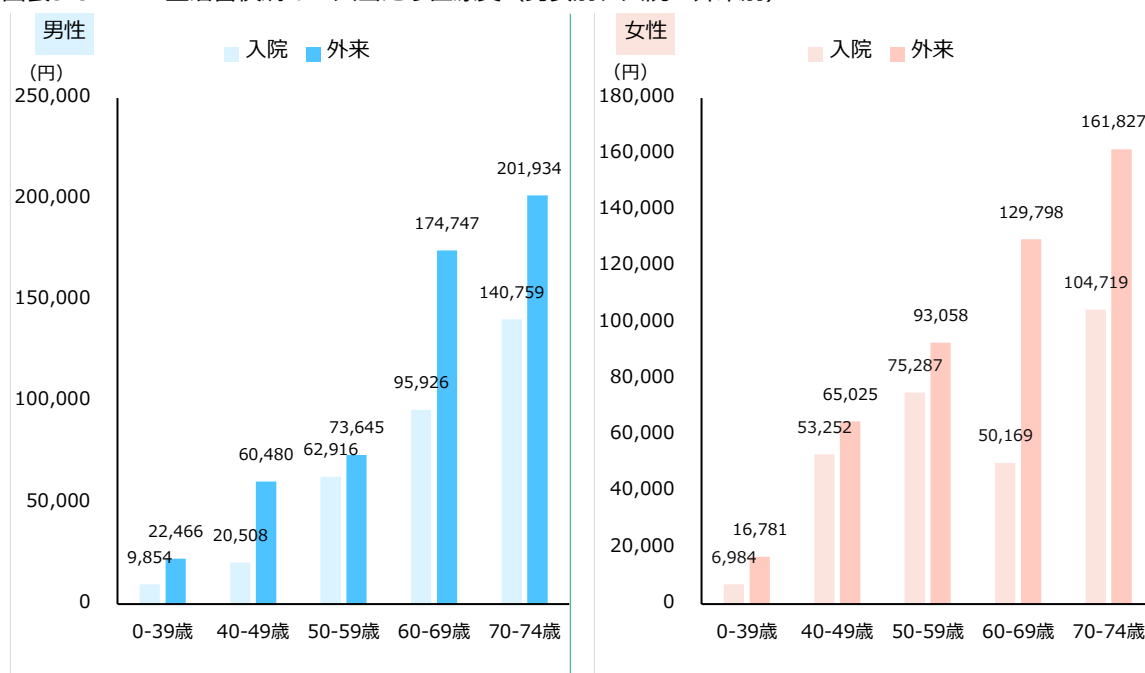
男女別・年代別の生活習慣病の一人当たり医療費において、男女ともに年齢階級が上がるにつれ増加する傾向にあるが、女性の60-69歳の入院医療費が低い（図表3-3-1-2）。

図表3-3-1-1：総医療費に占める生活習慣病の割合（他保険者との比較）



【出典】KDB帳票 S23_006-疾病別医療費分析（生活習慣病） 令和4年度 累計

図表3-3-1-2：生活習慣病の一人当たり医療費（男女別、入院・外来別）



【出典】KDB帳票 S23_006-疾病別医療費分析（生活習慣病） 令和4年度 累計

② 生活習慣病の疾病別医療費（外来、入院）

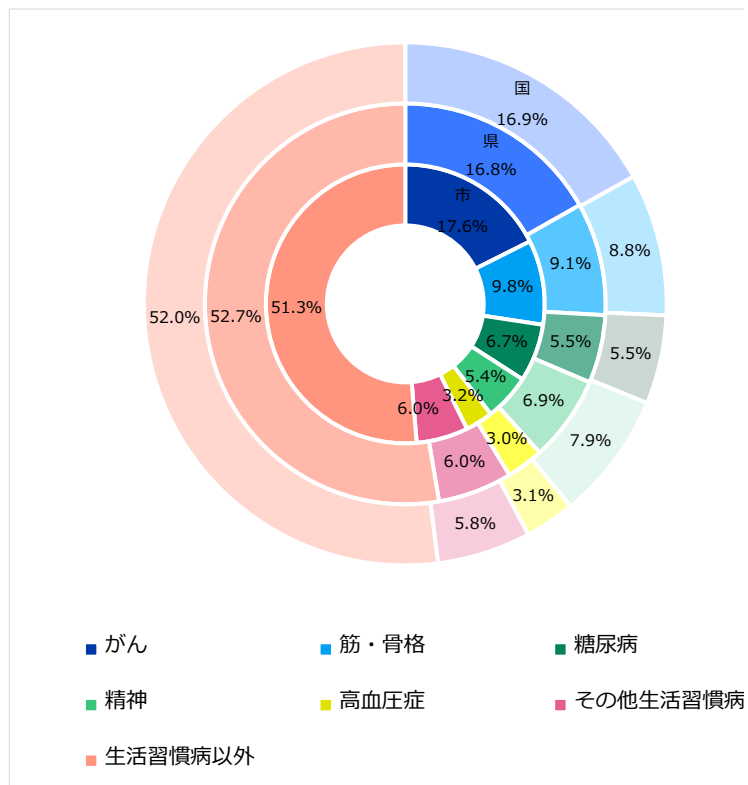
令和4年度の生活習慣病の疾病別医療費において、「その他」を除いた医療費が最も高い疾病は「がん」であり、年間医療費は約10億2,791万円で総医療費の17.6%を占めている（図表3-3-1-3）。次いで医療費が高いのは「筋・骨格」で約5億7,257万円（9.8%）、「糖尿病」で約3億8,884万円（6.7%）である。1位の「がん」は、平成30年度と比較して、割合が増加している。

総医療費に占める生活習慣病の疾病別医療費の割合では、「糖尿病」「高血圧症」「動脈硬化症」「脳出血」「がん」「筋・骨格」が県・国を上回っている。

図表3-3-1-3：疾病別医療費（経年変化、他保険者との比較）

疾病名	平成30年度		令和4年度		割合の変化
	医療費（千円）	割合	医療費（千円）	割合	
糖尿病	434,132	7.1%	388,841	6.7%	↘
高血圧症	241,200	3.9%	186,481	3.2%	↘
脂質異常症	159,685	2.6%	127,277	2.2%	↘
高尿酸血症	3,708	0.1%	3,024	0.1%	→
脂肪肝	5,142	0.1%	8,568	0.1%	→
動脈硬化症	6,930	0.1%	11,395	0.2%	↗
脳出血	58,610	1.0%	47,458	0.8%	↘
脳梗塞	131,378	2.1%	81,120	1.4%	↘
狭心症	83,208	1.4%	57,680	1.0%	↘
心筋梗塞	44,643	0.7%	12,522	0.2%	↘
がん	940,912	15.3%	1,027,912	17.6%	↗
筋・骨格	601,330	9.8%	572,571	9.8%	→
精神	418,270	6.8%	316,115	5.4%	↘
その他(上記以外のもの)	3,003,007	49.0%	2,989,467	51.3%	↗
総額	6,132,154	100.0%	5,830,431	100.0%	

	割合		
	市	県	国
糖尿病	6.7%	5.5%	5.5%
高血圧症	3.2%	3.0%	3.1%
脂質異常症	2.2%	2.2%	2.1%
高尿酸血症	0.1%	0.0%	0.0%
脂肪肝	0.1%	0.1%	0.1%
動脈硬化症	0.2%	0.1%	0.1%
脳出血	0.8%	0.7%	0.7%
脳梗塞	1.4%	1.4%	1.4%
狭心症	1.0%	1.1%	1.1%
心筋梗塞	0.2%	0.4%	0.3%
がん	17.6%	16.8%	16.9%
筋・骨格	9.8%	9.1%	8.8%
精神	5.4%	6.9%	7.9%
その他	51.3%	52.7%	52.0%
総額	100.0%	100.0%	100.0%



【出典】KDB帳票 S23_006-疾病別医療費分析（生活習慣病） 令和4年度 累計

③ 人工透析・糖尿病性腎症・糖尿病性網膜症・糖尿病性神経障害 割合

糖尿病患者において一番多く発生している重篤な合併症は、男性では「糖尿病性腎症」が98人（7.8%）で、女性では「糖尿病性網膜症」が54人（5.1%）である（図表3-3-1-4）。

令和4年度の糖尿病患者において一番多く発生している重篤な合併症は、「糖尿病性腎症」が148人（6.4%）で、平成30年度と比較して1人（0.5%）増加している（図表3-3-1-5）。

図表3-3-1-4：人工透析・糖尿病性腎症・糖尿病性網膜症・糖尿病性神経障害割合（男女別・年代別）

性別	年代	人工透析 人数 (人)	糖尿病 患者数 (人)	糖尿病性腎症		糖尿病性網膜症		糖尿病性神経障害	
				人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
男性	0-39歳	1	18	1	5.6%	2	11.1%	0	0.0%
	40-64歳	25	276	21	7.6%	12	4.3%	8	2.9%
	65-74歳	14	960	76	7.9%	46	4.8%	20	2.1%
	合計	40	1,254	98	7.8%	60	4.8%	28	2.2%
女性	0-39歳	0	19	1	5.3%	1	5.3%	0	0.0%
	40-64歳	2	223	11	4.9%	14	6.3%	7	3.1%
	65-74歳	7	824	38	4.6%	39	4.7%	22	2.7%
	合計	9	1,066	50	4.7%	54	5.1%	29	2.7%
総計		49	2,320	148	6.4%	114	4.9%	57	2.5%

【出典】KDB帳票 S21_014-厚生労働省様式（様式3-1） 令和4年度

※本表における人工透析人数は生活習慣病対象者における人工透析人数を示しています。

図表3-3-1-5：人工透析・糖尿病性腎症・糖尿病性網膜症・糖尿病性神経障害割合（経年変化）

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人工透析	人数(人)	37	40	45	44	49
糖尿病	人数(人)	2,506	2,392	2,483	2,432	2,320
糖尿病性腎症	人数(人)	147	140	149	159	148
	割合	5.9%	5.9%	6.0%	6.5%	6.4%
糖尿病性網膜症	人数(人)	164	141	136	119	114
	割合	6.5%	5.9%	5.5%	4.9%	4.9%
糖尿病性神経障害	人数(人)	74	71	63	60	57
	割合	3.0%	3.0%	2.5%	2.5%	2.5%

【出典】KDB帳票 S21_014-厚生労働省様式（様式3-1） 平成30年度から令和4年度

※本表における人工透析人数は生活習慣病対象者における人工透析人数を示しています。

(2) 生活習慣病有病者数、割合

令和4年度の生活習慣病の疾病別レセプト件数において、「その他」を除いたレセプト件数が最も多い疾病は「筋・骨格」で、年間レセプト件数は16,993件である（図表3-3-2-1）。千人当たりレセプト件数は、平成30年度と比較して、増加している。

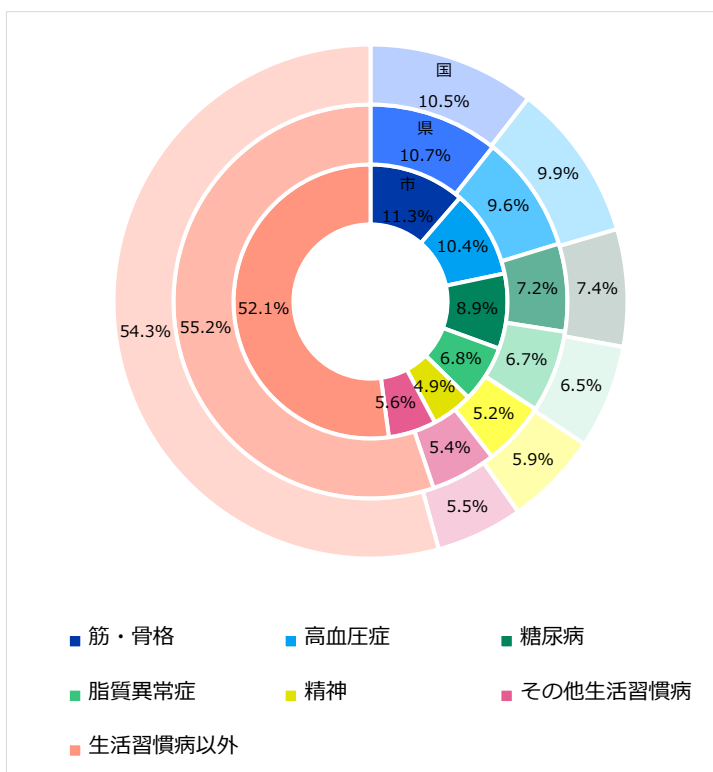
生活習慣病の疾病別医療費において、医療費が最も高い「がん」のレセプト件数は5,580件であり、千人当たりレセプト件数は、平成30年度と比較して、増加している。

千人当たりレセプト件数では、「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」「高尿酸血症」「脂肪肝」「脳出血」「脳梗塞」「狭心症」「がん」「筋・骨格」が県・国を上回っている。

図表3-3-2-1：疾病別レセプト件数（経年変化、他保険者との比較）

疾病名	平成30年度		令和4年度		割合の変化
	レセプト件数	千人当たり レセプト件数	レセプト件数	千人当たり レセプト件数	
糖尿病	14,346	821.3	13,308	883.4	↗
高血圧症	19,121	1,094.7	15,592	1,035.1	↘
脂質異常症	11,495	658.1	10,148	673.7	↗
高尿酸血症	343	19.6	289	19.2	↘
脂肪肝	216	12.4	425	28.2	↗
動脈硬化症	149	8.5	129	8.6	↗
脳出血	139	8.0	112	7.4	↘
脳梗塞	1,208	69.2	872	57.9	↘
狭心症	1,325	75.9	984	65.3	↘
心筋梗塞	154	8.8	82	5.4	↘
がん	5,980	342.4	5,580	370.4	↗
筋・骨格	19,256	1,102.4	16,993	1,128.1	↗
精神	7,552	432.4	7,295	484.3	↗
その他(上記以外のもの)	87,705	5,021.2	78,249	5,194.4	↗
総件数	168,989	9,674.8	150,058	9,961.4	

	千人当たりレセプト件数		
	市	県	国
糖尿病	883.4	696.6	663.1
高血圧症	1,035.1	928.2	894.0
脂質異常症	673.7	650.9	587.1
高尿酸血症	19.2	15.5	16.8
脂肪肝	28.2	18.3	16.2
動脈硬化症	8.6	8.9	7.8
脳出血	7.4	6.3	6.0
脳梗塞	57.9	51.2	50.8
狭心症	65.3	64.8	64.2
心筋梗塞	5.4	5.6	4.9
がん	370.4	348.6	324.1
筋・骨格	1,128.1	1,029.5	944.9
精神	484.3	505.9	530.7
その他	5,194.4	5,332.8	4,880.0
総件数	9,961.4	9,663.0	8,990.5



【出典】KDB帳票 S23_006-疾病別医療費分析（生活習慣病） 令和4年度 累計

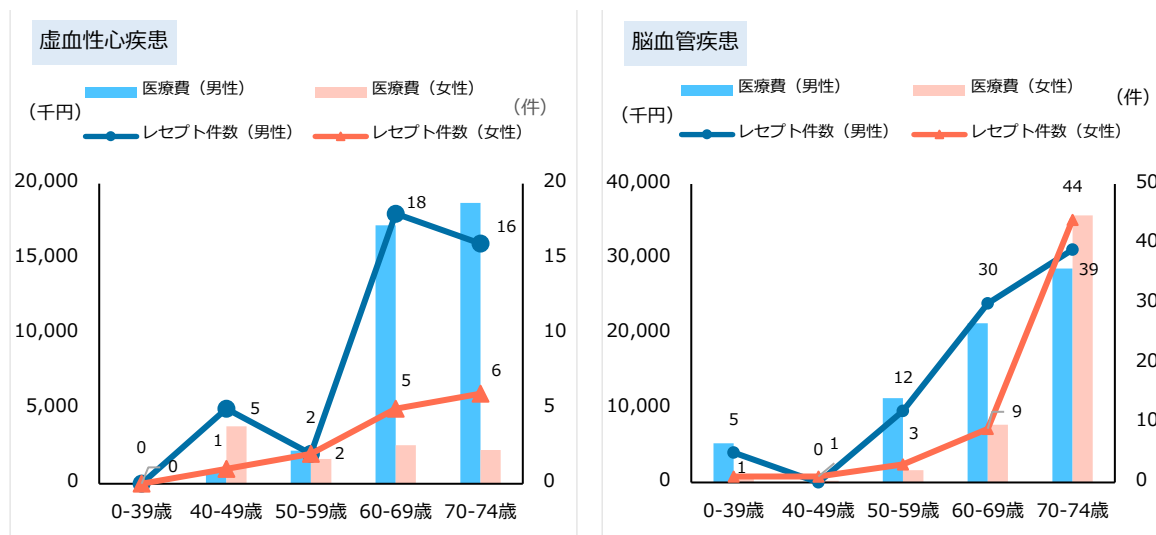
また、保健事業により予防可能な疾患における健康課題を抽出するという観点で生活習慣病に焦点をあて、重篤な生活習慣病である「虚血性心疾患」「脳血管疾患」の入院に係る医療費とレセプト件数、基礎疾患である「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」の外来に係る医療費とレセプト件数を概観する。

入院医療費において、「虚血性心疾患」では、男性の70-74歳が男女年代別に最も医療費が高く、「脳血管疾患」では、女性の70-74歳が男女年代別に最も医療費が高い。

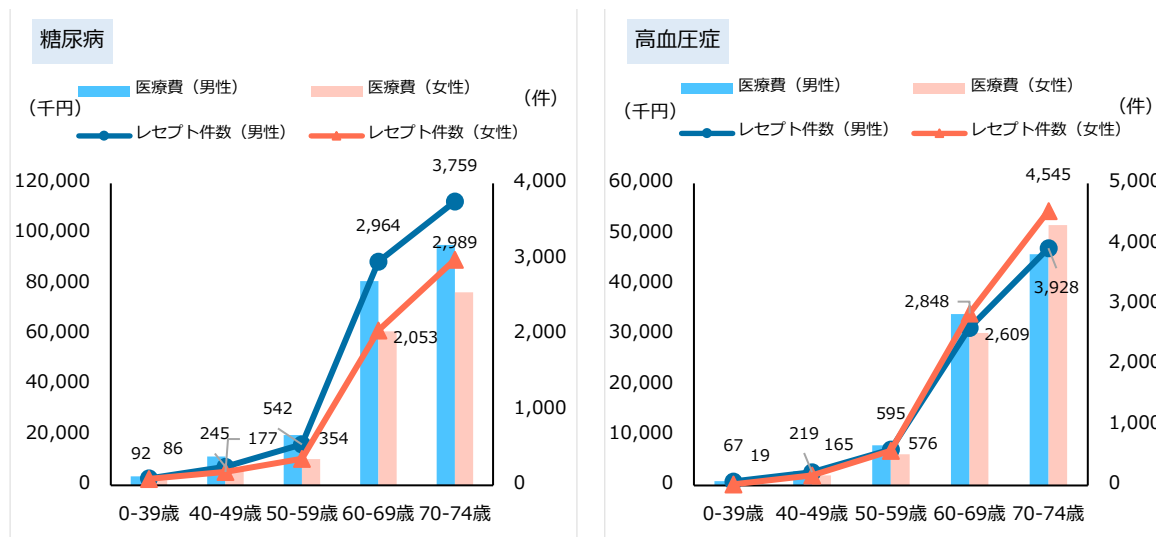
外来において、「糖尿病」では男性の70-74歳が男女年代別に最も医療費が高く、「高血圧症」「脂質異常症」では女性の70-74歳が男女年代別に最も医療費が高い。

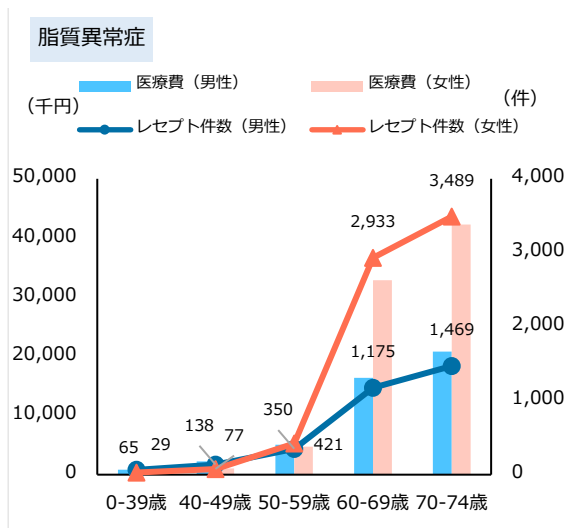
図表3-3-2-2：令和4年度疾病別医療費・レセプト件数（男女別、年代別）

入院



外来





【出典】 KDB帳票 S23_006-疾病別医療費分析（生活習慣病） 令和4年度 累計

(3) 生活習慣病治療状況

① 未治療者数・割合

令和4年度の特定健診受診者において、HbA1cが6.5%以上的人是365人で、そのうち、血圧・脂質のいずれかで治療中だが糖尿病の治療がない人は44人（12.1%）、3疾病（血糖・血圧・脂質）の治療がない人は53人（14.5%）である（図表3-3-3-1）。

また、平成30年度と比較すると、血圧・脂質のいずれかで治療中だが糖尿病の治療がない人、3疾病の治療がない人は、人数は減少しているが割合は増加している。

図表3-3-3-1：HbA1c6.5以上の該当者数と治療歴

令和4年度

HbA1c	該当者数	3疾患いずれかで治療中				3疾患治療なし	
		糖尿病治療歴あり		糖尿病治療歴なし			
	人数（人）	人数（人）	割合	人数（人）	割合	人数（人）	割合
6.5-6.9	207	134	64.7%	36	17.4%	37	17.9%
7.0-7.9	113	96	85.0%	7	6.2%	10	8.8%
8.0-	45	38	84.4%	1	2.2%	6	13.3%
合計	365	268	73.4%	44	12.1%	53	14.5%

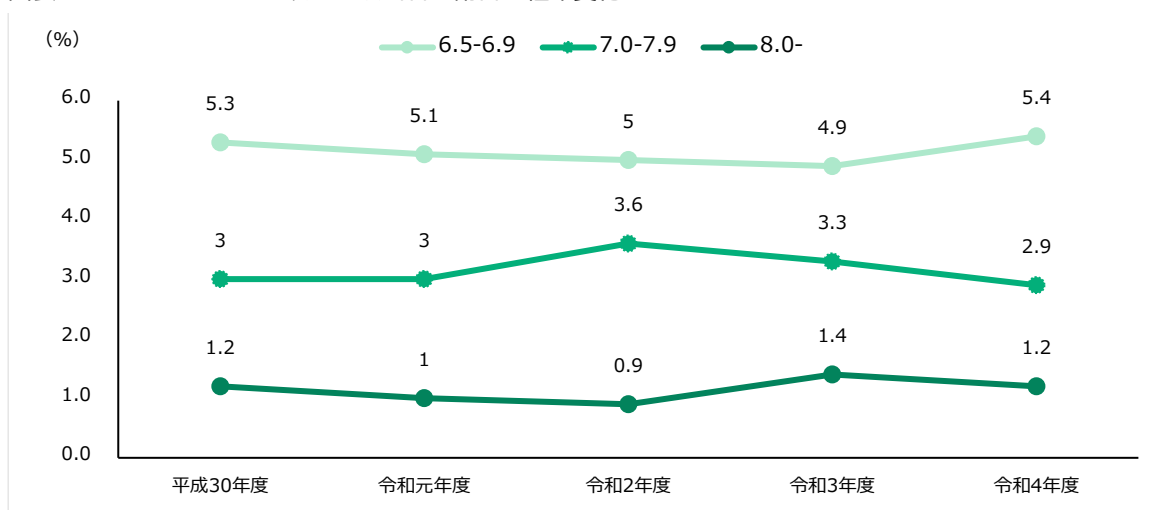
【出典】KDB帳票 S26_004-保健指導対象者一覧（保健指導判定値の者） 令和4年度 累計
KDB帳票 S26_005-保健指導対象者一覧（受診勧奨判定値の者） 令和4年度 累計

平成30年度

HbA1c	該当者数	3疾患いずれかで治療中				3疾患治療なし	
		糖尿病治療歴あり		糖尿病治療歴なし			
	人数（人）	人数（人）	割合	人数（人）	割合	人数（人）	割合
6.5-6.9	239	164	68.6%	35	14.6%	40	16.7%
7.0-7.9	135	117	86.7%	9	6.7%	9	6.7%
8.0-	52	41	78.8%	4	7.7%	7	13.5%
合計	426	322	75.6%	48	11.3%	56	13.1%

【出典】KDB帳票 S26_004-保健指導対象者一覧（保健指導判定値の者） 平成30年度 累計
KDB帳票 S26_005-保健指導対象者一覧（受診勧奨判定値の者） 平成30年度 累計

図表3-3-3-2：HbA1c6.5以上の該当者の割合の経年変化



【出典】KDB帳票 S26_004-保健指導対象者一覧（保健指導判定値の者） 平成30年度から令和4年度 累計
KDB帳票 S26_005-保健指導対象者一覧（受診勧奨判定値の者） 平成30年度から令和4年度 累計

② 血糖 治療中断者数

令和4年度において血糖の治療を中断している人は853人で、平成30年度と比較すると増加している（図表3-3-3-3）。

図表3-3-3-3：血糖 治療中断者数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
治療中断者数（人）	827	839	757	679	853

【出典】KDB補完システム 汎用抽出

③ 血糖 治療中者数

血糖の治療をしている人において、令和4年度にHbA1cが8.0%以上の人は38人で、平成30年度と比較すると減少している（図表3-3-3-4）。

図表3-3-3-4：血糖 治療中者数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
6.5-6.9	164	139	125	112	134
7.0-7.9	117	109	107	121	96
8.0-	41	38	28	53	38
合計	322	286	260	286	268

【出典】国保連合会ツール（糖尿病フローチャート作成ツール）を使用。

KDB帳票 S26_004-保健指導対象者一覧（保健指導判定値の者） 平成30年度・令和4年度 累計
KDB帳票 S26_005-保健指導対象者一覧（受診勧奨判定値の者） 平成30年度・令和4年度 累計

④ 血圧 未治療者数・割合

令和4年度の特定健診受診者において、血圧Ⅰ度以上の人は1,306人であり、そのうち、血糖・脂質のいずれかで治療中だが高血圧症の治療がない人は160人（12.3%）、3疾病（血糖・血圧・脂質）の治療がない人は483人（37.0%）である（図表3-3-3-5）。

また、平成30年度と比較すると、血糖・脂質のいずれかで治療中だが高血圧症の治療がない人、3疾病の治療がない人ともに増加している。

図表3-3-3-5：血圧Ⅰ度以上の該当者数と治療歴

令和4年度

血圧	該当者数	3疾患いずれかで治療中				3疾患治療なし	
		高血圧治療歴あり		高血圧治療歴なし			
	人数（人）	人数（人）	割合	人数（人）	割合	人数（人）	割合
血圧Ⅰ度	1,008	503	49.9%	136	13.5%	369	36.6%
血圧Ⅱ度	251	134	53.4%	22	8.8%	95	37.8%
血圧Ⅲ度	47	26	55.3%	2	4.3%	19	40.4%
合計	1,306	663	50.8%	160	12.3%	483	37.0%

平成30年度

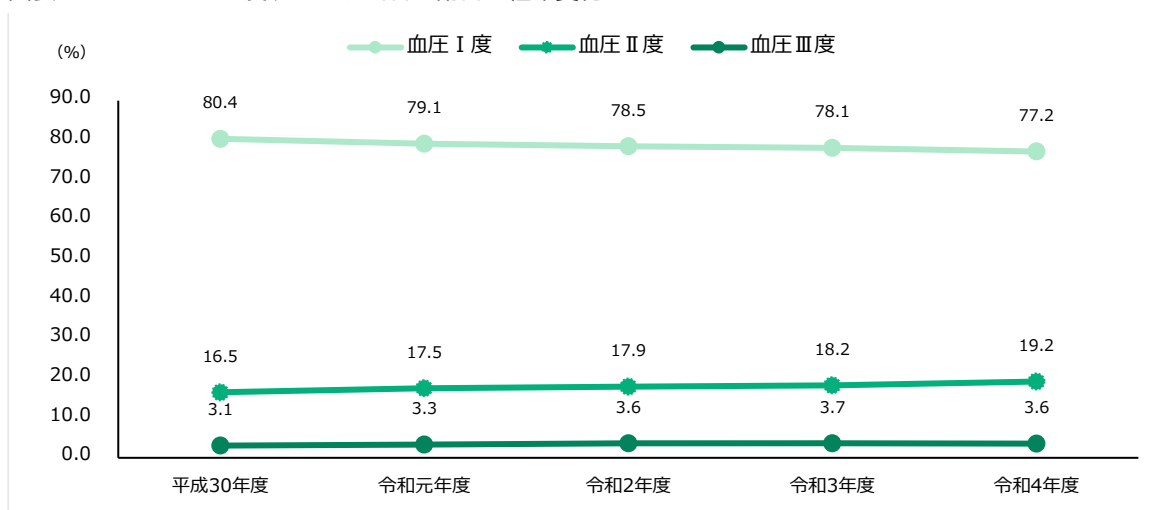
血圧	該当者数	3疾患いずれかで治療中				3疾患治療なし	
		高血圧治療歴あり		高血圧治療歴なし			
	人数（人）	人数（人）	割合	人数（人）	割合	人数（人）	割合
血圧Ⅰ度	1,017	572	56.2%	128	12.6%	317	31.2%
血圧Ⅱ度	209	114	54.5%	16	7.7%	79	37.8%
血圧Ⅲ度	39	23	59.0%	4	10.3%	12	30.8%
合計	1,265	709	56.0%	148	11.7%	408	32.3%

【出典】国保連合会ツール（高血圧フローチャート作成ツール）を使用。

KDB帳票 S26_004-保健指導対象者一覧（保健指導判定値の者） 平成30年度・令和4年度 累計

KDB帳票 S26_005-保健指導対象者一覧（受診勧奨判定値の者） 平成30年度・令和4年度 累計

図表3-3-3-6：血圧Ⅰ度以上の該当者の割合の経年変化



【出典】国保連合会ツール（高血圧フローチャート作成ツール）を使用。

KDB帳票 S26_004-保健指導対象者一覧（保健指導判定値の者） 平成30年度・令和4年度 累計

KDB帳票 S26_005-保健指導対象者一覧（受診勧奨判定値の者） 平成30年度・令和4年度 累計

⑤ 血圧 治療中断者数

令和4年度において血圧の治療を中断している人は1,012人で、平成30年度と比較すると増加している（図表3-3-3-7）。

図表3-3-3-7：血圧 治療中断者数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
治療中断者数（人）	944	890	853	781	1,012

【出典】KDB補完システム 汎用抽出

⑥ 血圧 治療中者数

血圧の治療をしている人において、令和4年度に血圧Ⅲ度以上の人は26人で、平成30年度と比較すると増加している（図表3-3-3-8）。

図表3-3-3-8：血圧 治療中者数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
血圧Ⅰ度	572	560	530	576	503
血圧Ⅱ度	114	149	135	146	134
血圧Ⅲ度	23	24	29	27	26
合計	709	733	694	749	663

【出典】国保連合会ツール（高血圧フローチャート作成ツール）を使用。

KDB帳票 S26_004-保健指導対象者一覧（保健指導判定値の者） 平成30年度・令和4年度 累計

KDB帳票 S26_005-保健指導対象者一覧（受診勧奨判定値の者） 平成30年度・令和4年度 累計

⑦ 脂質 未治療者数

令和4年度の特定健診受診者において、LDL-C140mg/dL以上の人は1,026人であり、そのうち脂質の未治療者数は489人で、平成30年度と比較すると減少している（図表3-3-3-9）。

図表3-3-3-9：脂質未治療者の該当者数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人数（人）	555	542	428	520	489

【出典】KDB補完システム 汎用抽出

⑧ 脂質 治療中断者数

令和4年度において脂質の治療中断者数は932人で、平成30年度と比較すると増加している（図表3-3-3-10）。

図表3-3-3-10：脂質 治療中断者数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
治療中断者数（人）	851	921	831	703	932

【出典】KDB補完システム 汎用抽出

⑨ 脂質 治療中者数

令和4年度において脂質の治療中者数は2,856人で、平成30年度と比較すると減少している（図表3-3-3-11）。

図表3-3-3-11：脂質 治療中者数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人数（人）	2,882	2,865	3,042	3,027	2,856

【出典】KDB補完システム 汎用抽出

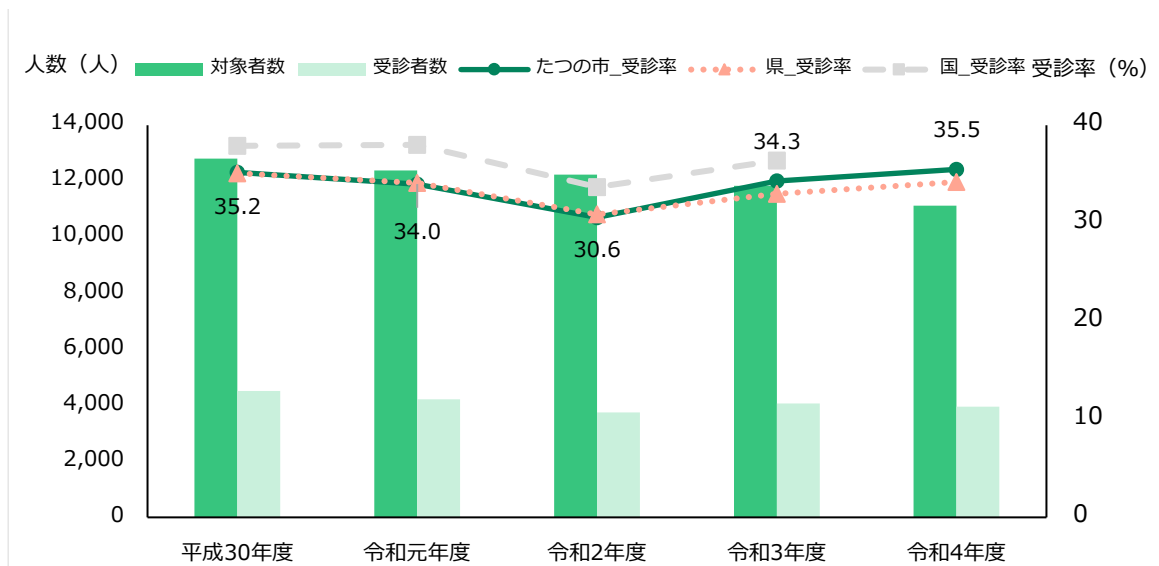
4 特定健診・特定保健指導、生活習慣の状況

(1) 特定健診受診者数・受診率

令和4年度の特定健診（法定報告）において、対象者数は11,130人、受診者数は3,948人、特定健診受診率は35.5%であり、平成30年度と比較して増加している。（図表3-4-1-1）。

男女別・年代別では、女性の方が特定健診受診率は高く、なかでも70-74歳の特定健診受診率が最も高い（図表3-4-1-2）。

図表3-4-1-1：特定健診受診率の経年変化・他保険者との比較



経年の変化 (平成30年度 → 令和4年度)					
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
対象者数（人）	12,811	12,386	12,235	11,842	11,130
受診者数（人）	4,507	4,216	3,741	4,063	3,948
受診率	たつの市	35.2%	34.0%	30.6%	34.3%
	県	35.1%	34.1%	30.9%	33.0%
	国	37.9%	38.0%	33.7%	36.4%

【出典】 TKCA013 平成30年度から令和4年度

図表3-4-1-2：令和4年度特定健診受診率（男女別・年代別）

		40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-74歳	合計
男性	対象者（人）	659	812	1,621	2,105	5,197
	受診者（人）	114	147	552	871	1,684
	受診率	17.3%	18.1%	34.1%	41.4%	32.4%
女性	対象者（人）	528	732	2,181	2,492	5,933
	受診者（人）	105	187	858	1,114	2,264
	受診率	19.9%	25.5%	39.3%	44.7%	38.2%
合計	受診率	18.4%	21.6%	37.1%	43.2%	35.5%

【出典】TKCA011 令和4年度

(2) 有所見者の状況

① 有所見者割合

令和4年度の特定健診受診者の有所見者の状況は、県・国と比較して「腹囲」「HDL-C」「空腹時血糖」「尿酸」「収縮期血圧」「拡張期血圧」の有所見率が高い（図表3-4-2-1）。

また、平成30年度と比較して「BMI」「腹囲」「尿酸」「収縮期血圧」「拡張期血圧」「eGFR」の有所見の割合が増加している。

図表3-4-2-1：令和4年度有所見者割合



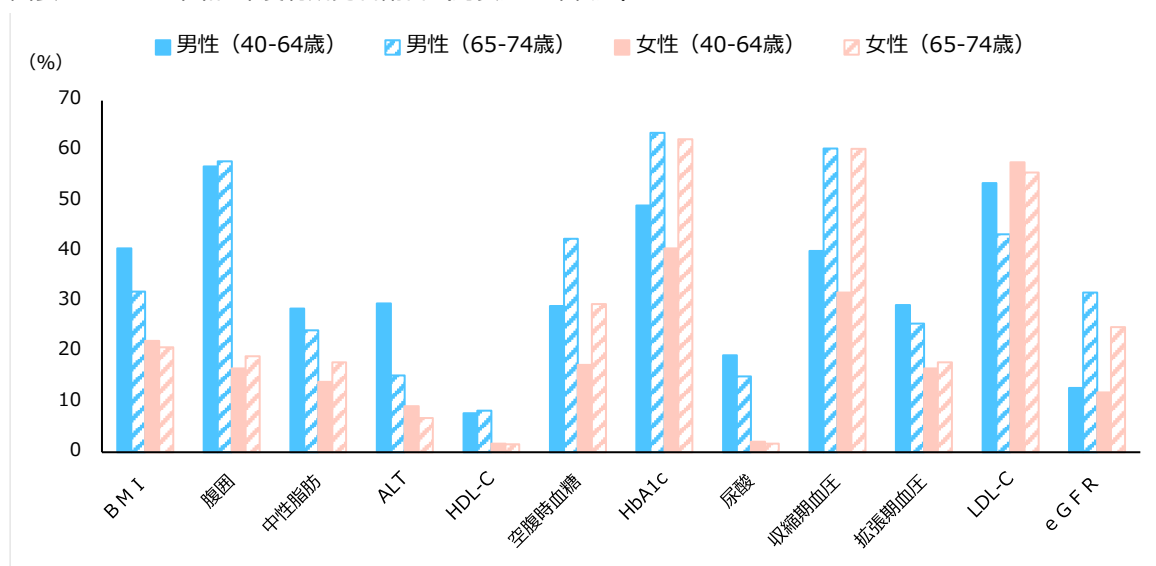
		BMI	腹囲	中性脂肪	ALT	HDL-C	空腹時 血糖	HbA1c	尿酸	収縮期 血圧	拡張期 血圧	LDL-C	eGFR
平成 30年度	たつの市	26.2%	34.7%	21.4%	12.6%	4.8%	32.5%	61.2%	7.4%	49.9%	16.8%	56.3%	20.9%
	県	23.8%	32.6%	19.7%	12.5%	3.5%	28.6%	59.1%	7.3%	47.5%	19.9%	52.6%	24.3%
令和 4年度	国	26.8%	34.9%	21.2%	14.0%	3.9%	24.7%	58.3%	6.7%	48.2%	20.7%	50.0%	21.9%

【出典】KDB帳票 S21_024-厚生労働省様式（様式5－2） 平成30年度・令和4年度

参考：有所見の判定基準

有所見	BMI	腹囲	中性脂肪	ALT	HDL-C	空腹時 血糖	HbA1c	尿酸	収縮期 血圧	拡張期 血圧	LDL-C	eGFR
	25以上	男性85以上 女性90以上	150以上	31以上	40未満	100以上	5.6以上	7以上	130以上	85以上	120以上	60未満

図表3-4-2-2：令和4年度有所見者割合（男女別・年代別）



性別	年代別	BMI	腹囲	中性脂肪	ALT	HDL-C	空腹時血糖	HbA1c	尿酸	収縮期血圧	拡張期血圧	LDL-C	eGFR
男性	40-64歳	40.6%	56.9%	28.6%	29.6%	7.8%	29.1%	49.1%	19.3%	40.1%	29.3%	53.6%	12.8%
	65-74歳	32.0%	57.9%	24.3%	15.3%	8.3%	42.5%	63.6%	15.1%	60.5%	25.6%	43.4%	31.8%
女性	40-64歳	22.2%	16.7%	14.0%	9.2%	1.7%	17.4%	40.6%	2.1%	31.8%	16.7%	57.7%	11.9%
	65-74歳	20.9%	19.1%	17.9%	6.8%	1.6%	29.5%	62.3%	1.7%	60.4%	17.9%	55.7%	24.9%

【出典】KDB帳票 S21_024-厚生労働省様式（様式5－2） 令和4年度

図表3-4-2-3：有所見者割合（男女別・年代別）

性別	年代別	BMI	腹囲	中性脂肪	ALT	HDL-C	空腹時血糖	HbA1c	尿酸	収縮期血圧	拡張期血圧	LDL-C	eGFR
男性	40-49歳	42.3%	54.1%	25.2%	30.6%	8.1%	23.4%	39.6%	22.5%	23.4%	20.7%	60.4%	4.5%
	50-59歳	40.1%	55.6%	28.9%	31.7%	7.0%	26.8%	46.5%	16.2%	41.5%	33.8%	56.3%	9.9%
	60-69歳	36.2%	61.2%	26.2%	19.4%	9.0%	41.4%	58.2%	15.8%	54.6%	27.9%	48.0%	25.6%
	70-74歳	30.7%	56.2%	24.2%	14.6%	7.8%	42.0%	66.2%	15.5%	62.6%	25.2%	41.0%	34.0%
	合計	34.1%	57.6%	25.3%	18.7%	8.2%	39.3%	60.1%	16.1%	55.6%	26.5%	45.9%	27.2%
女性	40-49歳	19.4%	10.7%	8.7%	6.8%	3.9%	8.7%	26.2%	4.9%	13.6%	10.7%	38.8%	3.9%
	50-59歳	26.6%	18.5%	14.7%	9.8%	0.0%	16.3%	38.0%	2.2%	29.9%	15.8%	62.5%	13.6%
	60-69歳	18.4%	17.2%	17.3%	7.7%	1.2%	25.4%	55.5%	1.2%	51.5%	19.1%	61.8%	19.2%
	70-74歳	22.7%	20.3%	17.9%	6.7%	2.0%	31.0%	64.7%	1.8%	63.1%	17.4%	52.3%	27.0%
	合計	21.2%	18.5%	17.0%	7.3%	1.6%	26.6%	57.2%	1.8%	53.7%	17.6%	56.1%	21.9%

【出典】KDB帳票 S21_024-厚生労働省様式（様式5－2） 令和4年度

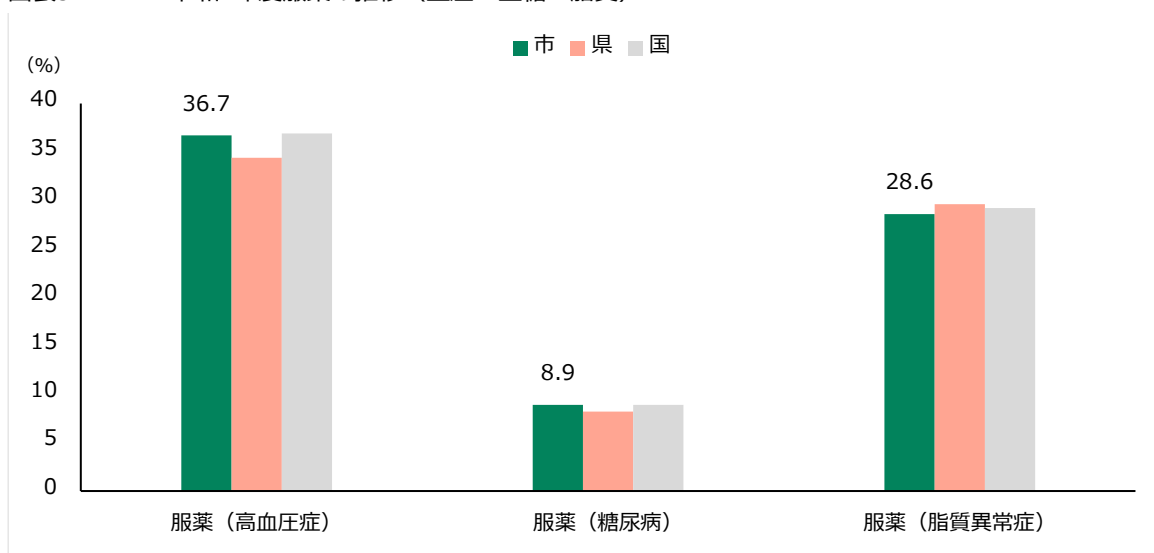
② 服薬の推移（血圧・血糖・脂質）

令和4年度の特健診受診者の血圧、血糖、脂質の服薬の状況は、「脂質異常症」に該当する疾病の服薬をしている人の割合が県・国と比較して低い（図表3-4-2-4）。

また、平成30年度と比較すると、「高血圧症」「脂質異常症」に該当する疾病の服薬をしている人の割合が増加している。

男女別・年代別において「高血圧症」では男性の65-74歳が最も高く49.5%である。「糖尿病」の服薬をしている人の割合も同様に、男性の65-74歳が最も高く13.2%、「脂質異常症」では、女性の65-74歳が最も高く37.2%である（図表3-4-2-5）。

図表3-4-2-4：令和4年度服薬の推移（血圧・血糖・脂質）



		服薬（高血圧症）	服薬（糖尿病）	服薬（脂質異常症）
平成30年度	たつの市	36.2%	9.3%	27.6%
	たつの市	36.7%	8.9%	28.6%
令和4年度	県	34.4%	8.2%	29.6%
	国	36.9%	8.9%	29.2%

【出典】KDB帳票 S25_001-質問票調査の経年比較 平成30年度・令和4年度

図表3-4-2-5：令和4年度服薬の推移（血圧・血糖・脂質×男女別・年代別）

		服薬（高血圧症）	服薬（糖尿病）	服薬（脂質異常症）
男性	40-64歳	20.1%	7.3%	14.5%
	65-74歳	49.5%	13.2%	26.0%
女性	40-64歳	16.7%	3.6%	17.2%
	65-74歳	37.4%	7.7%	37.2%

【出典】KDB帳票 S25_001-質問票調査の経年比較 令和4年度

図表3-4-2-6：令和4年度服薬の推移（血圧・血糖・脂質×男女別・年代別）

		服薬（高血圧症）	服薬（糖尿病）	服薬（脂質異常症）
男性	40-49歳	8.1%	3.6%	4.5%
	50-59歳	18.3%	5.6%	15.5%
	60-69歳	40.1%	12.4%	21.5%
	70-74歳	52.1%	13.5%	28.0%
	合計	42.3%	11.8%	23.2%
女性	40-49歳	4.9%	0.0%	2.9%
	50-59歳	13.6%	4.3%	14.1%
	60-69歳	28.1%	6.3%	29.8%
	70-74歳	41.8%	8.1%	40.5%
	合計	32.6%	6.7%	32.5%

【出典】KDB帳票 S25_001-質問票調査の経年比較 令和4年度

※図表3-4-2-4,3-4-2-5,3-4-2-6は各性・年代ごとの質問票回答数における、有所見者の割合を著しております。

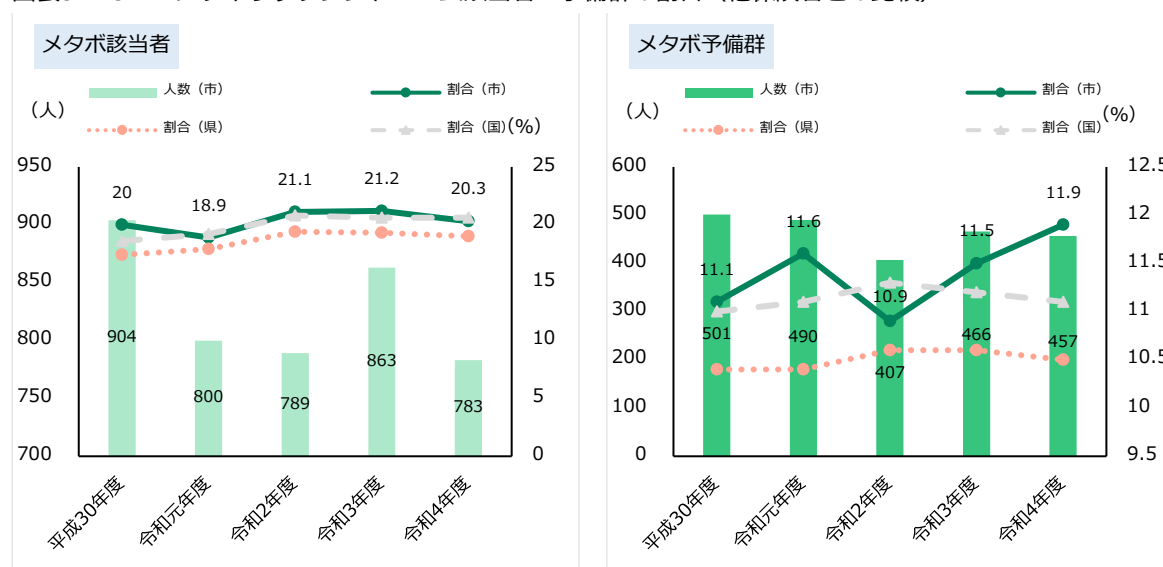
(3) メタボリックシンドローム該当者・予備群人数、割合

① メタボリックシンドローム該当者・予備群割合

令和4年度の特定健診受診者のメタボリックシンドロームの状況において、メタボリックシンドローム該当者（以下、メタボ該当者という。）は783人で、特定健診受診者における該当者割合は20.3%で、該当者割合は国より低い、県より高い。（図表3-4-3-1）。メタボリックシンドローム予備群該当者（以下、メタボ予備群該当者という。）は457人で、特定健診受診者における該当者割合は11.9%で、該当者割合は国・県より高い。

また、経年でみると、メタボ該当者の割合は横ばいとなっている一方で、予備群該当者の割合は増加している。

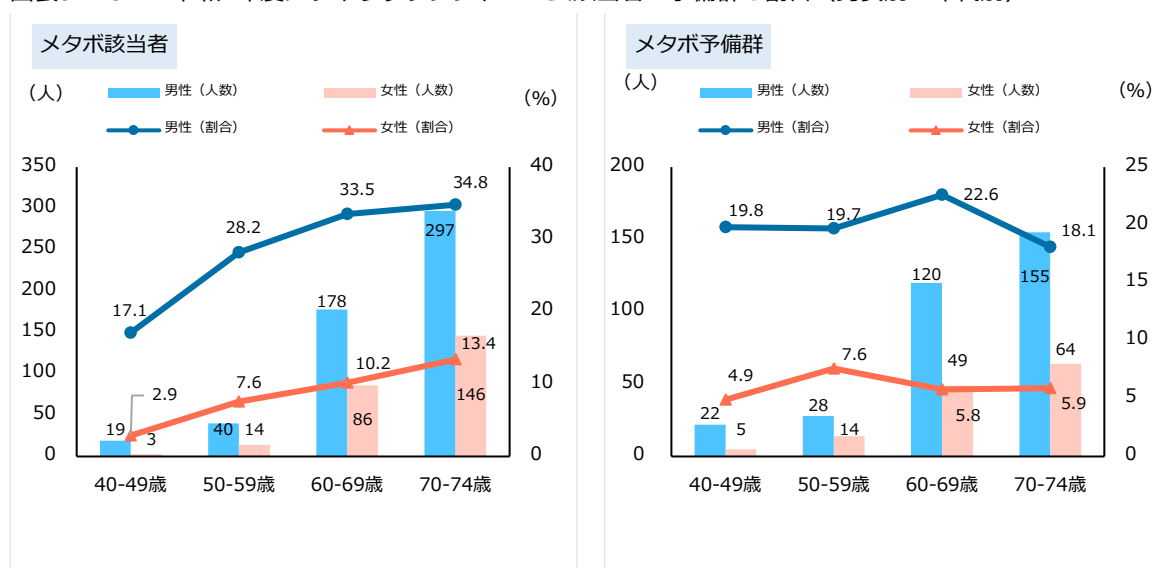
図表3-4-3-1：メタボリックシンドローム該当者・予備群の割合（他保険者との比較）



【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計

男女別・年代別では、メタボ該当者の割合が最も多いのは、男性の70-74歳（34.8%）であり、メタボ予備群該当者の割合が最も多いのは、男性の60-69歳（22.6%）である（図表3-4-3-2）。

図表3-4-3-2：令和4年度メタボリックシンドローム該当者・予備群の割合（男女別・年代別）



【出典】KDB帳票 S21_008-健診の状況 令和4年度 累計

② メタボリックシンドローム該当者割合・予備群割合の減少率

特定健診受診者において、令和3年度ではメタボ該当者であった731人のうち、令和4年度のメタボ予備群該当者は60人（8.2％）で、メタボ該当者・予備群ではなくなった者は61人（8.3％）である（図表3-4-3-3）。令和3年度ではメタボ予備群該当者であった389人のうち、令和4年度のメタボ該当者・予備群ではなくなった者は71人（18.3％）である。

また、平成30年度と比較して、前年度ではメタボ該当者であった人が翌年度のメタボ予備群該当者である割合は減少しており、メタボ該当者・予備群ではなくなった者の割合も減少している。

男女別・年代別では、メタボ該当者であった人が翌年度のメタボ予備群該当者である割合が最も多いのは、女性の50-59歳（23.1％）であり、メタボ該当者・予備群ではなくなった者の割合が最も多いのも、女性の50-59歳（23.1％）である（図表3-4-3-4）。

図表3-4-3-3：メタボリックシンドローム該当者・予備群の減少率（経年変化）

メタボ該当者	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
昨年度のメタボ該当者	772	-	807	-	726	-	709	-	731	-
うち、当該年度のメタボ予備群	79	(10.2%)	64	(7.9%)	34	(4.7%)	53	(7.5%)	60	(8.2%)
うち、当該年度のメタボ該当者・予備群ではなくなった者	78	(10.1%)	88	(10.9%)	68	(9.4%)	76	(10.7%)	61	(8.3%)

メタボ予備群	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
昨年度のメタボ予備群	440	-	454	-	453	-	370	-	389	-
うち、当該年度のメタボ該当者・予備群ではなくなった者	82	(18.6%)	83	(18.3%)	72	(15.9%)	79	(21.4%)	71	(18.3%)

【出典】TKCA014 平成30年度から令和4年度

図表3-4-3-4：メタボリックシンドローム該当者・予備群の減少率（男女別・年代別）

男性・メタボ該当者	40-49歳		50-59歳		60-69歳		70-74歳		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
昨年度のメタボ該当者	9	-	35	-	154	-	298	-	496	-
うち、当該年度のメタボ予備群	2	(22.2%)	2	(5.7%)	13	(8.4%)	26	(8.7%)	43	(8.7%)
うち、当該年度のメタボ該当者・予備群ではなくなった者	0	(0.0%)	2	(5.7%)	12	(7.8%)	15	(5.0%)	29	(5.8%)

女性・メタボ該当者	40-49歳		50-59歳		60-69歳		70-74歳		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
昨年度のメタボ該当者	5	-	13	-	65	-	152	-	235	-
うち、当該年度のメタボ予備群	0	(0.0%)	3	(23.1%)	3	(4.6%)	11	(7.2%)	17	(7.2%)
うち、当該年度のメタボ該当者・予備群ではなくなった者	0	(0.0%)	3	(23.1%)	5	(7.7%)	24	(15.8%)	32	(13.6%)

男性・メタボ予備群	40-49歳		50-59歳		60-69歳		70-74歳		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
昨年度のメタボ予備群	17	-	26	-	88	-	139	-	270	-
うち、当該年度のメタボ該当者・予備群ではなくなった者	4	(23.5%)	5	(19.2%)	9	(10.2%)	23	(16.5%)	41	(15.2%)

女性・メタボ予備群	40-49歳		50-59歳		60-69歳		70-74歳		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
昨年度のメタボ予備群	4	-	11	-	46	-	58	-	119	-
うち、当該年度のメタボ該当者・予備群ではなくなった者	2	(50.0%)	2	(18.2%)	9	(19.6%)	17	(29.3%)	30	(25.2%)

【出典】TKCA011,012 令和4年度

③ メタボリックシンドローム該当者 重複判定（血糖、血圧、脂質）

追加リスクの重複状況（男女別）において、メタボ該当者では男女ともに高血圧症・脂質異常症該当者が多い。（図表3-4-3-5）。

また、メタボ予備群該当者では男女ともに高血圧症予備群が多い。

図表3-4-3-5：メタボリックシンドローム該当者 重複判定（男女別）

	男性		女性		合計	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合	人数（人）	割合
特定健診受診者数	1,638	-	2,218	-	3,856	-
腹囲基準値以上	944	57.6%	411	18.5%	1,355	35.1%
メタボ該当者	534	32.6%	249	11.2%	783	20.3%
高血糖・高血圧症該当者	89	5.4%	34	1.5%	123	3.2%
高血糖・脂質異常症該当者	27	1.6%	11	0.5%	38	1.0%
高血圧症・脂質異常症該当者	254	15.5%	134	6.0%	388	10.1%
高血糖・高血圧症・脂質異常症該当者	164	10.0%	70	3.2%	234	6.1%
メタボ予備群該当者	325	19.8%	132	6.0%	457	11.9%
高血糖予備群	22	1.3%	4	0.2%	26	0.7%
高血圧症予備群	238	14.5%	101	4.6%	339	8.8%
脂質異常症予備群	65	4.0%	27	1.2%	92	2.4%
腹囲のみ該当者	85	5.2%	30	1.4%	115	3.0%

【出典】KDB帳票 S21_025-厚生労働省様式（様式5－3） 令和4年度

追加リスクの重複状況（経年変化）において、令和4年度のメタボ該当者では高血圧症・脂質異常症該当者が多く、平成30年度と比較すると割合は横ばいである（図表3-4-3-6）。

令和4年度のメタボ予備群該当者では高血圧症予備群が多く、平成30年度と比較すると割合は増加している。

図表3-4-3-6：メタボリックシンドローム該当者 重複判定（経年変化）

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人数 (人)	割合	人数 (人)	割合	人数 (人)	割合	人数 (人)	割合	人数 (人)	割合
特定健診受診者数	4,510	-	4,222	-	3,745	-	4,069	-	3,856	-
腹囲基準値以上	1,567	34.7%	1,423	33.7%	1,303	34.8%	1,433	35.2%	1,355	35.1%
メタボ該当者	904	20.0%	800	18.9%	789	21.1%	863	21.2%	783	20.3%
高血糖・高血圧症該当者	130	2.9%	107	2.5%	108	2.9%	117	2.9%	123	3.2%
高血糖・脂質異常症該当者	51	1.1%	37	0.9%	28	0.7%	33	0.8%	38	1.0%
高血圧症・脂質異常症該当者	454	10.1%	410	9.7%	413	11.0%	447	11.0%	388	10.1%
高血糖・高血圧症・脂質異常症該当者	269	6.0%	246	5.8%	240	6.4%	266	6.5%	234	6.1%
メタボ予備群該当者	501	11.1%	490	11.6%	407	10.9%	466	11.5%	457	11.9%
高血糖予備群	32	0.7%	34	0.8%	24	0.6%	19	0.5%	26	0.7%
高血圧症予備群	352	7.8%	359	8.5%	300	8.0%	358	8.8%	339	8.8%
脂質異常症予備群	117	2.6%	97	2.3%	83	2.2%	89	2.2%	92	2.4%
腹囲のみ該当者	162	3.6%	133	3.2%	107	2.9%	104	2.6%	115	3.0%

【出典】KDB帳票 S21_025-厚生労働省様式（様式5－3） 平成30年度から令和4年度

追加リスクの重複状況（年代別）において、メタボ該当者では全年代で高血圧症・脂質異常症該当者が多い。（図表3-4-3-7）。

メタボ予備群該当者では全年代で高血圧症予備群が多い。

図表3-4-3-7：メタボリックシンドローム該当者 重複判定（年代別）

	40-64歳		65-74歳		合計	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合	人数（人）	割合
特定健診受診者数	921	-	2,935	-	3,856	-
腹囲基準値以上	314	34.1%	1,041	35.5%	1,355	35.1%
メタボ該当者	147	16.0%	636	21.7%	783	20.3%
高血糖・高血圧症該当者	23	2.5%	100	3.4%	123	3.2%
高血糖・脂質異常症該当者	17	1.8%	21	0.7%	38	1.0%
高血圧症・脂質異常症該当者	75	8.1%	313	10.7%	388	10.1%
高血糖・高血圧症・脂質異常症該当者	32	3.5%	202	6.9%	234	6.1%
メタボ予備群該当者	114	12.4%	343	11.7%	457	11.9%
高血糖予備群	10	1.1%	16	0.5%	26	0.7%
高血圧症予備群	66	7.2%	273	9.3%	339	8.8%
脂質異常症予備群	38	4.1%	54	1.8%	92	2.4%
腹囲のみ該当者	53	5.8%	62	2.1%	115	3.0%

【出典】KDB帳票 S21_025-厚生労働省様式（様式5－3） 令和4年度

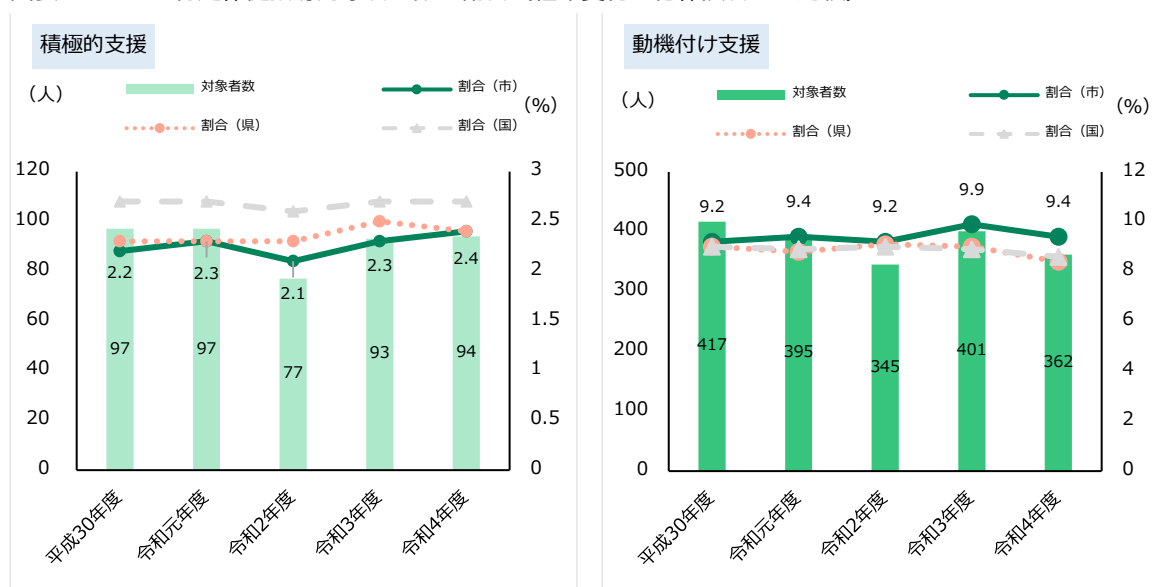
(4) 特定保健指導実施率・効果と推移

① 特定保健指導対象者人数、割合

令和4年度の特定健診受診者のうち特定保健指導の対象者は、積極的支援では94人（2.4%）で、その割合は県と比較して同程度である（図表3-4-4-1）。動機付け支援の対象者は362人（9.4%）で、その割合は県・国と比較して高い。

また、平成30年度と比較して、積極的支援・動機付け支援の対象者割合は同程度である。

図表3-4-4-1：特定保健指導対象者人数、割合（経年変化・他保険者との比較）



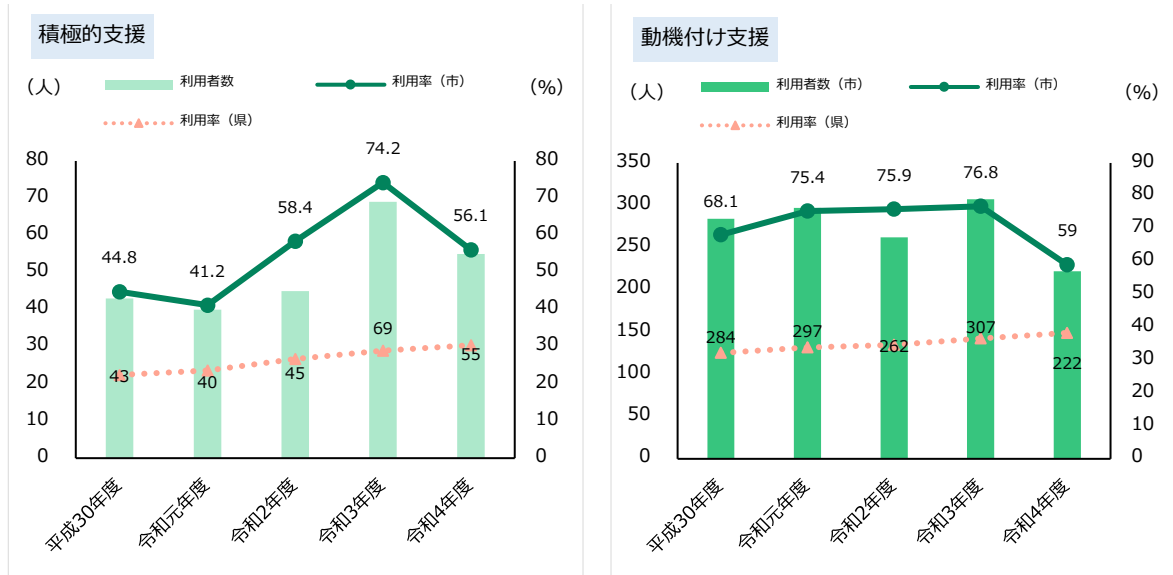
【出典】KDB帳票 S21_008-健診の状況 平成30年度から令和4年度 累計

② 特定保健指導利用率・実施率（＝終了率）

令和4年度の特定保健指導の利用率は、積極的支援では55人（56.1%）で、その割合は県と比較して高い（図表3-4-4-2）。動機付け支援では222人（59.0%）で、その割合は県と比較して高い。

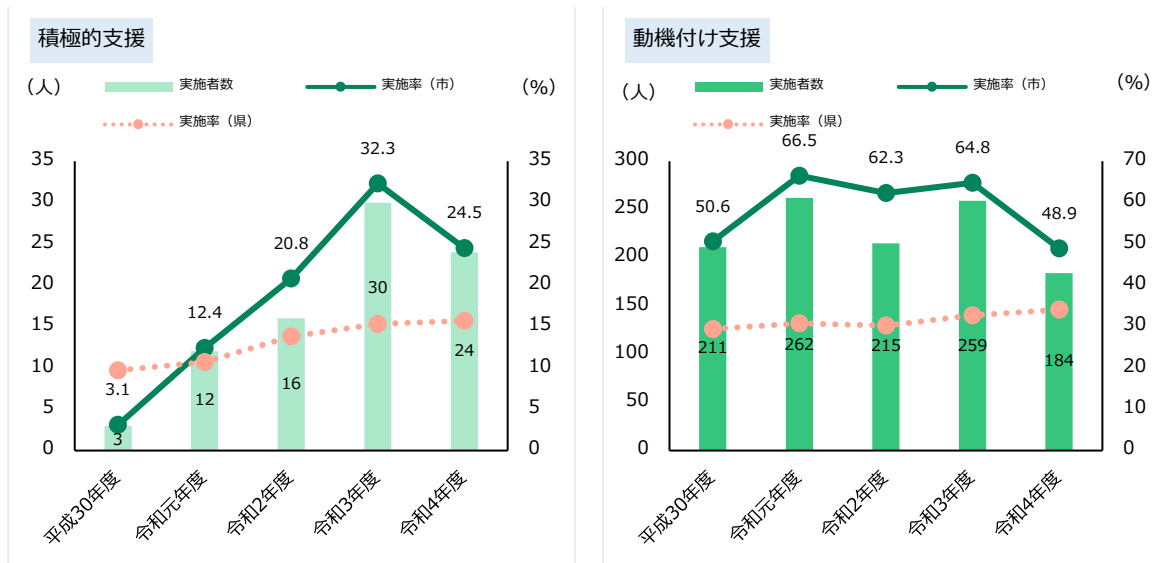
また、特定保健指導の実施率は、積極的支援では24人（24.5%）で、その割合は県と比較して高い（図表3-4-4-3）。動機付け支援では184人（48.9%）で、その割合は県と比較して高い。

図表3-4-4-2：特定保健指導利用者数・利用率（経年変化・他保険者との比較）



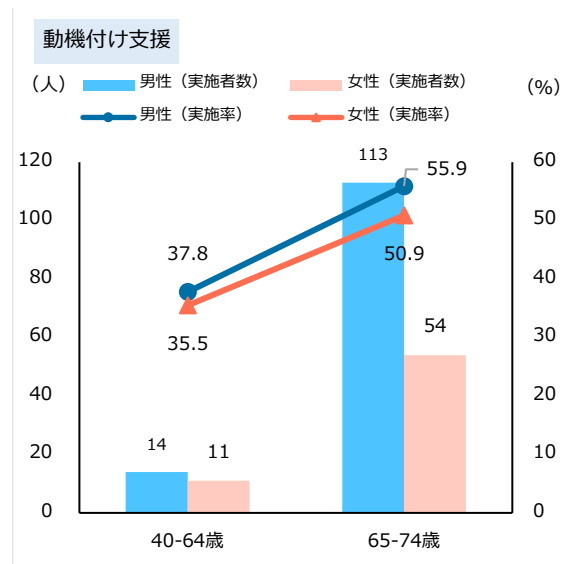
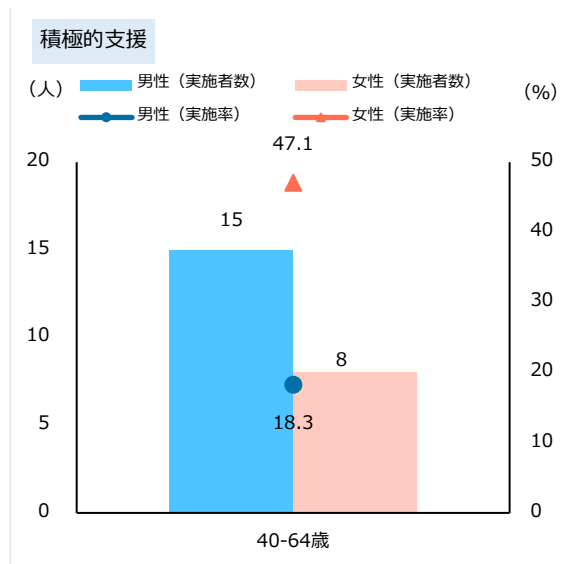
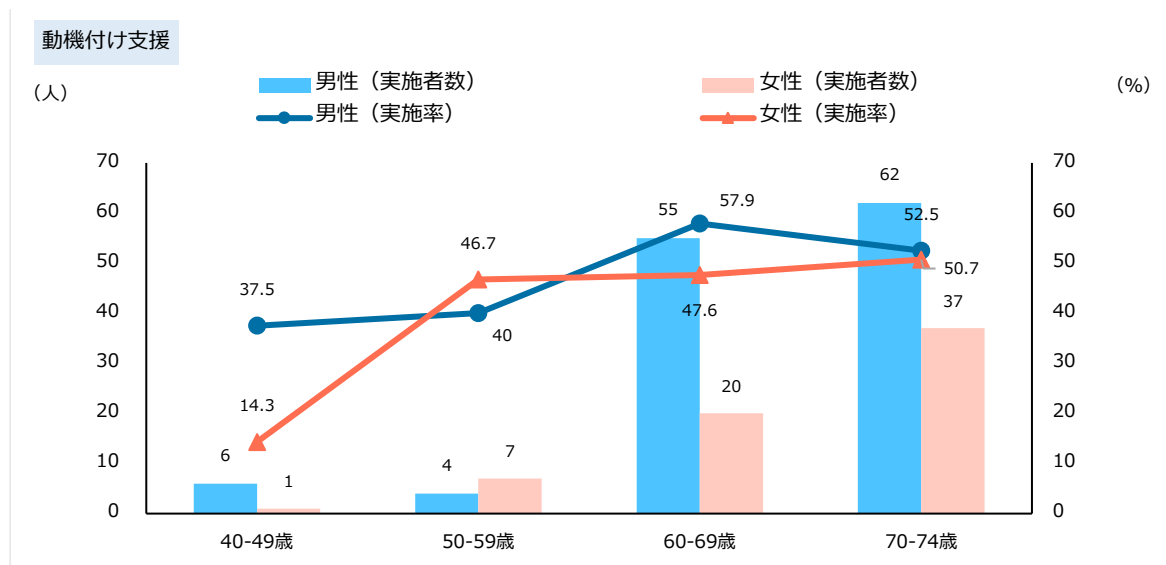
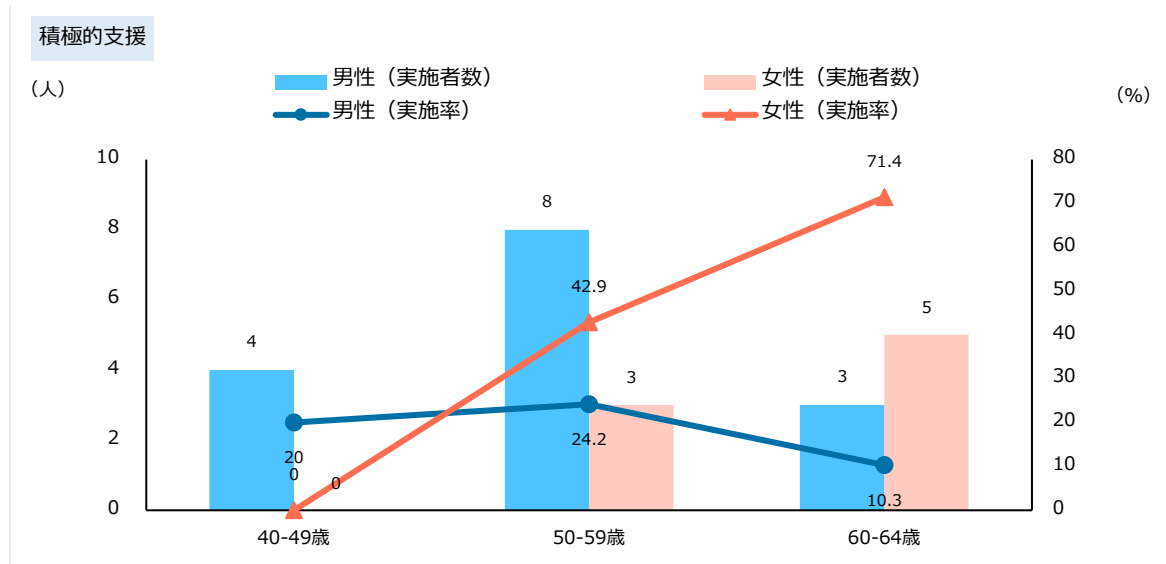
【出典】TKCA015 平成30年度から令和4年度

図表3-4-4-3：特定保健指導実施者数・実施率（経年変化・他保険者との比較）



【出典】TKCA015 平成30年度から令和4年度

図表3-4-4-4：令和4年度特定保健指導実施者数・実施率（男女別・年代別）



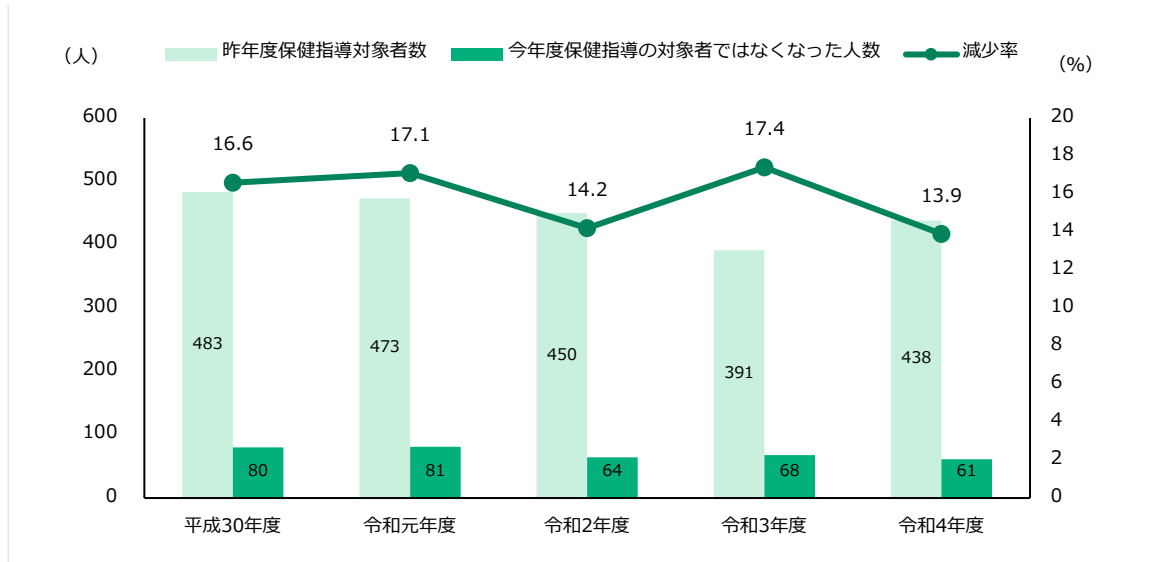
【出典】KDB帳票 S21_008-健診の状況 令和4年度 累計

③ 特定保健指導対象者の減少人数、割合

特定保健指導において、令和3年度では特定保健指導対象者であった438人のうち、令和4年度の特定保健指導対象者ではなくなった人は61人（13.9%）である（図表3-4-4-5）。

また、平成30年度と比較して、前年度では特定保健指導対象者であった人が翌年度の特定保健指導対象者でなくなった人の割合は減少している。

図表3-4-4-5：特定保健指導対象者の減少人数、割合



	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人数	減少率	人数	減少率	人数	減少率	人数	減少率	人数	減少率
昨年度の特定保健指導対象者	483	-	473	-	450	-	391	-	438	-
うち、今年度の特定保健指導対象者ではなくなった者	80	16.6%	81	17.1%	64	14.2%	68	17.4%	61	13.9%

男性	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人数	減少率	人数	減少率	人数	減少率	人数	減少率	人数	減少率
昨年度の特定保健指導対象者	312	-	302	-	297	-	251	-	290	-
うち、今年度の特定保健指導対象者ではなくなった者	54	17.3%	50	16.6%	40	13.5%	43	17.1%	39	13.4%

女性	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人数	減少率	人数	減少率	人数	減少率	人数	減少率	人数	減少率
昨年度の特定保健指導対象者	171	-	171	-	153	-	140	-	148	-
うち、今年度の特定保健指導対象者ではなくなった者	26	15.2%	31	18.1%	24	15.7%	25	17.9%	22	14.9%

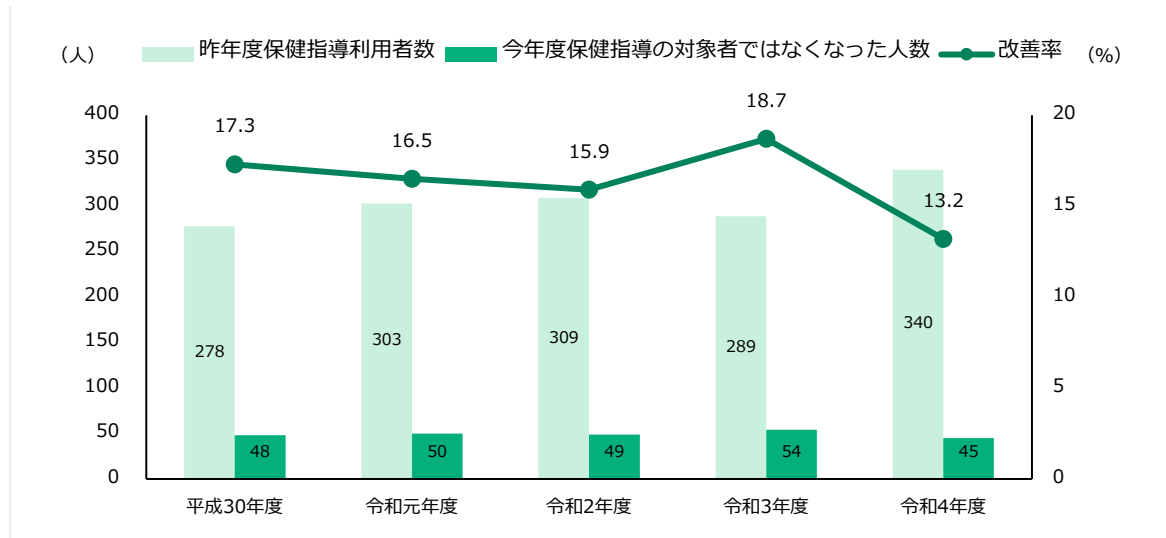
【出典】TKCA014 平成30年度から令和4年度

④ 特定保健指導による改善人数、割合

特定保健指導において、令和3年度では特定保健指導利用者であった340人のうち、令和4年度の特定保健指導対象者ではなくなった人は45人（13.2%）である（図表3-4-4-6）。

また、平成30年度と比較して、前年度では特定保健指導利用者であった人が翌年度の特定保健指導対象者でなくなった人の割合は減少している。

図表3-4-4-6：特定保健指導による改善人数、割合



	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人数	改善率	人数	改善率	人数	改善率	人数	改善率	人数	改善率
昨年度の特定保健指導利用者	278	-	303	-	309	-	289	-	340	-
うち、今年度の特定保健指導対象者ではなくなった者	48	17.3%	50	16.5%	49	15.9%	54	18.7%	45	13.2%

男性	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人数	改善率	人数	改善率	人数	改善率	人数	改善率	人数	改善率
昨年度の特定保健指導利用者	174	-	185	-	191	-	180	-	219	-
うち、今年度の特定保健指導対象者ではなくなった者	30	17.2%	33	17.8%	28	14.7%	32	17.8%	28	12.8%

女性	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人数	改善率	人数	改善率	人数	改善率	人数	改善率	人数	改善率
昨年度の特定保健指導利用者	104	-	118	-	118	-	109	-	121	-
うち、今年度の特定保健指導対象者ではなくなった者	18	17.3%	17	14.4%	21	17.8%	22	20.2%	17	14.0%

【出典】TKCA014 平成30年度から令和4年度

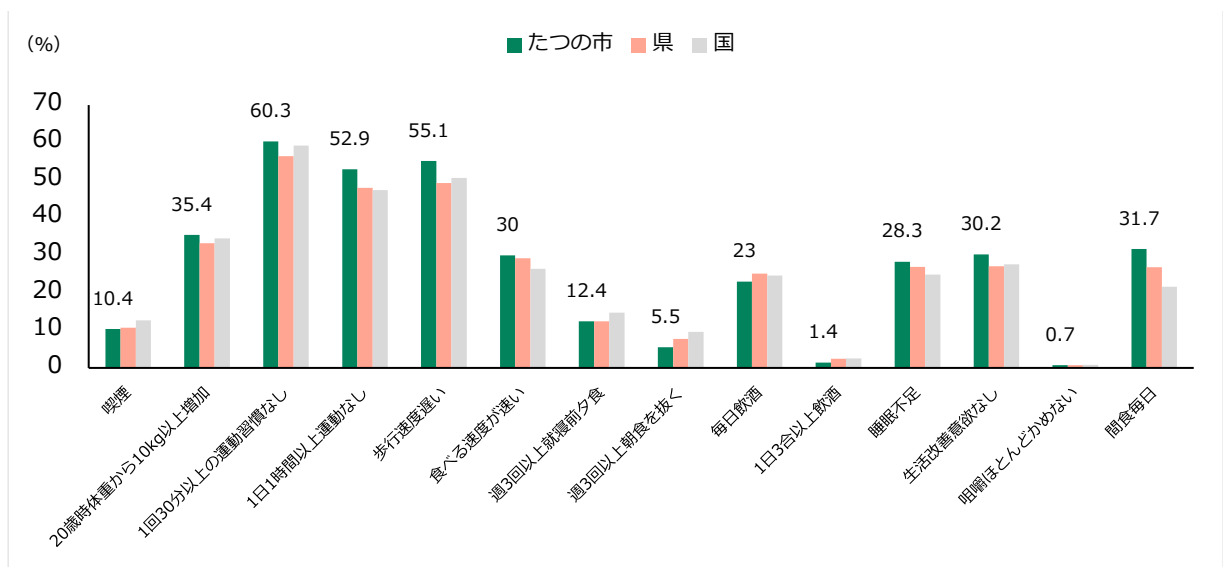
5 生活習慣の状況

(1) 健診質問票結果とその比較

令和4年度の特定健診受診者の質問票の回答状況は、県・国と比較して「20歳時体重から10kg以上増加」「1回30分以上の運動習慣なし」「1日1時間以上運動なし」「歩行速度遅い」「食べる速度が速い」「睡眠不足」「生活改善意欲なし」「間食毎日」の回答割合が高い（図表3-5-1-1）。

また、平成30年度と比較して「1回30分以上の運動習慣なし」「歩行速度遅い」「週3回以上朝食を抜く」「毎日飲酒」「1日3合以上飲酒」「睡眠不足」「間食毎日」と回答する割合が増加している（図表3-5-1-2）。

図表3-5-1-1：質問票調査結果（他保険者との比較）



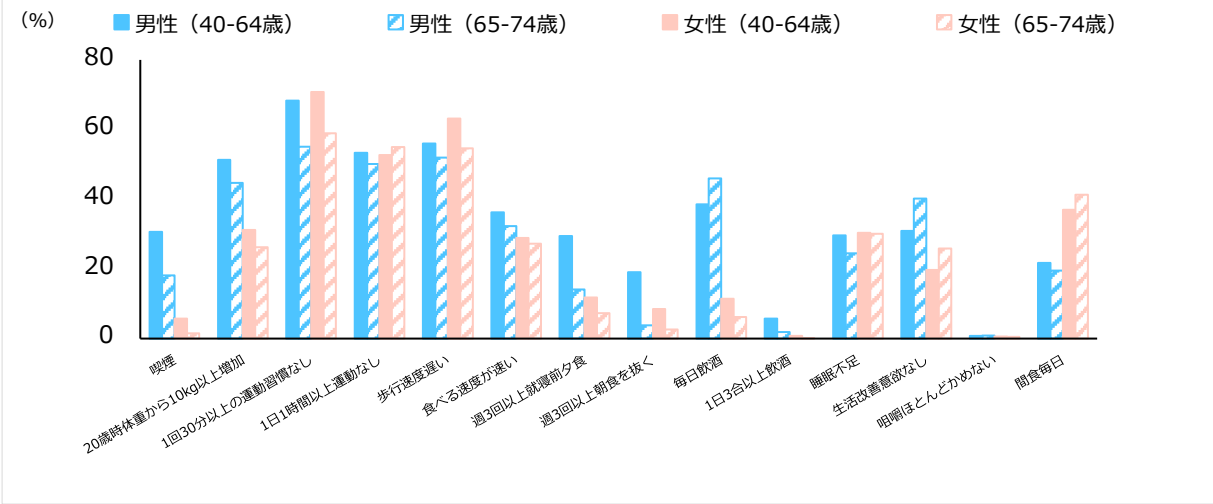
【出典】KDB帳票 S25_001-質問票調査の経年比較 令和4年度

図表3-5-1-2：質問票調査結果（経年変化・他保険者との比較）

		喫煙	20歳時体重から10kg以上増加	1回30分以上の運動習慣なし	1日1時間以上運動なし	歩行速度遅い	食べる速度が速い	週3回以上就寝前夕食	週3回以上朝食を抜く	毎日飲酒	1日3合以上飲酒	睡眠不足	生活改善意欲なし	咀嚼ほとんどかめない	間食毎日
平成30年度	たつの市	11.4%	37.2%	59.0%	54.6%	54.1%	33.5%	13.2%	4.8%	22.6%	1.6%	27.9%	31.3%	0.8%	30.9%
	県	10.7%	33.2%	56.4%	48.0%	49.2%	29.2%	12.4%	7.7%	25.1%	2.4%	26.9%	27.1%	0.7%	26.8%
令和4年度	たつの市	10.4%	35.4%	60.3%	52.9%	55.1%	30.0%	12.4%	5.5%	23.0%	1.4%	28.3%	30.2%	0.7%	31.7%
	国	12.7%	34.5%	59.2%	47.4%	50.6%	26.4%	14.7%	9.6%	24.6%	2.5%	24.9%	27.6%	0.8%	21.6%

【出典】KDB帳票 S25_001-質問票調査の経年比較 令和4年度

図表3-5-1-3：令和4年度質問票調査結果（男女別・年代別）



性別	年代	喫煙	20歳時 体重から 10kg以上 増加	1回30分 以上の運 動習慣なし	1日1時 間以上運 動なし	歩行速度 遅い	食べる速 度が速い	週3回以 上就寝前 夕食	週3回以 上朝食を 抜く	毎日飲酒	1日3合 以上飲酒	睡眠不足	生活改善 意欲なし	咀嚼ほと んどかめ ない	間食毎日
男性	40-64歳	30.6%	51.3%	68.3%	53.3%	56.0%	36.2%	29.4%	19.1%	38.5%	5.7%	29.6%	30.9%	0.8%	21.7%
	65-74歳	18.1%	44.7%	55.1%	50.1%	52.0%	32.3%	14.1%	3.8%	46.0%	1.9%	24.5%	40.2%	0.9%	19.5%
女性	40-64歳	5.7%	31.2%	70.8%	52.7%	63.2%	28.9%	11.8%	8.5%	11.4%	0.8%	30.4%	19.7%	0.6%	37.0%
	65-74歳	1.5%	26.2%	58.9%	55.0%	54.6%	27.2%	7.3%	2.6%	6.2%	0.1%	30.1%	25.9%	0.5%	41.3%

性別	年代	喫煙	20歳時 体重から 10kg以上 増加	1回30分 以上の運 動習慣なし	1日1時 間以上運 動なし	歩行速度 遅い	食べる速 度が速い	週3回以 上就寝前 夕食	週3回以 上朝食を 抜く	毎日飲酒	1日3合 以上飲酒	睡眠不足	生活改善 意欲なし	咀嚼ほと んどかめ ない	間食毎日
男性	40-49歳	35.1%	50.5%	73.0%	50.5%	58.6%	45.9%	39.6%	25.2%	36.9%	6.2%	36.9%	27.9%	1.8%	30.0%
	50-59歳	36.6%	51.8%	66.0%	52.5%	60.3%	29.1%	25.5%	19.9%	33.6%	4.5%	27.0%	34.0%	0.7%	19.1%
	60-69歳	21.7%	47.9%	59.4%	53.2%	53.2%	34.3%	18.3%	7.7%	45.5%	3.0%	28.2%	35.7%	0.8%	17.8%
	70-74歳	16.4%	43.8%	54.5%	49.2%	50.9%	31.5%	13.5%	3.0%	46.1%	2.0%	22.5%	41.3%	0.8%	20.3%
	合計	21.1%	46.3%	58.3%	50.9%	53.0%	33.2%	17.9%	7.5%	44.2%	2.8%	25.7%	37.9%	0.9%	20.0%
女性	40-49歳	10.7%	34.0%	76.7%	53.4%	71.8%	25.2%	9.7%	14.6%	11.7%	0.8%	24.3%	17.5%	1.0%	36.9%
	50-59歳	6.5%	35.0%	70.3%	51.4%	60.1%	33.3%	14.8%	10.4%	10.9%	0.5%	31.1%	17.5%	0.5%	38.8%
	60-69歳	2.4%	25.1%	64.1%	55.3%	55.5%	26.5%	7.6%	3.3%	8.5%	0.3%	30.9%	23.3%	0.6%	39.6%
	70-74歳	1.1%	27.2%	56.9%	54.4%	55.4%	27.7%	7.6%	2.4%	5.5%	0.2%	30.0%	27.2%	0.5%	41.3%
	合計	2.5%	27.3%	61.7%	54.5%	56.6%	27.6%	8.3%	4.0%	7.4%	0.3%	30.2%	24.5%	0.5%	40.3%

【出典】 KDB帳票 S25_001-質問票調査の経年比較 令和4年度

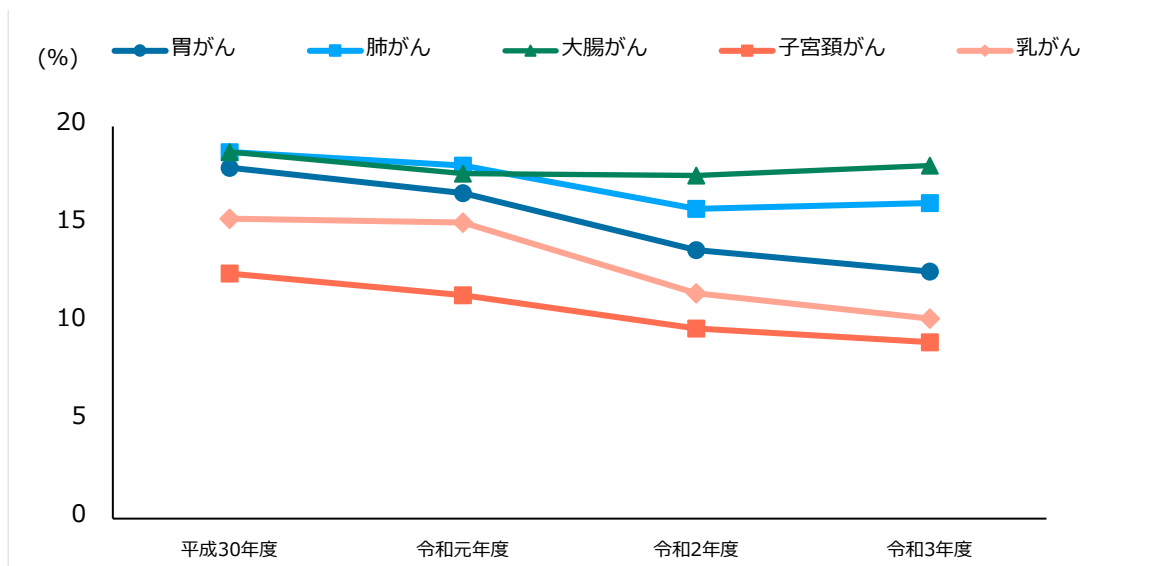
6 がん検診の状況

国保被保険者における下表の5つのがん検診の平均受診率は、令和3年度では13.2%であり、平成30年度と比較して減少している（図表3-6-1-1）。

また、平均受診率は、県と比較して高い（図表3-6-1-2）。

図表3-6-1-1：がん検診の状況（経年変化）

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん	5がん平均
平成30年度	17.9%	18.7%	18.7%	12.5%	15.3%	16.6%
令和元年度	16.6%	18.0%	17.6%	11.4%	15.1%	15.7%
令和2年度	13.7%	15.8%	17.5%	9.7%	11.5%	13.6%
令和3年度	12.6%	16.1%	18.0%	9.0%	10.2%	13.2%



【出典】厚生労働省 地域保健・健康増進事業報告 平成30年度から令和3年度

図表3-6-1-2：がん検診の状況（他保険者との比較）

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん	5がん平均
たつの市	12.6%	16.1%	18.0%	9.0%	10.2%	13.2%
県	7.5%	12.5%	12.7%	11.0%	13.6%	11.5%

【出典】厚生労働省 地域保健・健康増進事業報告 令和3年度

7 介護の状況（一体的実施の状況）

（1）要介護（要支援）認定者人数・割合

令和4年度の要介護または要支援の認定を受けた人において、第1号被保険者（65歳以上）は4,524人、認定率19.4%で、県と比較して低い（図表3-7-1-1）。第2号被保険者（40～64歳）は88人、認定率0.4%で、県・国と比較して同程度である。

また、1号及び2号の要介護（要支援）認定率は、平成30年度と比較して増加している。

図表3-7-1-1：要介護（要支援）認定者人数・割合



【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計

(2) 介護保険サービス認定者一人当たりの介護給付費

令和4年度の認定者一人当たりの介護給付費は、第1号被保険者では約131万円で県・国と比較して少なく、第2号被保険者では約100万円で県・国と比較して少ない（図表3-7-2-1）。

また、令和4年度の認定者一人当たりの介護給付費は、平成30年度と比較して第1号被保険者、第2号被保険者ともに増加している。

図表3-7-2-1：介護保険サービス認定者一人当たりの介護給付費

	平成30年度				令和4年度					
	認定者数 (人)	総給付件数 (件)	総給付費 (百万円)	認定者 一人当たり給 付費 (千円)	認定者数 (人)	総給付件数 (件)	総給付費 (百万円)	認定者 一人当たり 給付費 (千円)	県 一人当たり 給付費 (千円)	国 一人当たり 給付費 (千円)
1号	4,252	95,984	5,480	1,289	4,524	104,905	5,940	1,313	1,338	1,468
2号	103	2,299	94	909	88	2,238	88	998	1,205	1,318

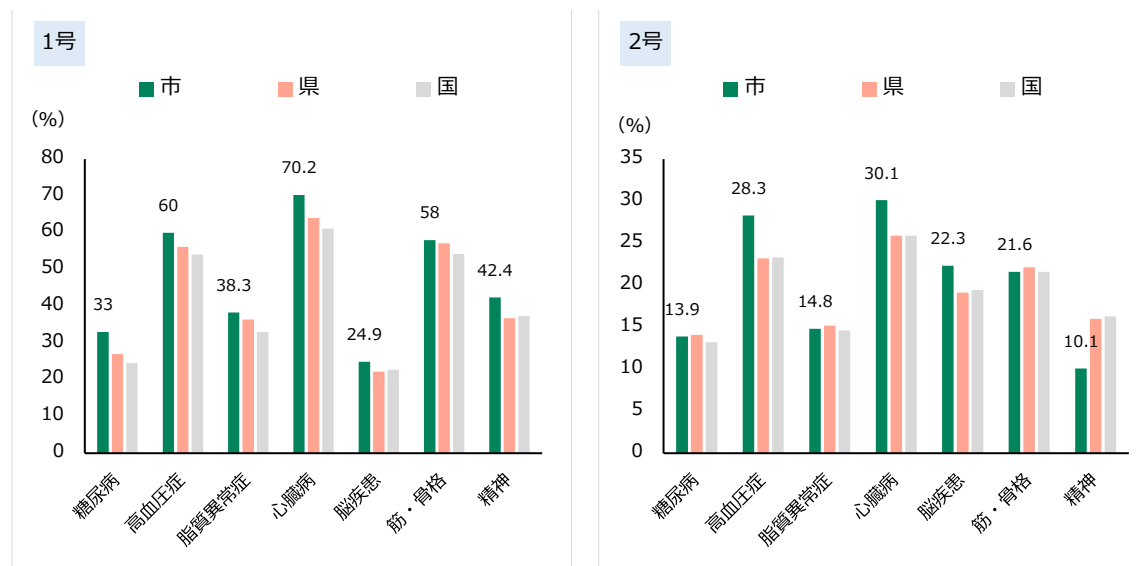
【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度・令和4年度 累計
KDB帳票 S25_004-医療・介護の突合（経年変化） 令和4年度

(3) 要介護（要支援）認定者有病率

要介護または要支援の認定者の有病率において、第1号被保険者では「心臓病」が70.2%と最も高く、次いで「高血圧症」（60.0%）、「筋・骨格」（58.0%）である（図表3-7-3-1）。第2号被保険者では「心臓病」が30.1%と最も高く、次いで「高血圧症」（28.3%）、「脳疾患」（22.3%）である。

また、平成30年度と比較して第1号被保険者では「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」「精神」の有病率が増加しており、第2号被保険者では全ての項目において減少している。

図表3-7-3-1：要介護（要支援）認定者有病率



	平成30年度	令和4年度	変化
糖尿病	30.0%	33.0%	↗
高血圧症	59.5%	60.0%	↗
脂質異常症	35.7%	38.3%	↗
心臓病	70.5%	70.2%	↘
脳疾患	29.7%	24.9%	↘
筋・骨格	59.1%	58.0%	↘
精神	42.4%	42.4%	↗

	平成30年度	令和4年度	変化
糖尿病	21.8%	13.9%	↘
高血圧症	32.9%	28.3%	↘
脂質異常症	23.8%	14.8%	↘
心臓病	35.4%	30.1%	↘
脳疾患	26.1%	22.3%	↘
筋・骨格	29.5%	21.6%	↘
精神	16.3%	10.1%	↘

【出典】KDB帳票 S25_006-医療・介護の突合（有病状況） 平成30年度・令和4年度

8 その他の状況

(1) 頻回重複受診者の状況

① 多受診状況 医療機関数×受診日数（／月）

令和4年度における多受診の該当者は9人である（図表3-8-1-1）。

※多受診該当者：同一月内において、3医療機関以上かつ15日以上外来受診している方

図表3-8-1-1：多受診状況

受診医療機関数（同一月内）		同一医療機関への受診日数				
		1日以上	5日以上	10日以上	15日以上	20日以上
受診した人	2医療機関以上	3,946	341	79	20	4
	3医療機関以上	1,226	159	45	9	2
	4医療機関以上	288	44	13	2	1
	5医療機関以上	69	14	4	1	0

【出典】KDB帳票 S27_012-重複・頻回受診の状況 令和4年度

② 重複服薬状況 医療機関数×薬剤数（／月）

令和4年度における重複処方該当者は117人である（図表3-8-1-2）。

※重複処方該当者：重複処方を受けた人のうち、3医療機関以上かつ複数の医療機関から重複処方が発生した薬剤数が1以上、または2医療機関以上かつ複数の医療機関から重複処方が発生した薬剤数が2以上に該当する者

図表3-8-1-2：重複服薬状況

他医療機関との重複処方が発生した医療機関数（同一月内）		複数の医療機関から重複処方が発生した薬剤分類数（同一月内）									
		1以上	2以上	3以上	4以上	5以上	6以上	7以上	8以上	9以上	10以上
重複処方を受けた人	2医療機関以上	421	101	27	2	1	1	1	0	0	0
	3医療機関以上	16	11	6	0	0	0	0	0	0	0
	4医療機関以上	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0
	5医療機関以上	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0

【出典】KDB帳票 S27_013-重複・多剤処方の状況 令和4年度

③ 多剤服薬状況 処方日数×薬剤数（／月）

令和4年における多剤処方該当者数は、17人である（図表3-8-1-3）。

※多剤処方該当者：同一薬剤に関する処方日数が1日以上かつ処方薬効数（同一月内）が15以上に該当する者

図表3-8-1-3：多剤服薬状況

	処方薬効数（同一月内）											
	1以上	2以上	3以上	4以上	5以上	6以上	7以上	8以上	9以上	10以上	15以上	20以上
1日以上	7,907	6,392	4,931	3,565	2,491	1,663	1,105	737	447	283	17	1
15日以上	6,464	5,622	4,490	3,345	2,386	1,613	1,077	724	440	281	17	1
30日以上	4,971	4,394	3,625	2,778	2,021	1,416	957	660	401	263	17	1
60日以上	2,399	2,160	1,860	1,480	1,110	817	569	411	252	164	14	1
90日以上	1,027	905	796	651	492	365	254	182	118	72	6	0
120日以上	429	392	346	281	214	158	113	83	52	31	5	0
150日以上	203	177	158	124	94	68	46	35	19	15	1	0
180日以上	130	111	97	77	61	41	29	22	9	7	0	0

【出典】KDB帳票 S27_013-重複・多剤処方の状況 令和4年度

(2) ジェネリック普及状況

① ジェネリック医薬品普及率

令和4年9月時点の後発医薬品の使用割合は83.5%で、県の79.2%と比較して4.3ポイント高い（図表3-8-2-1）。

図表3-8-2-1：ジェネリック医薬品普及率

	平成30年9月	平成31年3月	令和元年9月	令和2年3月	令和2年9月	令和3年3月	令和3年9月	令和4年3月	令和4年9月
たつの市	75.9%	77.4%	77.4%	80.3%	81.3%	82.4%	82.2%	82.3%	83.5%
県	72.7%	74.6%	74.7%	77.2%	77.9%	78.8%	78.6%	78.7%	79.2%

【出典】保険者別の後発医薬品の使用割合 平成30年度から令和4年度

② ジェネリック医薬品軽減可能額

令和4年度のジェネリック医薬品軽減による最大効果額は720万1,569円である（図表3-8-2-2）。

図表3-8-2-2：ジェネリック医薬品軽減可能額

最大効果額		
全体	保険者負担	自己負担
7,201,569	5,345,645	1,855,924

【出典】KDB帳票 KDKI0004 令和4年度

③ 上位10位ジェネリック医薬品軽減可能額

令和4年度のジェネリック医薬品軽減可能額が高い薬効は「その他の腫瘍用薬」である（図表3-8-2-3）。

図表3-8-2-3：上位10位ジェネリック医薬品軽減可能額

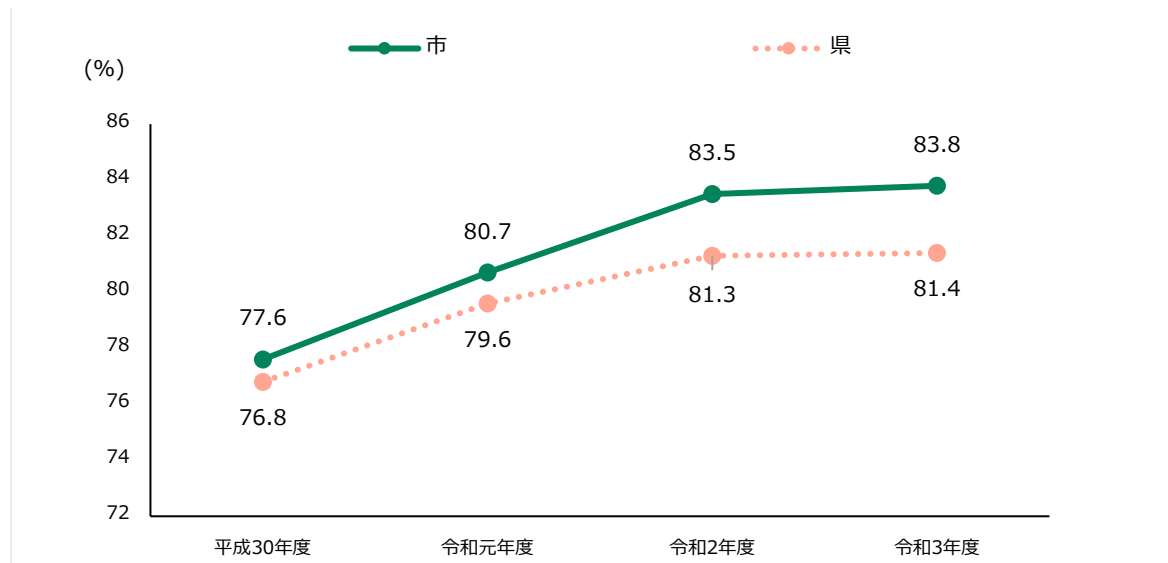
順位	薬効		医薬品数	薬剤料額	最大効果額	1剤当たりの最大効果額
	薬効分類コード	薬効分類名称				
1位	429	その他の腫瘍用薬	113	17,195,721	1,711,726	15,148
2位	117	精神神経用剤	2,119	3,621,481	813,632	384
3位	131	眼科用剤	2,626	3,017,084	421,803	161
4位	214	血圧降下剤	3,071	4,087,170	325,423	106
5位	399	他に分類されない代謝性医薬品	724	6,419,359	314,248	434
6位	113	抗てんかん剤	574	1,381,221	297,137	518
7位	213	利尿剤	380	969,780	293,280	772
8位	218	高脂血症用剤	2,726	2,598,258	278,651	102
9位	232	消化性潰瘍用剤	3,010	3,706,488	277,972	92
10位	449	その他のアレルギー用薬	2,247	3,008,919	247,015	110

【出典】KDB帳票 KDKI0010 令和4年度

④ ジェネリック医薬品 削減率 切り替え率

令和3年度のジェネリック医薬品切り替え率は83.8%であり、平成30年度と比較して高く、県と比較しても高い（図表3-8-2-4）。

図表3-8-2-4：ジェネリック医薬品切り替え率



【出典】厚生労働省 調剤医療費の動向 各年度3月時点データを使用 平成30年度から令和3年度

第4章 現状のまとめ 健康課題の明確化

1 健康課題の整理

(1) 第3期データヘルス計画で取り組むべき課題

第2期データヘルス計画を踏まえ、現状分析の結果見えてきた課題を示します。いずれの課題もデータヘルス計画全体の目的である**健康増進**と**保険者として努めるべき医療費適正化**に必要な課題です。

課題	優先度	現状分析からの示唆
生活習慣病のリスク未把握者が多い	大	特定健診受診率を高めることで、メタボリックシンドローム該当者や糖尿病・高血圧症の疑いのある対象者を把握し、保健指導や医療などの予防のために必要な支援を提供できます。第2期の取組により特定健診受診率はH30年度の35.1%からR4年度の35.5%へと横ばいで推移しており、目標値である60%に到達しておらず、第3期も引き続き特定健診受診率が低いことが健康課題となっています。
メタボ該当・予備群割合が大きい	大	肥満や高血圧・高血糖・脂質異常などに複数該当する状態をメタボリックシンドロームと呼び脳血管障害・心疾患・腎不全など重篤な疾患の発症の危険性が高まります。生活習慣の改善や保健指導・医療の受診が必要な場合があります。 メタボリックシンドロームの該当者は783人（20.3%）、予備群は457人（11.9%）であり、H30年度と比較すると、メタボ該当者の割合は横ばいとなっている一方で、予備群該当者の割合は増加しており、引き続き第3期で取組が必要な健康課題です。
受診勧奨判定値を超える者が多い	大	高血圧・高血糖・脂質異常などの異常値は、脳血管障害・心疾患・腎不全など重篤な疾患の発症に繋がります。特に受診勧奨判定値を超える場合は適切な医療機関受診が必要です。 高血圧・高血糖・脂質異常で受診勧奨判定値を超える者は、血糖では365人、血圧では1,306人、脂質では1,026人であり、高血糖において97人が糖尿病の受診を確認できない医療機関未受診者となっています。特に、糖尿病が重症化するリスクの高いHbA1c8.0以上の該当者は7人であり、H30年度の11人から減少しているものの、引き続き第3期で取組が必要な健康課題です。
がん検診受診率が低い	大	がんによる死亡は死因の上位をしめています。がん検診はがんによる死亡を予防する効果があります。 がん検診の平均受診率は13.2%であり、H30年度の16.6%から減少しており、引き続き第3期で取組が必要な健康課題です。
後発医薬品の普及促進	大	後発医薬品（ジェネリック医薬品）は、先発医薬品と同等ながら安価であるため、後発医薬品の普及は、患者負担の軽減や医療保険財政の改善に資するものです。後発医薬品の普及率はH30年度の77.4%からR4年度の83.7%へと増加している。目標値である80%に到達しているが、引き続き第3期の課題として取組を続けます。
不適切受診者・服薬者を減らす	中	不適切受診・服薬（重複受診、頻回受診、重複服薬、多剤投与、併用禁忌等）は、医療費適正化の観点だけでなく、薬の副作用を予防する点からも重要です。 重複処方該当者は117人、多剤処方該当者17人であり、引き続き第3期で取組が必要な健康課題です。

(2) 第3期データヘルス計画で取り組むべき課題（目的）ごとに対応する個別保健事業

課題（個別目的）		対応する個別保健事業
脳・心・腎臓病予防	生活習慣病のリスク未把握者が多い （生活習慣病のリスク未把握者を減らす）	・ 特定健康診査 ・ 特定健診未受診者対策 ・ 特定健診40歳前勧奨
	メタボ該当・予備群割合が多い （メタボ該当・予備群割合を減らす）	・ 特定保健指導 ・ 特定保健指導未利用者対策 ・ 生活習慣病予防事業（出前講座、健康運動の普及（自主トレーニング講習会、自主トレーニング、アクティブフィットネス教室、たっちゃん体操普及、ドラゴンウォーク登録）、広報ホームページ掲載）
	受診勧奨値を超える人が多い （受診勧奨値を超える人を減らす）	・ 高血圧症、糖尿病重症化予防 ・ 糖尿病性腎症重症化予防（糖尿病を起因とする人工透析者の減少を図る糖尿病性腎症重症化予防事業）
がん予防	がん検診受診率が低い（がん検診受診率を上げる）	・ がん検診等（肺がん・胃がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がん・肝炎ウイルス検診） →国保被保険者以外も対象とするため、第4次健康増進計画内にて詳細な事業を検討
医療費適正化	後発医薬品の普及割合を上げる	・ ジェネリック医薬品差額通知
	不適切受診・服薬者を減らす	・ 重複・頻回受診者等の適正受診対策

(3) 課題ごとの目標設定

課題（個別目的）		目標	
		指標	R11目標値（現状値）
脳・心・腎臓病予防	生活習慣病のリスク未把握者が多い （特定健診未受診者が多い） /生活習慣病のリスク未把握者を減らす	特定健診受診者の割合	60%（35.5%）
	メタボ該当・予備群が多い /メタボ該当者及び予備軍を減らす	メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の割合	減少
	受診勧奨値を超える人が多い（血糖・血圧・脂質） /受診勧奨値を超える人を減らす	数値改善者の割合 医療機関受診率	増加
がん予防	がん検診受診率が低い /がん検診受診率を上げる	健康増進計画内にて詳細な指標を検討	健康増進計画内にて詳細な目標を検討
医療費適正化	後発医薬品の普及割合を上げる	後発医薬品の切替割合	80%（83.7%）
	不適切受診・服薬者を減らす	重複・頻回受診・重複・多剤服薬者割合	減少

2 計画全体の整理

(1) 第3期データヘルス計画の大目的

大目的
健康的な環境の整備、国民健康保険被保険者の健康意識・生活環境の改善に向けた取組を推進し、国保被保険者のさらなる健康、より健康的な生活の実現を目指します。また、それらの目的の達成のため、大目的に紐づく個別目的を下記に設定します。

(2) 個別目的と対応する個別保健事業

個別目的	指標	目標値 (現状値)	対応する個別保健事業
生活習慣病のリスク未把握者を減らす	特定健診受診者の割合	60% (35.5%)	- 特定健康診査 - 特定健診未受診者対策 - 特定健診40歳前勧奨
メタボ該当者及び予備軍を減らす	メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の割合	減少	- 特定保健指導 - 特定保健指導未利用者対策 - 生活習慣病予防事業（出前講座、健康運動の普及（自主トレーニング講習会、自主トレーニング、アクティブフィットネス教室、たっちゃん体操普及、ドラゴンウォーク登録）、広報ホームページ掲載）
受診勧奨値を超える人を減らす	数値改善者の割合 医療機関受診率	増加	- 高血圧症、糖尿病重症化予防 - 糖尿病性腎症重症化予防（糖尿病を起因とする人工透析者の減少を図る糖尿病性腎症重症化予防事業）
がん検診受診率を上げる	健康増進計画内にて詳細な指標を検討	—	- がん検診等（肺がん・胃がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がん・肝炎ウイルス検診）→第4次健康増進計画内にて詳細な事業を検討
後発医薬品の普及割合を上げる	後発医薬品の切替割合	80% (83.7%)	- ジェネリック医薬品差額通知
不適切受診・服薬者を減らす	重複・頻回受診・重複・多剤服薬者割合	減少	- 重複・頻回受診者等の適正受診対策

第5章 保健事業の内容

1 個別保健事業計画

(1) 特定健康診査

① 事業概要

事業名	特定健康診査
事業開始年度	平成20年度
目的	生活習慣病予防 特定健診受診率向上
事業内容	・市民総合健診または市内の医療機関で特定健診を実施する。集団健診は、はつらつセンター・コミュニティセンター・公民館・総合支所などで実施（5月～11月）。個別健診は健診委託医療機関において実施。 ・特定健診の個人負担金：無料（特定健診受診券が必要） ・特定健診と同時に実施する大腸がん検診の自己負担金を無料 ・基本項目として尿酸値、貧血、eGFR値、血清クレアチニン検査を実施
対象者	40歳～74歳のたつの市国保被保険者

② 事業評価

評価指標		策定時実績 R4年度	市町目標	県目標
ストラクチャー	事業運営のための担当職員の配置	100%	100%	100%
プロセス	内容や方法について実施年度中に検討	3回	年2回以上	年2回以上
アウトプット	予定した健診の実施（日程・会場等）	100%	100%	100%
アウトカム	リスク保有者の減少 （習慣的に喫煙している人の割合）	10.4%	10%	10%

(2) 特定健診未受診者対策

① 事業概要

事業名	特定健診未受診者対策
事業開始年度	電話・訪問：平成22年度、通知勧奨：令和3年度、SMS勧奨・健康年齢通知：令和5年度
目的	特定健診受診率を高めることで、メタボリックシンドローム該当者や糖尿病・高血圧症の疑いのある対象者を把握し、保健指導や医療受診につなげる。
事業内容	【受診勧奨はがき】 特定健診の未受診者に対して、個人の健診受診履歴・医療機関受診状況に応じて、印字情報を切り替え、より行動変容が期待できるようにハガキで受診勧奨を実施する。 【受診勧奨電話】 コールセンター（専門職）による電話受診勧奨を実施し、より効果的・効率的に受診勧奨を行う。 【訪問による受診勧奨】 受診率の低い地域の在宅率の高い65歳以上の高齢者に対しては、訪問による勧奨を実施する。 【SMS】 SMSによる受診勧奨を実施する。 【インセンティブ】 健診受診者には、インセンティブとして健康年齢通知を実施する。 （実施方法） 5月：K D Bを活用し、受診勧奨地域の選定及び訪問を実施。特に、集団健診実施日前に重点的に訪問する。概ね9月頃まで訪問勧奨を随時実施する。庁内連携打ち合わせ会実施 6月：電話及び通知勧奨等事業の委託契約 訪問対象者の選定、対象者の状況調査等実施 対象者の抽出と選定（ハガキ通知） 7月：対象者に通知、対象者の抽出と選定（電話勧奨） 8月：電話勧奨実施 10月：在宅保健師と進捗状況の確認 2～3月：健康年齢通知の送付、事業評価と次年度課題の検討を実施
対象者	特定健診未受診者、集団健診受診者の予約確認ができない者

② 事業評価

評価指標		策定時実績 R4年度	市町目標	県目標
ストラクチャー	事業運営のための担当職員の配置	100%	100%	100%
プロセス	内容や方法について実施年度中に検討	3回	年2回以上	年2回以上
アウトプット	受診勧奨実施率	69%	100%	100%
アウトカム	特定健診受診率	35.5%	60%	60%

(3) 特定保健指導

① 事業概要

事業名	特定保健指導
事業開始年度	平成20年度
目的	健康意識の向上を図り、不適切な生活習慣の改善 生活習慣病の発症を防ぐ
事業内容	「自分で気づく」ことを大切にする考え方のもとに、個人の生活習慣やニーズに応じた個別支援「たつの健康サポートプログラム」を実施し、対象者自身が健康づくりの必要性を実感し生活習慣改善へとつなげていく。 (実施方法) <集団健診受診者> 動機付け支援・積極的支援対象者に対して、市が保健指導を実施する。個人の生活状況に応じた保健指導を通して、対象者の参加率向上、体重・腹囲等の数値改善、初回面接からの脱落者の減少を目指す。 積極的支援：初回面接(健診当日と健診1か月後の初回面談)の後、3か月間、定期的に面談、電話や支援レターで継続支援を実施。初回面接から1か月後に中間評価を実施し、2か月後に体重、腹囲の変化や生活習慣の改善状況について最終評価を行う。 動機付け支援：初回面接(健診当日と健診1か月後の初回面談)の後、定期的に面談、電話や支援レターで継続支援を実施し3か月後に体重、腹囲の変化や生活習慣の改善状況について実績評価を行う。 <個別健診受診者> 動機付け支援・積極的支援対象者に対しては、保健指導業務を委託する。
対象者	特定健診受診者のうち、特定保健指導基準に該当した者

② 事業評価

評価指標		策定時実績 R4年度	市町目標	県目標
ストラクチャー	事業運営のための担当職員の配置	100%	100%	100%
プロセス	内容や方法について実施年度中に検討	4回	年1回以上	年1回以上
	初回面談実施日の確保	26回	25回以上	—
アウトプット	特定保健指導実施率	43.9%	60%	45%
アウトカム	特定保健指導による特定保健指導対象者の減少	13.9%	25%	25%
	保健指導実施者の数値改善（腹囲）	42.2%	増加	—
	保健指導実施者の数値改善（体重）	57.8%	増加	—

(4) 特定保健指導未利用者対策（巡回訪問による特定保健指導未利用者勧奨）

① 事業概要

事業名	特定保健指導未利用者対策（巡回訪問による特定保健指導未利用者勧奨）
事業開始年度	平成29年度
目的	健康意識の向上を図り、不適切な生活習慣の改善 生活習慣病の発症を防ぐ
事業内容	個別健診受診者で積極的支援及び動機づけ支援対象者となった方に対し、訪問による勧奨・指導を実施する。 （実施方法） 調整会議：3回予定（5月、12月、3月） 会議参加メンバー：国保医療年金課、健康課、委託事業者 テーマ：進捗確認、トラブル報告等 5月：事業実施前の事前調整会議の開催（国保医療年金課、健康課、委託事業者） 年間予定スケジュールの確認、必要なデータに関する調整等 前年度特定保健指導未利用者追加対象者通知文送付 5月～：前年度特定保健指導未利用者対象者への利用勧奨の開始 8月：現年度特定保健指導未利用者勧奨通知文の内容の検討 9月～：現年度特定保健指導対象者への通知文の送付と利用勧奨の開始 9月下旬：前年度特定保健指導未利用者勧奨実績確認 12月：2回目の調整会議開催（進捗の確認とトラブル報告等） 3月：3回目の調整会議開催（事業終了に伴う報告と評価）
対象者	個別健診を受診して積極的支援、動機付け支援の対象者となり、特定保健指導を利用していない者

② 事業評価

評価指標		策定時実績 R4年度	市町目標	県目標
ストラクチャー	事業運営のための担当職員の配置	100%	100%	100%
プロセス	内容や方法について実施年度中に検討	3回	年2回以上	年2回以上
アウトプット	利用勧奨実施率	85.1%	100%	100%
アウトカム	特定保健指導実施率	43.9%	60%	45%

(5) 特定健診40歳前受診勧奨

① 事業概要

事業名	特定健診40歳前受診勧奨
事業開始年度	令和3年度
目的	40歳になるまでの早い段階で、健診を習慣化する。 疾病数が少ない若い年代へ勧奨し、生活習慣の改善で疾病数を増やさないよう予防する。
事業内容	40歳未満の者に対して、早期からの健診の必要性を知ってもらうため、30歳代の被保険者へ健診の周知啓発を行う。 (実施方法) 5月：入札等により決定した業者と契約 6月：特定健診受診勧奨ハガキの作成・発送 7月～：国保広報誌発刊、窓口にてパンフレットの配布、未受診者の訪問勧奨時に30歳代の被保険者へリーフレットと健診案内配布
対象者	30歳代の国保被保険者

② 事業評価

評価指標		策定時実績 R4年度	市町目標	県目標
ストラクチャー	事業運営のための担当職員の配置	100%	100%	—
プロセス	内容や方法について実施年度中に検討	2回	年2回以上	—
アウトプット	受診勧奨実施率	100%	100%	—
アウトカム	30歳代の健診受診率	1.9%	10%	—

(6) 高血圧症、糖尿病重症化予防

① 事業概要

事業名	高血圧症、糖尿病重症化予防
事業開始年度	—
目的	循環器系疾患、糖尿病の治療必要者の重症化予防対策
事業内容	集団健診当日の個別保健指導早期医療受診勧奨と受診確認 電話・面談・訪問による保健指導の実施
対象者	・40～74歳でHbA1c6.5%以上の者（継続医療者・特定保健指導該当者除く） ・40～74歳で収縮期血圧180mmHg以上または、拡張期血圧110mmHg以上の者（継続医療者・特定保健指導該当者除く） ・30歳代のメタボ該当者

② 事業評価

評価指標		策定時実績 R4年度	市町目標	県目標
ストラクチャー	庁内連携	2回	2回以上	—
プロセス	電話・訪問等による実施	100%	100%	—
アウトプット	勧奨・把握・指導率(高血圧)	94.4%	増加	—
	勧奨・把握・指導率(糖尿病)	97.1%	増加	—
アウトカム	医療受療率（高血圧）	83.3%	増加	—
	医療受療率（糖尿病）	81.2%	増加	—

(7) 糖尿病性腎症重症化予防

③ 事業概要

事業名	糖尿病性腎症重症化予防
事業開始年度	平成30年度
目的	本事業は、糖尿病性腎症の重症化リスクが高い者に対して、医療機関の受診勧奨・保健指導を行うことで糖尿病等の疾病管理の促進と腎障害の重症化の予防を目的とし、ひいては、慢性腎障害および医療費削減に資する。
事業内容	人工透析移行患者の減少を図るため、糖尿病が重症化するリスクの高い医療機関未受診者・治療中断者への受診勧奨や糖尿病治療中者に対する保健指導を実施する。 【未治療者・治療中断者】 保健師・管理栄養士が通知や電話・訪問による受診勧奨及び食生活指導等を実施する。勧奨実施後に医療機関の受診に結びついたか否かをレセプトにより確認。さらに受診確認ができない場合は、電話・訪問による再受診勧奨を実施する。 【治療中者】 生活改善に取り組まなければ、腎症へ移行する治療中の糖尿病患者に対して医師会かかりつけ医と連携し、保健師等による保健指導を実施する。 (実施方法) 5月：入札により決定した業者との委託契約 6月～7月：対象者抽出のためのデータの作成、医師会と龍野健康福祉事務所に今年度の事業計画の報告、医師会へ事業実施報告（国保、健康課、地域包括支援課で報告実施） 8月：事業実施方法について在宅保健師・管理栄養士と確認、かかりつけ医の選定を事業担当医師に相談（国保、健康課） 9月～11月：未治療者・治療中断者…対象者の状況把握、訪問準備。受診勧奨実施（通知→電話または訪問） 治療中者…かかりつけ医へ訪問し、事業説明実施。事業対象者の中から選定医療機関を訪問し、プログラム参加者を指定してもらうよう依頼。その後医療機関より推薦のあった対象者に対し、プログラムへの参加同意が得られるよう訪問し事業説明実施。プログラム参加者の同意書提出とかかりつけ医からの指導確認書の提出。保健指導プログラム開始（委託） 1月：未治療者・治療中断者の受診勧奨実施後に医療機関の受診に結びついたか否かをレセプトにより確認 2月：受診確認ができない対象者へ、電話・個別訪問による再受診勧奨 3月：事業担当医師と保健所に事業実績報告（国保、健康課、地域包括支援課で報告実施） 事業評価と次年度課題の検討 ※年3回程度、庁内関係部署にてケース検討会実施（国保医療年金課、健康課、地域包括支援課）
対象者	未治療者：①空腹時血糖126mg/dl以上もしくは随時血糖200mg/dl以上又はHbA1c6.5以上 ②尿蛋白（+）以上 ③eGFR60ml/分/1.73㎡未満 治療中断者：レセプト情報から糖尿病治療歴があり、最終の受診から6ヶ月を経過しても受診した記録がない者を抽出 治療中者：医科レセプトより、病名に「糖尿病」または「糖尿病性腎症」があり、治療行為や投薬内容及び健診データ（前年度）の突合の結果、腎症第2期以上と思われる者を抽出

④ 事業評価

評価指標		策定時実績 R4年度	市町目標	県目標
ストラクチャー	関係機関の了解を得る等連携の構築・準備	100%	100%	100%
プロセス	内容や方法について実施年度中に検討	9回	年2回以上	年2回以上
アウトプット	受診勧奨率（未治療）	100% 14人/14人	100%	100%
	受診勧奨率（治療中断）	100% 11人/11人	100%	—
	指導実施率（指導）	100%	100%	—
アウトカム	医療機関受診率（未治療）	36% 5/14人	50%	50%
	医療機関受診率（治療中断）	45% 5/11人	50%	—
	数値改善または維持割合（指導）	66% 2人/3人	50%	—
	プログラム参加者の行動変容、生活習慣改善率（指導）	66% 2人/3人	80%	—
	HbA1c8.0%以上の者の割合	1.2%	減少	減少

(8) ジェネリック医薬品差額通知

⑤ 事業概要

事業名	ジェネリック医薬品差額通知
事業開始年度	平成25年度
目的	後発医薬品（ジェネリック医薬品）差額通知事業を実施し、後発医薬品使用割合向上を目的とし、ひいては医療費削減に資する。
事業内容	後発医薬品（ジェネリック医薬品）希望シールの配布や広報誌掲載による周知啓発、また後発医薬品を使用した場合の差額通知を対象者等に送付する。 ・ 7月・11月・3月に差額通知送付 ・ 新規国保加入者や保険証更新時（7月）にジェネリック医薬品希望シールの配布 ・ 国保広報誌（7月または11月発刊）にて周知啓発記事を掲載
対象者	国保被保険者のうち、各基準に該当した者

⑥ 事業評価

評価指標		策定時実績 R4年度	市町目標	県目標
ストラクチャー	事業運営のための担当職員の配置	100%	100%	—
プロセス	内容や方法について実施年度中に検討	2回	年2回以上	—
アウトプット	切替勧奨割合	100%	100%	—
アウトカム	後発医薬品切替割合	83.7%	80%	—

(9) 生活習慣病予防事業

⑦ 事業概要

事業名	生活習慣病予防事業（出前講座、健康運動の普及（自主トレーニング講習会、自主トレーニング、アクティブフィットネス教室、たっちゃん体操普及、ドラゴンウォーク登録）、広報ホームページ掲載）
事業開始年度	平成18年度
目的	生活習慣病予防対策
事業内容	出前講座（地域へ出向いて健康教育）、健康運動の普及（※アクティブフィットネス教室、※自主トレーニング講習会、※自主トレーニング、たっちゃん体操普及、ドラゴンウォーク登録、ウォーキングイベントの開催）、広報ホームページ掲載（保健事業の紹介、健康づくりについて等）を通して、生活習慣病予防の意識向上・啓発に努めるいずみ会（食生活改善推進員）と連携し、講座・実習を通して食生活における健康意識の向上に取り組む。
対象者	全年齢 ※40歳以上 市民 ※医師からの運動制限や介護認定を受けていない方

⑧ 事業評価

評価指標		策定時実績 R4年度	市町目標	県目標
ストラクチャー	庁内連携・関連機関との協議の実施	2回	2回以上	—
プロセス	教室実施回数の確保	32回	40回以上	—
	普及啓発活動の実施	32回	40回以上	—
アウトプット	参加者数	376人	増加	—
	教室回数	32回	40回以上	—
	広報掲載回数	12回	12回	—
アウトカム	健診有所見者割合（腹囲）	26.8%	減少	—
	健診有所見者割合（BMI）	22.8%	減少	—
	1日30分以上運動習慣なし	60.4%	減少	—
	1日1時間以上運動習慣なし	53.1%	減少	—
	メタボ予備群・該当者	33.0%	減少	—

(10) 重複・頻回受診者等の適正受診対策

⑨ 事業概要

事業名	重複・頻回受診者等の適正受診対策
事業開始年度	令和2年度
目的	医療費の適正化を目指し、適正受診・服薬を促すことで健康被害の防止と受診・服薬の適正化を目的とする。
事業内容	重複・頻回受診者、重複・多剤服薬と思われる者への残薬確認や指導等を実施する。 K D Bのレセプト情報等を活用し、国保被保険者情報・過去の健診結果・医療情報等を把握した上で、加齢や心身等の特徴の変化及びライフステージ等に応じた指導を、訪問等で在宅保健師により実施し、医療費の適正化を図る。 過去の指導歴がある対象者は、アプローチ方法を変更する。必要な医療を適切に受け、指導することで個々の課題を的確に判断し、セルフコントロールができるよう支援する。 (実施方法) 4月～5月：在宅保健師と前年度の評価及び今年度の実施方法の確認 6月～：毎月K D Bを活用し、事業対象者を抽出し、個々の状況や受診歴を確認し、適正受診について、在宅保健師が訪問等を行い保健指導を実施 10月：事業実施の中間報告として、進捗の確認を実施 3月：評価と次年度に向けて、課題の抽出と訪問指導方法の確認
対象者	重複：同一月内に同一診療科目で3か所以上の医療機関受診者 頻回：同一月内に同一医療機関へ15日以上 重複服薬：同一月内に同一薬効の薬剤を複数の医療機関から処方 多剤服薬：同一月に、15剤以上の薬剤

⑩ 事業評価

評価指標		策定時実績 R4年度	市町目標	県目標
ストラクチャー	事業運営のための担当職員の配置	100%	100%	—
プロセス	内容や方法について実施年度中に検討	2回	年2回以上	—
アウトプット	指導件数実施率（電話・訪問）	88%	80%	—
アウトカム	対象者の変化（改善率）	65%	50%	—

第6章 計画の評価・見直し

1 評価の時期

(1) 個別事業計画の評価・見直し

個別の保健事業の評価は年度ごとに行うことを基本として、計画策定時に設定した保健事業ごとの評価指標に基づき、事業の効果や目標の達成状況を確認する。事業の評価は、健康・医療情報を活用して、費用対効果の観点も考慮して行う。目標の達成状況が想定に達していない場合は、ストラクチャーやプロセスが適切であったか等を確認の上、目標を達成できなかった原因や事業の必要性等を検討して、次年度の保健事業の実施やデータヘルス計画の見直しに反映させる。

(2) 個別保健事業の評価に基づくデータヘルス計画全体の評価・見直し

① 評価の時期

設定した評価指標に基づき、計画の最終年度のみならず、中間時点等計画期間の途中で進捗確認及び中間評価を実施する。また、計画の最終年度においては、その次の期の計画の策定を円滑に行うため、当該最終年度の上半期に仮評価を行う。

② 評価方法・体制

計画は、中長期的な計画運営を行うものであることを踏まえ、短期では評価が難しいアウトカム（成果）指標を中心とした評価指標による評価を行う。評価に当たっては、市町村国保における保健事業の評価を広域連合と連携して行うなど、必要に応じ他の保険者等との連携・協力体制を整備する。

第7章 計画の公表・周知

1 計画の公表・周知

本計画は、被保険者や保健医療関係者等が容易に知り得るべきものとするのが重要であり、このため、国指針において、公表するものとされている。具体的には、ホームページや広報誌を通じて公表する。また、兵庫県、国保連、保健医療関係者経由で医療機関等に周知する。また、これらの公表に当たっては、被保険者、保健医療関係者の理解を促進するため、計画の要旨等をまとめた概要版を策定し併せて公表する。

第8章 個人情報の取扱い

1 個人情報の取り扱い

計画の策定に当たっては、活用するデータの種類や活用方法が多岐にわたり、特にKDBシステムを活用する場合等には、健診結果やレセプトデータ情報を突合し加工した統計情報と、個別の個人情報とが存在する。

特に、健診データやレセプトに関する個人情報は、一般的には「個人情報の保護に関する法律」（平成15年法律第57号。以下「個人情報保護法」という。）に定める要配慮個人情報に該当するため、慎重に取扱う。たつの市では、個人情報の保護に関する各種法令とガイドラインに基づき、庁内等での利用、外部委託事業者への業務委託等の各場面で、その保有する個人情報の適切な取扱いが確保されるよう措置を講じる。

第9章 第4期 特定健康診査等実施計画

1 計画の背景・趣旨

(1) 計画策定の背景・趣旨

生活習慣病の発症や重症化予防により、国民の健康保持及び医療費適正化を達成することを目的に、保険者においては平成20年度より「高齢者の医療の確保に関する法律」（昭和57年法律第80号）に基づき、特定健診及び特定保健指導の実施が義務付けられてきた。

たつの市においても、同法律に基づき作成された特定健康診査等基本方針に基づき、実施計画を策定し、特定健診の受診率及び特定保健指導の実施率の向上に取り組んできたところである。

近年、全世代型社会保障の構築に向け、生活習慣病の発症や重症化予防の重要性は一層高まっており、より効率的かつ効果的な特定健診及び特定保健指導の実施が求められている。令和5年3月に発表された「特定健康診査等実施計画作成の手引き（第4版）」「特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第4版）」では、成果を重視した特定保健指導の評価体系の見直し、特定保健指導の成果等の見える化の推進などの新たな方向性が示され、成果（アウトカム）に着目したより効率的かつ効果的な事業運営が求められることとなった。

本計画は、第3期計画期間（平成30年度から令和5年度）が終了することから、国での方針の見直しの内容を踏まえ、たつの市の現状を考慮した事業の運営を図ることを目的に策定するものである。

(2) 特定健康診査・特定保健指導を巡る国の動向

① エビデンスに基づく効率的・効果的な特定健康診査・特定保健指導の推進

わが国においては、厳しい財政状況の中、より効率的かつ効果的な財政運営が必要とされており、国を挙げてエビデンスに基づく政策運営が進められている。

特定健診及び特定保健指導に関しても、第3期中に、大規模実証事業や特定保健指導のモデル実施の効果検証を通じたエビデンスの構築、並びにエビデンスに基づく効果的な特定健診及び特定保健指導が推進されてきたところである。

「特定健康診査等実施計画作成の手引き（第4版）」「特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第4版）」においても、特定健診及び特定保健指導の第一の目的は生活習慣病に移行させないことであることに立ち返り、対象者の行動変容につながり成果が出たことを評価するという方針で、成果の見える化と事業の効果分析に基づいた効果的な特定健診及び特定保健指導が求められることとなった。

② 第4期特定健康診査・特定保健指導の見直しの方向性

令和5年3月に発表された「特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第4版）」での主な変更点は図表9-1-2-1のとおりである。

たつの市においても、これらの変更点を踏まえて第4期特定健診及び特定保健指導を実施していく。

図表9-1-2-1：第4期特定健診・特定保健指導の主な変更点

区分	見直しの概要
特定健康診査	基本的な健診の項目 ・血中脂質検査の中性脂肪は、やむを得ない場合は随時中性脂肪での測定を可とする。
	標準的な質問票 ・喫煙や飲酒の項目は、より正確にリスクを把握するために詳細な選択肢へ修正。 ・特定保健指導の項目は、利用意向から利用歴を確認する内容へ修正。
	評価体系 ・実績評価にアウトカム評価を導入。主要達成目標を腹囲2cm・体重2kg減、その他目標を生活習慣病予防につながる行動変容（食習慣・運動習慣・喫煙習慣・休養習慣・その他生活習慣の改善）や腹囲1cm・体重1kg減と設定。 ・プロセス評価は、個別支援、グループ支援、電話及び電子メール等とする。時間に比例したポイント設定ではなく介入1回ごとの評価とし、支援Aと支援Bの区別は廃止。ICTを活用した場合も同水準の評価。特定健診実施後の特定保健指導の早期実施を新たに評価。 ・モデル実施は廃止。
特定保健指導	①初回面接の分割実施の条件緩和 ・初回面接は、特定健診実施日から1週間以内であれば初回面接の分割実施と取り扱う。 ②生活習慣病に係る服薬を開始した場合の実施率の考え方 ・特定健診または特定保健指導開始後に服薬開始の場合、特定保健指導の対象者として分母に含めないことを可能とする。
	その他 ③生活習慣病に係る服薬中の者への服薬状況の確認、及び特定保健指導対象者からの除外 ・服薬中の者の特定保健指導対象者からの除外に当たり、確認する医薬品の種類、確認手順等を保険者があらかじめ定めている場合は、専門職以外でも事実関係の再確認と同意取得を行うことを可能とする。 ④運用の改善 ・看護師が特定保健指導を行える暫定期間を第4期期間においても延長する。

【出典】厚生労働省 特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第4版） 改変

③ 計画期間

本計画の期間は、令和6年度（2024年）から令和11年度（2029年）までの6年間である。

2 第3期計画における目標達成状況

(1) 全国の状況

特定健診及び特定保健指導の目標としては、特定健診受診率及び特定保健指導実施率の向上、並びにメタボリックシンドローム該当者及びメタボリックシンドローム予備群該当者（以下、それぞれ「メタボ該当者」及び「メタボ予備群該当者」という。）の減少が掲げられている。

第3期計画においては、全保険者で特定健診受診率を令和5年度までに70.0%まで、特定保健指導実施率を45.0%まで引き上げることが目標とされていたが、令和3年度時点で全保険者の特定健診平均受診率は56.5%、特定保健指導平均実施率は24.6%となっており、目標値から大きく乖離していて目標達成が困難な状況にある（図表9-2-1-1）。市町村国保の特定健診受診率及び特定保健指導実施率も、全保険者と同様の傾向となっている。

図表9-2-1-1：第3期計画における全保険者及び市町村国保の特定健診受診率・特定保健指導実施率の目標と実績

	全保険者		市町村国保				
	令和5年度 目標値	令和3年度 実績	令和5年度 目標値	令和3年度 実績			
				全体	特定健診対象者数		
					10万人以上	5千～ 10万人未満	5千人未満
特定健診平均受診率	70.0%	56.5%	60.0%	36.4%	28.2%	37.6%	42.5%
特定保健指導平均実施率	45.0%	24.6%	60.0%	27.9%	13.9%	27.7%	44.9%

【出典】厚生労働省 特定健康診査等実施計画作成の手引き（第4版）

厚生労働省 2021年度 特定健康診査・特定保健指導の実施状況

メタボ該当者及びメタボ予備群該当者の減少率は、令和5年度までに平成20年度比25.0%以上減が目標として設定されていたが、令和3年度時点では13.8%減となっており、目標達成が厳しい状況にある（図表9-2-1-2）。

なお、メタボ該当者及びメタボ予備群該当者の減少率は、保険者ごとに目標設定されているものではなく、特定保健指導の効果を検証するための指標として保険者が活用することを推奨されているものである。

図表9-2-1-2：第3期計画におけるメタボ該当者・メタボ予備群該当者の減少率の目標値及び実績

	令和5年度 目標値 全保険者共通	令和3年度 実績 全保険者
メタボ該当者・メタボ予備群該当者の減少率（平成20年度比）	25.0%	13.8%

【出典】厚生労働省 特定健康診査等実施計画作成の手引き（第4版）

厚生労働省 2021年度 特定健康診査・特定保健指導の実施状況

（注）平成20年度と令和3年度の該当者及び予備群推定数の差分を平成20年度の推定数で除して算出

（注）推定数は、特定健診の実施率及び年齢構成比の変化による影響を排除するため、性・年齢階層別に各年度の特定健診受診者に占める出現割合に各年度の住民基本台帳の人口を乗じて算出

(2) たつの市の状況

① 特定健診受診率

特定健診受診率は、前期計画終了年度にあたる令和5年度の目標値を60.0%としていたが、令和3年度時点で34.3%となっている（図表9-2-2-1）。この値は、国より低い、県より高い。

前期計画中の推移をみると令和3年度の特定健診受診率は34.3%で、平成30年度の特定健診受診率35.2%と比較すると0.9ポイント低下している。国や県の推移をみると、平成30年度と比較して令和3年度の特定健診受診率は低下している。

男女別及び年代別における平成30年度と令和3年度の特定健診受診率は、男性では60-64歳で最も伸びており、55-59歳で最も低下している。女性では45-49歳で最も伸びており、60-64歳で最も低下している（図表9-2-2-2・図表9-2-2-3）。

なお、令和4年度の特定健診受診率は35.5%となっている。この値は、県より高く、平成30年度と比較すると0.3ポイント上昇している。男女別及び年代別における平成30年度との比較は、概ね令和3年度と同様であるが、40-44歳の女性で最も伸びていることが違いとして挙げられる。

図表9-2-2-1：第3期計画における特定健康診査の受診状況

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
特定健診受診率	たつの市_目標値	40.0%	44.0%	48.0%	52.0%	56.0%	60.0%
	たつの市_実績値	35.2%	34.0%	30.6%	34.3%	35.5%	
	国	37.9%	38.0%	33.7%	36.4%	-	
	県	35.1%	34.1%	30.9%	33.0%	34.2%	
特定健診対象者数（人）		12,811	12,386	12,235	11,842	11,130	
特定健診受診者数（人）		4,507	4,216	3,741	4,063	3,948	

【出典】実績値：厚生労働省 2018年度から 2021年度特定健診・保健指導実施状況（保険者別）

※表内の「国」とは、市町村国保全体を指す（KDB帳票を用いた分析においては以下同様）

図表9-2-2-2：年代別特定健診受診率の推移_男性

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
平成30年度	14.0%	17.6%	16.6%	25.8%	24.1%	37.0%	41.7%
令和1年度	15.1%	18.2%	19.2%	25.1%	23.5%	35.3%	40.3%
令和2年度	13.7%	14.2%	16.3%	21.5%	20.1%	32.4%	36.9%
令和3年度	10.8%	17.5%	19.4%	19.0%	29.9%	35.1%	41.7%
令和4年度	16.0%	18.3%	17.4%	19.0%	30.7%	35.4%	41.4%

【出典】KDB帳票 S21_008-健診の状況 平成30年度から令和4年度 累計

図表9-2-2-3：年代別特定健診受診率の推移_女性

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
平成30年度	15.9%	13.2%	23.4%	27.6%	36.6%	41.8%	45.0%
令和1年度	20.6%	14.5%	19.8%	27.3%	34.8%	39.5%	42.5%
令和2年度	16.9%	12.7%	20.1%	25.1%	28.0%	36.2%	38.3%
令和3年度	18.4%	15.9%	23.9%	23.7%	28.3%	38.8%	44.3%
令和4年度	21.9%	18.2%	23.3%	27.5%	35.3%	41.1%	44.7%

【出典】KDB帳票 S21_008-健診の状況 平成30年度から令和4年度 累計

② 特定保健指導実施率

特定保健指導実施率は、前期計画終了年度にあたる令和5年度の目標値を60.0%としていたが、令和3年度時点で58.6%となっている（図表9-2-2-4）。この値は、国・県より高い。前期計画中の推移をみると、令和3年度の実施率は、平成30年度の実施率41.7%と比較すると16.9ポイント上昇している。

支援区分別にみると、積極的支援では令和3年度は36.6%で、平成30年度の実施率7.2%と比較して29.4ポイント上昇し、動機付け支援では令和3年度は67.3%で、平成30年度の実施率50.4%と比較して16.9ポイント上昇している（図表9-2-2-5）。

なお、令和4年度の実施率は43.9%となっている。この値は、県より高く、平成30年度と比較すると2.2ポイント上昇しており、支援区分別にみても、積極的支援、動機付け支援ともに上昇している。

図表9-2-2-4：第3期計画における特定保健指導の実施状況

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
特定保健指導 実施率	たつの市_目標値	40.0%	44.0%	48.0%	52.0%	56.0%	60.0%
	たつの市_実績値	41.7%	55.8%	54.7%	58.6%	43.9%	
	国	28.9%	29.3%	27.9%	27.9%	-	
	県	25.4%	26.6%	26.8%	28.9%	30.0%	
	特定保健指導対象者数（人）	513	491	422	493	474	
特定保健指導実施者数（人）		214	274	231	289	208	

【出典】実績値：厚生労働省 2018年度から2021年度 特定健診・保健指導実施状況（保険者別）

図表9-2-2-5：支援区分別特定保健指導の実施率・対象者数・実施者数の推移

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
積極的支援	実施率	7.2%	12.4%	24.7%	36.6%	23.2%
	対象者数（人）	97	97	77	93	99
	実施者数（人）	7	12	19	34	23
動機付け支援	実施率	50.4%	66.1%	69.3%	67.3%	51.1%
	対象者数（人）	417	395	345	401	376
	実施者数（人）	210	261	239	270	192

【出典】KDB帳票 S21_008-健診の状況 平成30年度から令和4年度 累計

※図表9-2-2-4と図表9-2-2-5における対象者数・実施者数のずれは法定報告値とKDB帳票の差によるもの

③ メタボリックシンドロームの該当者及び予備群該当者数

令和4年度におけるメタボ該当者数は783人で、特定健診受診者の20.3%であり、国より低いが、県より高い（図表9-2-2-6）。前期計画中の推移をみると、メタボ該当者数は減少しており、特定健診受診者に占める該当割合は上昇している。

男女別にみると、メタボ該当者数はいずれの年度においても男性の方が多く、特定健診受診者に占める該当割合はいずれの年度においても男性の方が高い。

図表9-2-2-6：特定健診受診者におけるメタボ該当者の推移

メタボ該当者	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	該当者（人）	割合	該当者（人）	割合	該当者（人）	割合	該当者（人）	割合	該当者（人）	割合
たつの市	904	20.0%	800	18.9%	789	21.1%	863	21.2%	783	20.3%
男性	610	31.9%	535	29.4%	539	33.1%	594	33.5%	534	32.6%
女性	294	11.3%	265	11.0%	250	11.8%	269	11.7%	249	11.2%
国	-	18.6%	-	19.2%	-	20.8%	-	20.6%	-	20.6%
県	-	17.4%	-	17.9%	-	19.4%	-	19.3%	-	19.0%
同規模	-	18.8%	-	19.4%	-	21.0%	-	20.8%	-	20.8%

【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 令和元年度から令和4年度 累計

令和4年度におけるメタボ予備群該当者数は457人で、特定健診受診者における該当割合は11.9%で、国・県より高い（図表9-2-2-7）。前期計画中の推移をみると、メタボ予備群該当者数は減少しており、特定健診受診者における該当割合は上昇している。

男女別にみると、メタボ予備群該当者数はいずれの年度においても男性の方が多く、特定健診受診者における該当割合はいずれの年度においても男性の方が高い。

図表9-2-2-7：特定健診受診者におけるメタボ予備群該当者の推移

メタボ予備群	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	該当者（人）	割合	該当者（人）	割合	該当者（人）	割合	該当者（人）	割合	該当者（人）	割合
たつの市	501	11.1%	490	11.6%	407	10.9%	466	11.5%	457	11.9%
男性	330	17.3%	342	18.8%	286	17.6%	325	18.3%	325	19.8%
女性	171	6.6%	148	6.2%	121	5.7%	141	6.1%	132	6.0%
国	-	11.0%	-	11.1%	-	11.3%	-	11.2%	-	11.1%
県	-	10.4%	-	10.4%	-	10.6%	-	10.6%	-	10.5%
同規模	-	11.0%	-	11.1%	-	11.3%	-	11.3%	-	11.0%

【出典】KDB帳票 S21_001-地域の全体像の把握 平成30年度から令和4年度 累計

参考：メタボリックシンドローム判定値の定義

該当者	腹囲	以下の追加リスク2つ以上該当
予備群	85 cm（男性）	以下の追加リスク1つ該当
	90 cm（女性）以上	
追加リスク	血圧	収縮期血圧130mmHg以上または、拡張期血圧85mmHg以上
	血糖	空腹時血糖110mg/dL以上 （空腹時血糖の結果値が存在しない場合、HbA1c 6.0%以上）
	脂質	中性脂肪150mg/dL以上または、HDLコレステロール40mg/dL未満

【出典】厚生労働省 メタボリックシンドロームの診断基準

3 計画目標

(1) 国の示す目標

第4期計画においては、令和11年度までに特定健診の全国平均受診率70%以上、特定保健指導の全国平均実施率45%以上を達成することが設定されている（図表9-3-1-1）。目標値は、第3期計画目標の目標値から変更されていない。市町村国保における目標値も第3期からの変更はなく、特定健診受診率及び特定保健指導実施率のいずれも60%以上と設定されている。

また、メタボ該当者及びメタボ予備群の減少率についても、第3期に引き続き、平成20年度比25%以上減と設定されている。

図表9-3-1-1：第4期計画における国が設定した目標値

	全国 (令和11年度)	市町村国保 (令和11年度)
特定健診受診率	70%以上	60%以上
特定保健指導実施率	45%以上	60%以上
メタボ該当者・メタボ予備群該当者の減少率（平成20年度比）		25%以上減

(2) たつの市の目標

令和11年度までに特定健診受診率を60.0%、特定保健指導実施率を60.0%まで引き上げるように設定する（図表9-3-2-1）。

特定健診対象者及び特定保健指導実施者の見込み数については、図表9-3-2-2のとおりである。

図表9-3-2-1：特定健診受診率・特定保健指導実施率の目標値

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
特定健診受診率	40.0%	44.0%	48.0%	52.0%	56.0%	60.0%
特定保健指導実施率	45.0%	48.0%	51.0%	54.0%	57.0%	60.0%

図表9-3-2-2：特定健診対象者・特定保健指導実施者の見込み数

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	
特定健診	対象者数（人）	11,017	10,819	10,620	10,422	10,223	10,024	
	受診者数（人）	4,407	4,760	5,098	5,419	5,725	6,014	
特定 保健指導	合計	530	573	613	652	689	723	
	対象者数（人）	積極的支援	110	119	128	136	144	151
		動機付け支援	420	454	485	516	545	572
	合計	239	275	312	352	393	434	
	実施者数（人）	積極的支援	50	57	65	73	82	91
		動機付け支援	189	218	247	279	311	343

※各見込み数の算出方法

特定健診対象者数：40-64歳、65-74歳の推計人口に令和4年度の各層の国保加入率を乗じて算出

特定健診受診者数：特定健診対象者数に特定健診受診率の目標値を乗じて算出

特定保健指導対象者数：合計値は、特定健診受診者数に令和4年度の特定保健指導該当者割合を乗じて算出

支援区分別対象者数は、合計値に令和4年度の対象者割合を乗じて算出

特定保健指導実施者数：特定保健指導対象者数に特定保健指導実施率の目標値を乗じて算出

4 特定健康診査・特定保健指導の実施方法

(1) 特定健康診査

① 実施目的・対象者

「特定健康診査及び特定保健指導の適切かつ有効な実施を図るための基本的な指針」（以下「基本指針」という。）にあるとおり、特定健診は、糖尿病等の生活習慣病の発症や重症化を予防することを目的として、メタボリックシンドロームに着目し、生活習慣を改善するための特定保健指導を必要とする者を的確に抽出するために行う。

対象者は、たつの市国民健康保険被保険者で、当該年度に40歳から74歳となる人に実施する。

② 実施期間・実施場所

集団健診は、5月から11月にかけて実施する。実施場所は、特定健診を受ける人の利便性を考慮し、選定する。

個別健診は、4月から3月にかけて実施する。

集団健診、個別健診ともに具体的な会場については、特定健診実施時期にあわせて周知する。

③ 実施項目

「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づく「特定健康診査及び特定保健指導の実施に関する基準」で定められた項目に従い、特定健診受診者全員に図表9-4-1-1の「基本的な健診項目」を実施する。また、一定の基準のもと医師が必要と判断した場合には、「詳細な健診項目」を実施する。

図表9-4-1-1：特定健康診査の健診項目

項目	
基本的な健診項目	・ 診察（既往歴（服薬歴、喫煙歴を含む）、自覚症状）
	・ 身体計測（身長、体重、腹囲、BMI）
	・ 血圧
	・ 血中脂質検査（空腹時中性脂肪（やむを得ない場合には随時中性脂肪）、HDLコレステロール、LDLコレステロール（Non-HDLコレステロール））
	・ 肝機能検査（AST（GOT）、ALT（GPT）、γ-GT（γ-GTP））
	・ 血糖検査（HbA1c、空腹時血糖、やむを得ない場合には随時血糖）
	・ 尿検査（尿糖、尿蛋白）
詳細な健診項目	・ 心電図検査
	・ 眼底検査
	・ 貧血検査
	・ 血清クレアチニン検査

④ 実施体制

健診の委託に際しては、利用者の利便性を考慮するとともに、健診の質の担保のために適切な精度管理維持が求められるため、国の委託基準（「特定健康診査及び特定保健指導の実施に関する基準第16条第1項の規定に基づき厚生労働大臣が定める者」）を満たす健診機関を選定する。詳細は契約書及び仕様書で定める。

⑤ 健診結果の通知方法

集団の特定健診受診者については、実施委託機関が特定保健指導非該当者に結果通知表を郵送する。特定保健指導該当者には、個別支援(面談)を実施し、対象者に結果通知表を手渡し説明する。個別支援(面談)に出席が困難な対象者については、結果通知表を郵送する。

個別の特定健診受診者については、実施医療機関が対象者に結果通知表を郵送する。

⑥ 事業者健診等の健診データ収集方法

たつの市国民健康保険被保険者が「労働安全衛生法」に基づく健康診断や人間ドックを受診した場合は、本人から健診結果データを提供してもらい、特定健診受診率に反映する。

(2) 特定保健指導

① 実施目的・対象者階層化の基準

基本指針にあるとおり、特定保健指導は、内臓脂肪型肥満に着目し、生活習慣を改善するための保健指導を行うことにより、対象者が自らの生活習慣における課題を認識して行動変容と自己管理を行うとともに健康的な生活の維持ができるようになることを通じて、糖尿病等の生活習慣病を予防することを目的とするものである。

特定保健指導は、特定健診結果を腹囲、リスクの高さ、喫煙歴、年齢により階層化し、積極的支援対象者及び動機付け支援対象者に実施する。なお、特定健診の質問票において服薬中であることが判別できた者については、既に主治医の指導を受けていることから特定保健指導対象外とする。また、2年連続して積極的支援対象者に該当した場合は、動機付け支援対象とする。

図表9-4-2-1：特定保健指導階層化の基準

腹囲	追加リスク	喫煙歴	対象年齢		
	(血糖、脂質、血圧)		40-64歳	65歳-	
男性≥85cm 女性≥90cm	2つ以上該当	なし/あり	積極的支援	動機付け支援	
	1つ該当	あり			
		なし	動機付け支援		
上記以外で BMI≥25kg/m ²	3つ該当	なし/あり	積極的支援		
	2つ該当	あり			
					なし
			1つ該当		なし/あり

参考：追加リスクの判定基準

追加リスク	血糖	空腹時血糖100mg/dL以上、またはHbA1c5.6%以上
	血圧	収縮期血圧130mmHg以上、または拡張期血圧85mmHg以上
	脂質	空腹時中性脂肪150mg/dL以上、随時中性脂肪175mg/dL以上、 またはHDLコレステロール40mg/dL未満

【出典】厚生労働省 標準的な健診・保健指導プログラム（令和6年度版）

② 重点対象

対象者全員に特定保健指導を実施するが、効率的、効果的な特定保健指導を実施するため、特に支援が必要な層及び効果が期待できる層に重点的に特定保健指導の利用勧奨を行う。具体的には、積極的支援対象者を重点対象とする。

③ 実施期間・内容

特定保健指導は通年実施する。

積極的支援及び動機付け支援とともに初回面接では、医師、保健師または管理栄養士の指導のもと、生活習慣改善のための行動計画を設定する。

積極的支援は、原則年1回の初回面接後、3か月間、定期的に電話や訪問等で継続支援を実施する。初回面接から1か月後に中間評価を実施し、2か月後に体重、腹囲の変化や生活習慣の改善状況について最終評価を行う。中間評価時に、体重2kg及び腹囲2cm減少を達成した対象者については、その時点で支援を終了する。

動機付け支援は、原則年1回の初回面接後、3か月間後に体重、腹囲の変化や生活習慣の改善状況について実績評価を行う。

④ 実施体制

個別健診受診者における特定保健指導の委託に際しては、特定健診と同様に国の委託基準を満たす機関を選定する。詳細は契約書及び仕様書で定める。利用者の利便性を考慮するとともに、保健指導の質を確保するなど適正な事業実施に努める。

また、集団健診受診者における対象者については、直営で指導を実施する。

5 受診率・実施率向上に向けた主な取組

(1) 特定健康診査

- ① 受診勧奨
- ② 利便性の向上
- ③ 関係機関との連携
- ④ 健診データ収集
- ⑤ 啓発
- ⑥ インセンティブの付与

取組項目	取組内容	取組概要
新たなツールを活用した受診勧奨	架電／SMS／LINEによる受診勧奨	
利便性の向上	休日健診の実施／予約サイトの開設／自己負担額の軽減／がん検診・歯科検診との同時受診	
関係機関との連携	薬局／職域／かかりつけ医と連携した受診勧奨	
健診データ収集	連合会の未受診者医療情報収集事業を活用／特定健診以外の検査データの活用	
早期啓発	30歳代の受診勧奨・健診の実施	
インセンティブの付与	健康年齢通知の付与／健康チャレンジ事業にて健康グッズを贈呈	

(2) 特定保健指導

- ① 利用勧奨
- ② 利便性の向上
- ③ 内容・質の向上
- ④ 早期介入
- ⑤ 関係機関との連携
- ⑥ 新たな保健指導方法の検討

(アウトカム評価導入への対応／成果の「見える化」への対応／ICT活用推進への対応)

取組項目	取組内容	取組概要
新たなツールを活用した利用勧奨	架電・訪問による利用勧奨	
利便性の向上	休日の保健指導の実施／遠隔面接の実施	
内容・質の向上	研修会の実施／効果的な期間の設定	
業務の効率化	実施機関の負荷軽減	
早期介入	健診会場での初回面接の実施	
関係機関との連携	薬局と連携した利用勧奨／医療機関と連携した利用勧奨／地域の専門職のマンパワー活用	
インセンティブの付与	健康チャレンジ事業にて健康グッズの贈呈	
新たな保健指導方法の検討	ICTツールを導入したオンライン面談／経年データを活用した保健指導	

6 その他

(1) 計画の公表・周知

本計画については、高齢者の医療の確保に関する法律第19条第3項に基づき、作成及び変更時は、たつの市のホームページ等により公表し、広く内容等の周知を行う。

また、特定健診及び特定保健指導については、たつの市のホームページ等への掲載、啓発用ポスターの掲示などにより、普及啓発に努める。

(2) 個人情報の保護

特定健診及び特定保健指導の記録の保存に当たっては、「特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第4版）」を参考に、個人の健康情報を漏えいしないよう、厳格に管理した上で適切に活用する。

個人情報の取扱いに関しては、個人情報保護法に基づくガイドライン等（「健康保険組合等における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」「国民健康保険組合における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」等）を遵守し、情報の保存及び管理体制を確保する。外部への委託に際しては、委託先との契約書に個人情報の厳重な管理や目的外使用の禁止等を定めるとともに、委託先の契約遵守状況を適切に管理する。

(3) 実施計画の評価及び見直し

特定健診の受診率及び特定保健指導の実施率、並びにメタボ該当者及びメタボ予備群の減少率については、本計画の最終年度（令和11年度）に評価を行う。

実施中は、設定した目標値の達成状況を定期的に点検し、評価の結果を活用して、必要に応じて見直しを行う。

第10章 参考資料

1 用語集

行	No.	用語	解説
あ行	1	eGFR	血清クレアチニン値と年齢・性別からGFRを推算したもの。GFRは腎臓の中にある毛細血管の集合体である「糸球体」が1分間にどれくらいの血液を濾過して尿を作れるかを示す値であり、一般的にGFRが1分間に60ml未満の状態または尿たんぱくが3か月以上続くとCKD（慢性腎臓病：腎機能が慢性的に低下し、尿たんぱくが継続して出る状態）と診断される。
	2	HDL-C	余分なコレステロールを回収して動脈硬化を抑える、善玉コレステロール。
	3	ALT	アミノ酸をつくり出す酵素で大部分が肝細胞に含まれている。肝臓の細胞が障害を受けるとALTが血液中に流れ出し血中濃度が上がるため、ALTの数値が高い場合は、肝臓の病気が疑われる。
	4	LDL-C	肝臓で作られたコレステロールを全身へ運ぶ役割を担っており、増えすぎると動脈硬化を起こして心筋梗塞や脳梗塞を発症させる、悪玉コレステロール。
か行	5	拡張期血圧	血圧は一般的には動脈内部の圧力のことを指し、心臓の収縮に伴って大きく変動する。最小となる血圧は心臓が拡張したときの血圧で拡張期血圧と呼ばれる。
	6	虚血性心疾患	虚血性心疾患には、狭心症や心筋梗塞がある。狭心症は動脈硬化などによって心臓の血管（冠動脈）が狭くなり、血液の流れが悪くなった状態。 一方、心筋梗塞は、動脈硬化によって心臓の血管に血栓（血液の固まり）ができて血管が詰まり、血液が流れなくなって心筋の細胞が壊れてしまう病気。
	7	空腹時血糖	血糖値は、血液に含まれるブドウ糖（グルコース）の濃度のこと、食前食後で変動する。空腹時血糖は食後10時間以上経過した時点での血糖値。
	8	KDBシステム KDB補完システム	国保連合会が保険者の委託を受けて行う各種業務を通じて管理する「特定健診・特定保健指導」「医療（後期高齢者医療含む）」「介護保険」等の情報を活用し、統計情報や「個人の健康に関する情報」を提供し、保険者の効率的かつ効果的な保健事業の実施をサポートすることを目的として構築されたシステム。補完システムは、全国一律のKDBシステムに付加した補完機能。 本集計では令和5年度6月時点で抽出されたKDB帳票を活用している。

行	No.	用語	解説
	9	血清クレアチニン	たんぱく質が分解・代謝されてできた老廃物。通常は尿とともに排泄されるが、腎機能が低下すると排泄できず血液中に増えていく。
	10	健康寿命	世界保健機関（WHO）が提唱した新しい指標で、平均寿命から寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間。兵庫県では要介護2～5を不健康な状態とし、その期間を差し引いて算定している。
	11	後期高齢者医療制度	公的医療保険制度の1つで、75歳以上の人、そして65歳から74歳までで一定の障害の状態にあると後期高齢者医療広域連合から認定を受けた人が加入する医療保険。
	12	高血圧症	高血圧は、血圧が高いという病態。高血圧症とは、繰り返し測っても血圧が正常より高い場合をいう。
	13	後発医薬品 (ジェネリック医薬品)	先発医薬品の特許期間終了後に、先発医薬品と品質・有効性・安全性が同等であるものとして厚生労働大臣が承認を行っているもの。
	14	高齢化率	全人口に占める65歳以上人口の割合。
さ行	15	脂質異常症	中性脂肪やコレステロールなどの脂質代謝に異常をきたした状態。
	16	疾病分類	世界保健機関（WHO）により公表されている「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」（略称、国際疾病分類：ICD）に準じて定めたものであり、社会保険の分野で疾病統計を作成する際の統一の基準として、広く用いられているもの。
	17	収縮期血圧	血圧は一般的には動脈内部の圧力のことを指し、心臓の収縮に伴って大きく変動する。 最大となる血圧は心臓が収縮したときの血圧で収縮期血圧と呼ばれる。
	18	受診勧奨対象者	特定健診受診者のうち、医療機関の受診を促す基準として設定されている受診勧奨判定値を超える者。
	19	人工透析	機能が著しく低下した腎臓に代わり、機械で老廃物を取り除くこと。一般的に行われている「血液透析」は、患者の腕の血管から血液を取り出し、老廃物を除去する。
	20	腎不全	腎臓の中にある毛細血管の集合体で、血液を濾過する「糸球体」の網の目が詰まり、腎臓の機能が落ち、老廃物を十分排泄できなくなる状態。
	21	診療報酬明細書 (レセプト)	病院などが患者に対して治療を行った際、費用（医療費）を保険者に請求するときに使用する書類のこと。病院などは受診した患者ごとに毎月1枚作成する。

行	No.	用語	解説
	22	生活習慣病	食事や運動・喫煙・飲酒・ストレスなどの生活習慣が原因で起こる疾患の総称。重篤な疾患の要因となる。日本人の3大死因であるがん・脳血管疾患・心疾患、更に脳血管疾患や心疾患の危険因子となる動脈硬化症・糖尿病・高血圧症・脂質異常症などはいずれも生活習慣病であるとされている。
	23	積極的支援	腹囲とBMIから、内臓脂肪蓄積のリスクありと判定された者のうち、血圧高値・脂質異常・血糖高値・喫煙ありの追加リスクに2又は3以上該当した者に対して実施する特定保健指導。65歳以上75歳未満の者については「積極的支援」の対象となった場合でも「動機付け支援」とする。
た行	24	中性脂肪	肉や魚・食用油など食品中の脂質や、体脂肪の大部分を占める物質。単に脂肪とも呼ばれる。
	25	動機付け支援	腹囲とBMIから、内臓脂肪蓄積のリスクありと判定された者のうち、血圧高値・脂質異常・血糖高値・喫煙ありの追加リスクに1又は2つ該当した者に対して実施する特定保健指導。
	26	糖尿病	インスリンの作用不足により高血糖が慢性的に続く病気。網膜症・腎症・神経障害の3大合併症をしばしば伴う。
	27	糖尿病性腎症	糖尿病の合併症の一つ。高血糖状態が継続したことで腎臓の濾過装置である糸球体が障害され、腎機能の著しい低下を認める。一度低下した腎機能の回復は難しく、進行すると人工透析が必要となる場合も多い。
	28	特定健康診査	高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、40歳～74歳の方を対象として、保険者が実施することになっている健診。メタボリックシンドロームの対策が目的の一つとなっているために、俗に「メタボ健診」と言われることもある。
	29	特定健康診査等実施計画	保険者が特定健診・特定保健指導の実施に当たって、その規模、加入者の年齢構成、保健事業の体制・人材等のリソース、地域的条件等を考慮し、あらかじめ実施率目標や実施方法等を定めることで、事業を効率的・効果的に実施し、その実施状況の評価ができるよう、作成する計画。
な行	30	特定保健指導	特定健康診査の結果に基づき、主にメタボリックシンドロームの予防や解消を目的に行われる健康支援のこと。メタボリックシンドロームの人には「積極的支援」、その予備群には「動機付け支援」、それ以外の受診者には「情報提供」が行われる。
	31	日本再興戦略	平成25年6月に閣議決定された、規制緩和等によって、民間企業や個人が真の実力を発揮するための方策をまとめたものであり、日本経済を持続的成長に導く道筋を示す戦略。

行	No.	用語	解説
	32	尿酸	細胞内の核に含まれるプリン体が分解される際に生じる老廃物。
	33	脳血管疾患	脳の動脈硬化が進み、脳の血管が詰まったり破れたりする病気の総称。
は行	34	BMI	体格指数の一つで、肥満度を表す指標として国際的に用いられている。肥満や低体重（やせ）の判定に用いられ、体重（kg）/身長（m ² ）で算出される。
	35	PDCAサイクル	「Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）」という一連のプロセスを繰り返し行うことで、業務の改善や効率化を図る手法の一つ。
	36	標準化死亡比（SMR）	基準死亡率（人口10万対の死亡者数）を対象地域に当てはめた場合に、計算により求められる期待される死亡者数と実際に観察された死亡者数を比較するもの。国の平均を100としており、標準化死亡比が100以上の場合は国の平均より死亡率が高いと判断され、100以下の場合は死亡率が低いと判断される。
	37	腹囲	へその高さで計る腰回りの大きさ。内臓脂肪の蓄積の目安とされ、メタボリックシンドロームを診断する指標の一つ。
	38	平均自立期間	要介護2以上を「不健康」と定義して、平均余命からこの不健康期間を除いたもので、0歳の人が必要介護2の状態になるまでの期間。
	39	平均余命	ある年齢の人々が、その後何年生きられるかの期待値であり、本計画書では0歳での平均余命を示している。
	40	HbA1c	赤血球の中にあるヘモグロビンA（HbA）にグルコース（血糖）が非酵素的に結合したもの。糖尿病の過去1～3か月のコントロール状態の評価を行う上での重要な指標。
	41	未治療者	健診受診者のうち、受診勧奨対象者かつ健診実施から6か月以内に医療機関を受診していない者。
ま行	42	メタボリックシンドローム	内臓肥満に高血圧・高血糖・脂質代謝異常が組み合わさることにより、心臓病や脳卒中などになりやすい病態のこと。単に腹囲が大きいだけでは、メタボリックシンドロームには当てはまらない。
	43	有所見者	特定健診受診者のうち、異常の所見のあった者。